

# 桐生市男女共同参画 市民意識調査報告書

令和2年2月

桐生市

# 目 次

## 1 調査の概要と回答者の構成

(1) 調査の概要	1
1) 調査の目的	1
2) 調査の方法	1
3) 調査内容・質問項目	1
4) 回収結果	2
5) 本報告書の見方	2
(2) 回答者の構成	3
1) 性別	4
2) 年齢	4
3) 職業等	5
4) 結婚暦	5
5) 共働き	6
6) 家族構成	6
(3) 要約	7

## 2 調査結果

(1) 男女平等意識について	11
問 1・2 性別役割分業意識	11
問 3・4 男女の地位の平等感	13
(2) 結婚観・家庭生活について	22
問5 結婚や子どもに関する意識	22
問6 子育ての方針	26
問7 家事等の役割分担状況	27
(3) 仕事・職場について	38
問8 職場での男女差の実態	38
問9 女性が社会で働くことに対する考え	39
問10 女性の就業継続・再就職のために必要なこと	40
(4) ワーク・ライフ・バランスについて	40
問11・12 時間の使い方について	40
問13 男性の家事・育児・介護のために必要なこと	43
(5) 社会参画について	44
問14・15 地域活動への参画状況	44
問16 防災・災害対策についての考え	46

(6) 女性の活躍推進について .....	47
問17 今後の女性増加を望む職業・役職 .....	47
問18 政策や意思決定の場への女性参画促進について .....	48
(7) 人権について .....	49
問19 配偶者間等の男女間の暴力(DV)の経験 .....	49
問20・21 配偶者間等の男女間の暴力(DV)の相談状況 .....	57
問22 セクシュアル・ハラスメントの経験 .....	59
問23 差別や人権侵害の経験 .....	62
(8) 男女共同参画施策について .....	63
問24 言葉、法律、市の施策の認知度 .....	63
問25 男女共同参画社会実現のために注力すべきこと .....	67
(9) 自由意見 .....	68

### 3 参考資料

「男女共同参画に関する市民意識調査」調査票

# 1 調査の概要と回答者の構成

## (1) 調査の概要

### 1) 調査の目的

桐生市における男女共同参画の現状と、市民の意識を把握し、男女共同参画行政施策の基本資料とする。

### 2) 調査の方法

- ①対象: 満18歳以上の男女 1,200人
- ②抽出方法: 住民基本台帳より男600人、女600人を無作為抽出
- ③調査方法: 調査票を郵送し、返信用封筒にて回収
- ④期間: 令和元年6月～7月

### 3) 調査内容・質問項目

分類	質問項目
(1)男女平等意識について	問1・2 性別役割分業意識
	問3・4 男女の地位の平等感
(2)結婚観・家庭生活について	問5 結婚や子どもに関する意識
	問6 子育ての方針
	問7 家事等の役割分担状況
(3)仕事・職場について	問8 職場での男女差の実態
	問9 女性が社会で働くことに対する考え
	問10 女性の就業継続・再就職のために必要なこと
(4)ワーク・ライフ・バランスについて	問11・12 時間の使い方について
	問13 男性の家事・育児・介護のために必要なこと
(5)社会参画について	問14・15 地域活動への参画状況
	問16 防災・災害対策についての考え
(6)女性の活躍推進について	問17 今後の女性増加を望む職業・役職
	問18 政策や意思決定の場への女性参画促進について
(7)人権について	問19 配偶者間等の男女間の暴力(DV)の経験
	問20・21 配偶者間等の男女間の暴力(DV)の相談状況
	問22 セクシュアル・ハラスメントの経験
	問23 差別や人権侵害の経験
(8)男女共同参画施策について	問24 言葉、法律、市の施策の認知度
	問25 男女共同参画社会実現のために注力すべきこと
自由意見	

#### 4) 回収結果

配布数	回収数	回収率
1,200	405	33.8%

#### 5) 本報告書の見方

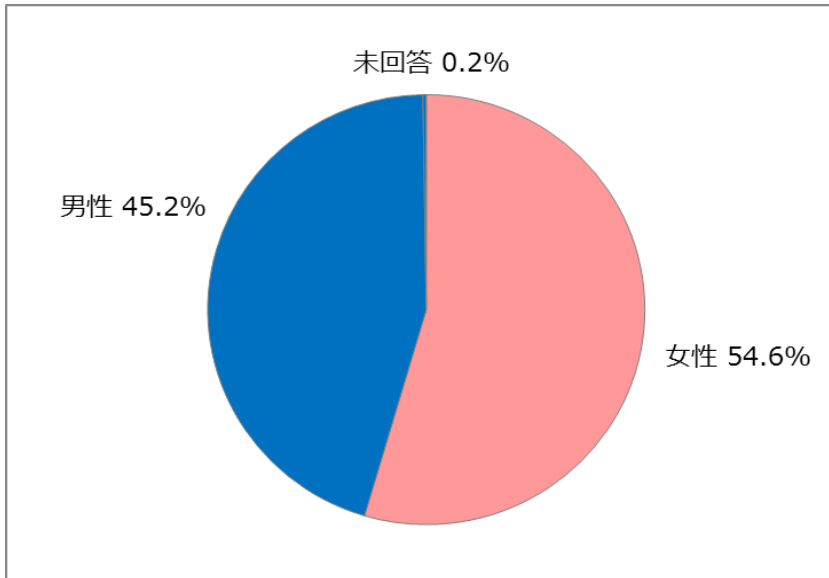
- ①集計はそれぞれの質問の回答者数を基礎とした百分率(%)で示している。
- ②百分率(%)は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までの表示とした関係で、合計は100%とならない場合がある。
- ③複数回答(2つ以上回答してよい質問)の場合は、各回答の合計が100%を超える場合がある。
- ④男女別の統計においては、性別未回答者は含まないものとする。
- ⑤前回調査との比較を行った項目では、平成27年度の意識調査との比較をしたものである。設問の表現や選択肢の文面等が変わったものについては、類似の設問との比較をした。

## (2) 回答者の構成(人)

属性		女性	男性	未回答	計
年齢	10歳代	5	5	0	10
	20歳代	25	16	0	41
	30歳代	38	23	0	61
	40歳代	31	31	0	62
	50歳代	47	25	0	72
	60歳代	25	30	0	55
	70歳代	34	40	1	75
	80歳代以上	16	13	0	29
	計	221	183	1	405
職業等	自営業	17	22	0	39
	勤め人(常勤)	67	74	0	141
	勤め人(非常勤)	47	14	0	61
	会社・団体役員	8	16	0	24
	専業主婦・専業主夫	37	0	0	37
	学生	9	5	0	14
	無職	33	51	1	85
	その他	2	0	0	2
	未回答	1	1	0	2
	計	221	183	1	405
結婚暦	既婚(配偶者あり)	130	123	1	254
	パートナーと同居(事実婚)	2	3	0	5
	死別・離別	33	17	0	50
	未婚	56	39	0	95
	未回答	0	1	0	1
	計	221	183	1	405
共働き	共働き	70	71	0	141
	どちらか1人だけ働いている	34	22	0	56
	両方働いていない	24	30	1	55
	未回答	4	3	0	7
	計	132	126	1	259
家族構成	一人世帯	30	29	0	59
	夫婦のみ(事実婚含む)	44	51	0	95
	二世帯世帯	127	83	1	211
	三世帯世帯	15	17	0	32
	その他	2	3	0	5
	未回答	3	0	0	3
	計	221	183	1	405

1) 性別

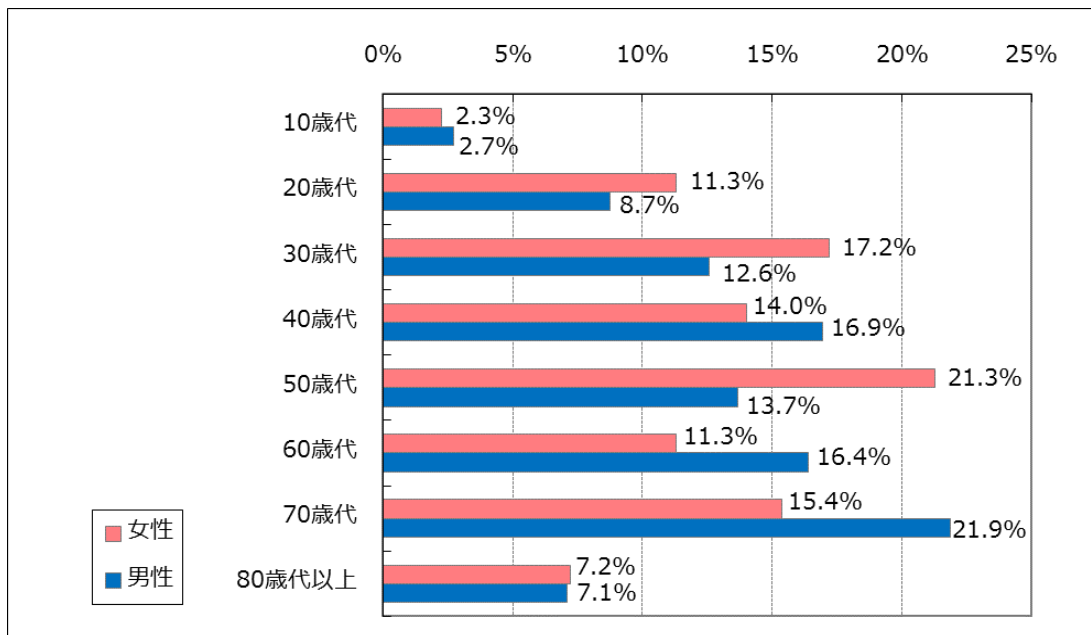
総数 405人



男女比は、女性54.6%、男性45.2%で女性のほうがやや多かった。未回答者は0.2%だった。

2) 年齢

総数 404人

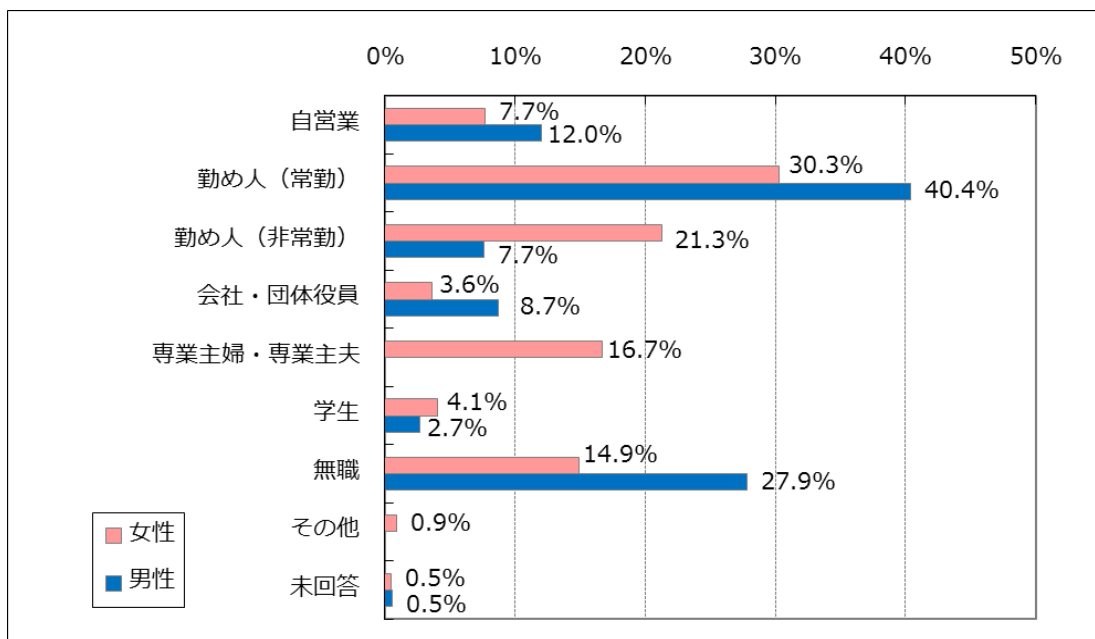


年齢は、女性は50歳代、男性は70代が最も多かった。



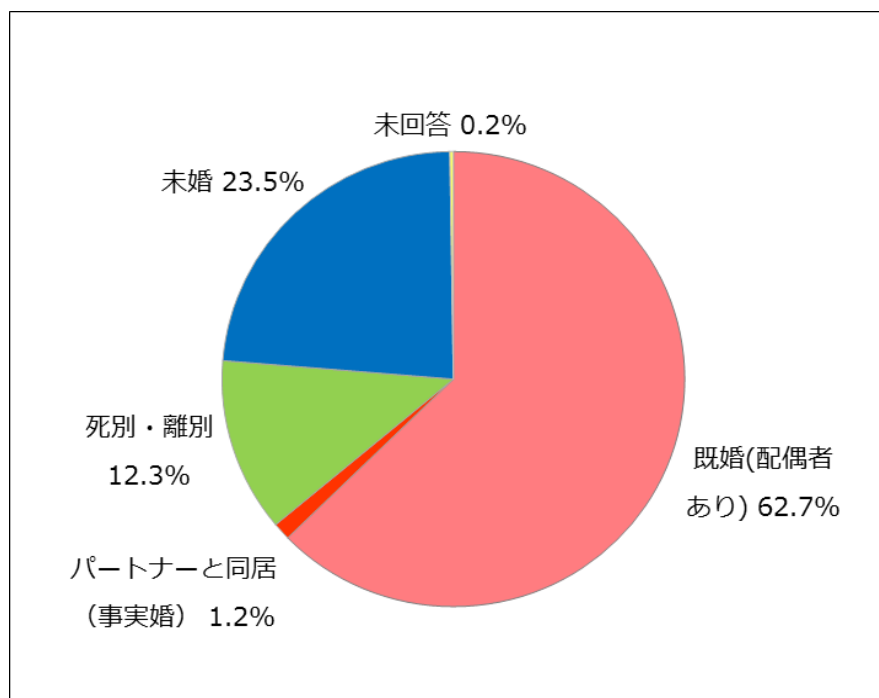
### 3) 職業等

総数 404人



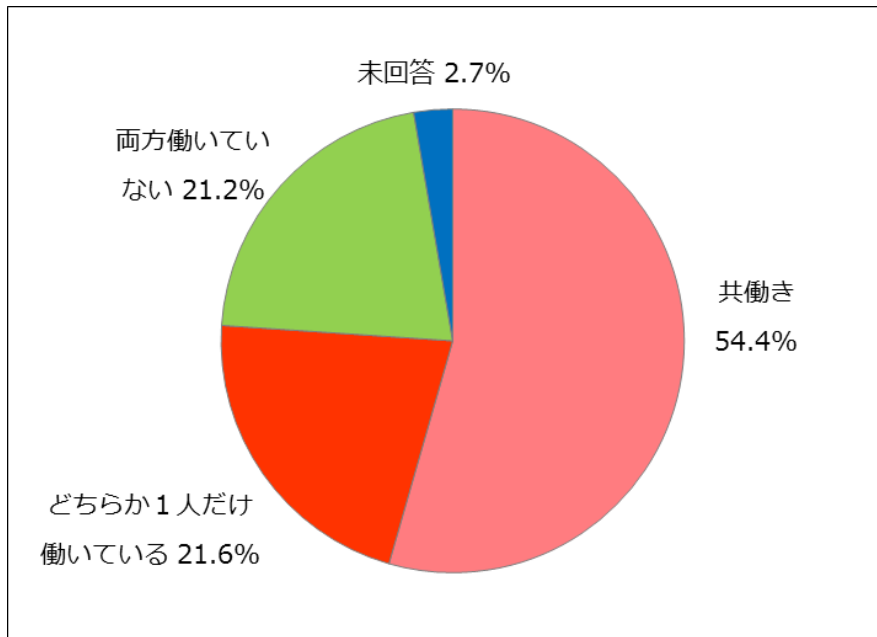
### 4) 結婚暦

総数 405人



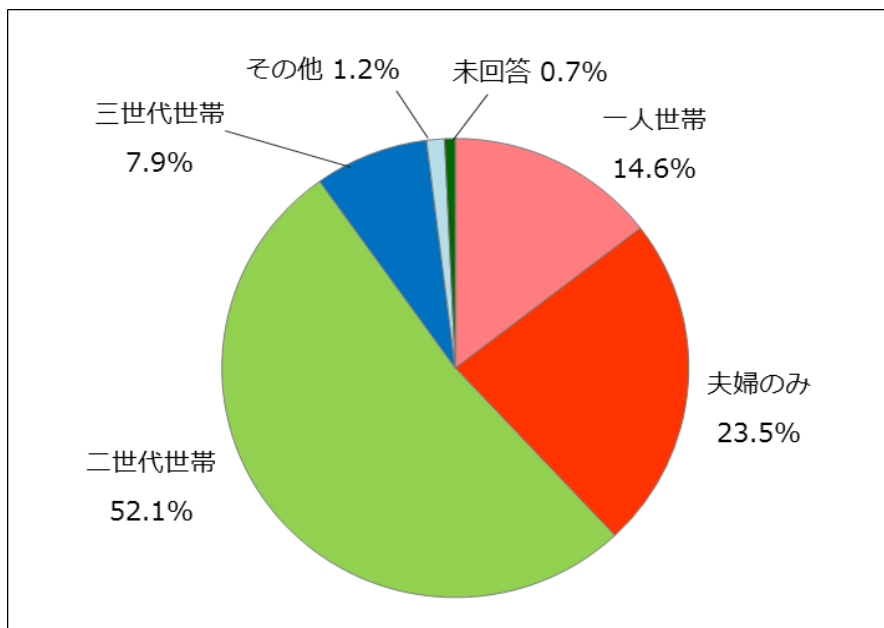
5) 共働き（既婚・パートナーと同居の人のみ回答）

総数 259人



6) 家族構成

総数 405人



### (3) 要約

#### (1) 男女平等意識について

##### <性別役割分業意識>

- ◇問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたは賛成ですか。反対ですか。」という設問に対して、『反対』『どちらかといえば反対』と回答した人の割合は47.5%で、『賛成』『どちらかといえば賛成』の17.7%を大幅に上回った。『どちらともいえない』は34.8%であった。
- ◇問2 問1で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した理由については、全体でも男女別でも『男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから』と回答した人が6割を超えた。また、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した理由については、全体でも男女別でも『誰がどのような役割を担うかは夫婦や家族で決めるものだから』と回答した人の割合が6割を超えた。

##### <男女の地位の平等感>

- ◇問3 各場面における男女平等意識について、「学校教育の場」「地域活動の場」については『平等である』と回答した人の割合が最も高かったが、その他の場面においてはすべて『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が最も高かった。特に、「政治の場」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体」では特に高かった。前回調査より大きな傾向の変化はなかった。
- 男女別では、女性は「学校教育の場」を除くすべての項目において『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が最も高かったが、男性は「職場」「政治の場」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体」の項目については、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）が最も高く、その他の項目では『平等』が最も高かった。
- ◇問4 特に男性優遇または女性優遇であると感じることについては、男性優遇なこととして、『女性議員が少ない』、『家事や育児の大半を女性が担っている』、『女性管理職が少ない』と回答した人が多かった。また、女性優遇なこととしては、『男性の育児休暇等の取得が女性に比べて困難』や『女性専用〇〇が多い』との回答があった。

#### (2) 結婚観・家庭生活について

##### ◇問5 結婚や子どもに関する意識

「①結婚は個人の自由だから、しなくてもどちらでもよい」、「③結婚したら、自分自身のことより家族を中心に考えて生活したほうがよい」、「④結婚しても、うまくいかなければ、離婚してもよい」の3項目については、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合がいずれも7割を超えた。また、「②結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」という設問について、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合も61.1%で前回調査(51.8%)よりも回答した人の割合が上昇した。

##### ◇問6 子育ての方針

子育てについて、『男女わけへだてなく育てるのがよい』と回答した人の割合は72.1%で、前回調査結果(67.3%)より上昇し、一方で『男は男らしく、女は女らしく育てるのがよい』と回答した人の割合は前回の23.3%から15.4%へと下がった。

##### ◇問7 家事等の役割分担状況

「食事のしたく・片付け」「そうじ」「洗たく」については7割以上、「育児」「学校関連行事への参加」「家計管理」については5割以上の人が『主に妻』と回答した。一方で、「ゴミ出し」「生活費を稼ぐ」「家の中の簡単な修理」については、5割以上が『主に夫』と回答している。

男女別では、ほとんどの項目について、男性は『主に夫』・『夫婦同じ位』と回答している割合が女性よりも高く、女性は『主に妻』と回答している割合が男性よりも高かった。役割分担に関しては、男女間で認識の差異があると考えられる。

### (3) 仕事・職場について

#### ◇問8 職場での男女差の実態

職場で男女平等ではないと思うことについて、『昇進や昇格の機会』(42.9%)と回答した人の割合が最も高く、次いで『指導的地位(管理職など)への就きやすさ』(40.6%)が高かった。

#### ◇問9 女性が社会で働くことに対する考え

『結婚や出産などで一時仕事を辞めるが、子供が大きくなったら再び仕事を持つほうがよい』と回答した人の割合が44.5%で最も高かった。

#### ◇問10 女性の就業継続・再就職のために必要なこと

全体、男女別ともに『家族で家事・育児・介護などについて協力すること』と回答した人の割合が66.5%で最も高かった。

### (4) ワーク・ライフ・バランスについて

#### <時間の使い方について>

◇問11 ※仕事、家事、育児、介護、家族との時間、自分の時間、友人・恋人との時間、地域活動について費やしている時間に関する設問について、条件設定等に不備があり、適切な回答を得ることができなかったため、集計結果の公表は自粛。

◇問12 今最も確保したい時間について、全体、男女別ともに、『自分の時間』と回答した人の割合が最も高く、次いで『家族との時間』と回答した人の割合が高かった。また、時間を確保するために必要なこととしては、全体、男女別ともに、『効率の良い時間の使い方を身に付けること』と回答した人の割合が最も高く、次いで『夫や妻、パートナーの理解・協力』、『休暇の取りやすさ』と回答した人の割合が高かった。

#### ◇問13 男性の家事・育児・介護のために必要なこと

『夫婦やパートナー間、家族間でのコミュニケーションをよく行うこと』と回答した人の割合が49.0%で最も高く、次いで『男性が家事や育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(44.0%)、『労働時間の短縮や休暇を取りやすくし、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること』(42.7%)の順に高かった。

### (5) 社会参画について

#### <地域活動への参画状況>

◇問14 現在参加している地域活動や社会活動については、『活動していない』と回答した人の割合が48.1%で最も高く、次いで『趣味や教養、スポーツなどの活動』が30.4%だった

◇問15 活動しない理由としては、『興味がないから』と回答した人の割合が32.6%で最も高く、次いで『仕事が忙しいから』が32.0%だった。

#### ◇問16 防災・災害対策についての考え

『防災訓練や研修に男女ともに積極的に参加することが必要』と回答した人の割合が59.8%で最も高く、次いで『避難生活施設の運営に男女両方の視点が入ることが必要』(59.0%)、『男女別のニーズに配慮した、避難所などの運営マニュアルを作成することが必要』(38.6%)の順に回答した人の割合が高かった。

### (6) 女性の活躍推進について

#### ◇問17 今後の女性増加を望む職業・役職

『国会議員、県議会議員、市区町村議会議員』と回答した人の割合が58.1%で最も高く、次いで『医師』(53.3%)、『都道府県、市区町村の首長』(42.2%)の順で高かった。

◇問18 政策や意思決定の場への女性参画促進について

市の各種委員会など、政策や意思決定の場への女性の参画をさらに進めていくために必要なことについては、『女性議員を増やす』と回答した人の割合が41.2%で最も高く、次いで『家族や周りの人たちの協力と理解』(39.1%)、『女性自身が積極的に参画する』(36.2%)の順で高かった。

(7) 人権について

◇問19 配偶者間等の男女間の暴力(DV)の経験

夫や妻、パートナーなどの親しい関係における暴力について、暴力をふるった経験については、「身体的」、「精神的」、「性的」な暴力について、男性の方が割合が高かった。一方、暴力を受けた経験については、すべての暴力について、女性の方が割合が高かった。「精神的」な暴力については、暴力をふるった経験と暴力を受けた経験のどちらにおいても、最も割合が高く、どちらも2割近くの方が経験していることが分かった。

<配偶者間等の男女間の暴力(DV)の相談状況>

◇問20 暴力を受けた際にどこに相談したかについては、全体、男女別ともに、『どこにも相談しなかった』と回答した人の割合が最も高く、いずれも46%を超えた。次いで『家族や親戚』、『友人・知人』の順に高く、警察や相談機関などに相談する人の割合は低い現状が明らかとなった。

◇問21 暴力を受けた際、どこにも相談しなかった理由としては、『相談するほどでもなかったから』と回答した人の割合が40.5%で最も高く、次いで『自分が我慢すればいいと思ったから』が37.8%だった。

◇問22 セクシュアル・ハラスメントの経験

『受けたことがある』と回答した人の割合が最も高かったのは「②容姿について傷つくことを言われた」(20.5%)であり、次いで「③”女のくせに”、”男のくせに”と性差別的な言い方をされた」(18.9%)であった。

女性については、「②容姿について傷つくことを言われた」、「③”女のくせに”、”男のくせに”と性差別的な言い方をされた」、「④お酒の席でお酌やデュエットを強要された」、「⑤不必要に体を触られた」、「⑧結婚や出産などプライベートなことをたびたび聞かれた」の5項目について、『受けたことがある』と回答した人の割合が2割を超え、すべての項目について、男性より女性の方が『受けたことがある』と回答した人の割合が高かった。

男性についても、「②容姿について傷つくことを言われた」、「③”女のくせに”、”男のくせに”と性差別的な言い方をされた」の2項目について、『受けたことがある』と回答した人が1割を超えており、性別にかかわらず、セクシュアル・ハラスメントを受けていることが分かった。

◇問23 差別や人権侵害の経験

『女性に対する差別』と回答した人の割合が49.4%で最も高く、次いで『子どもへのいじめ・虐待』が41.6%だった。

(8) 男女共同参画施策について

◇問24 言葉、法律、市の施策の認知度

『知っている』と回答した人の割合が最も高かったのは「男女雇用機会均等法」(51.9%)で、次いで、「育児・介護休業法」(41.4%)、「LGBT」(36.6%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)」(32.1%)の順に認知度が高かった。一方、『知っている』と回答した人の割合が最も低かったのは、「ポジティブアクション」(2.7%)で、次いで「桐生市男女共同参画情報紙はじめよう」(3.0%)、「桐生市男女共同参画計画」(6.7%)の順に低かった。

◇問25 男女共同参画社会実現のために注力すべきこと

『保育所や学童保育を充実する』と回答した人の割合が40.2%で最も高く、次いで『職場での男女平等の促進と労働条件の向上を図る』(38.6%)、『男女平等意識を深めるための学習機会、情報提供を充実する』(37.5%)の順に高かった。

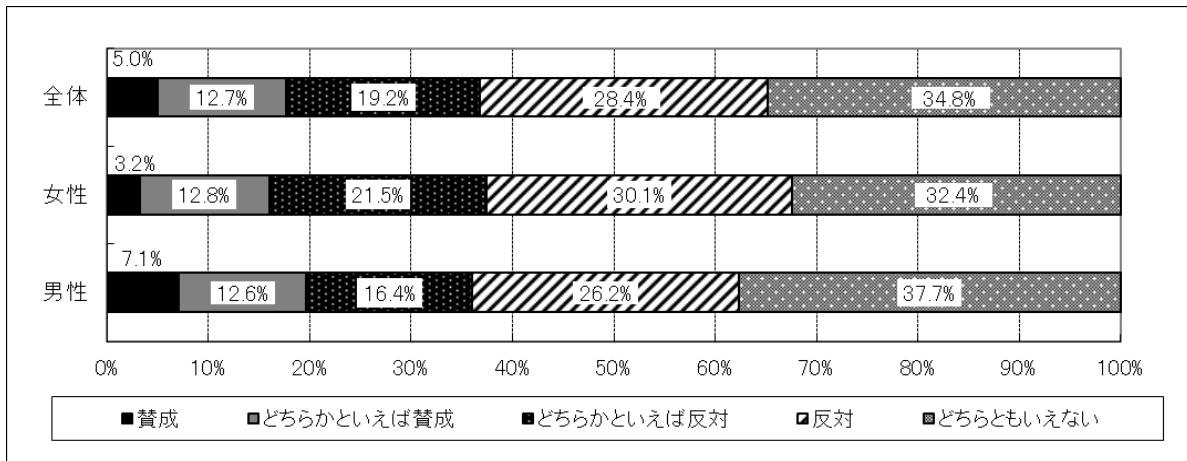


## 2 調査結果

## (1) 男女平等意識について

<性別役割分業意識>

問1「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたは賛成ですか。反対ですか。(1つのみ選択)



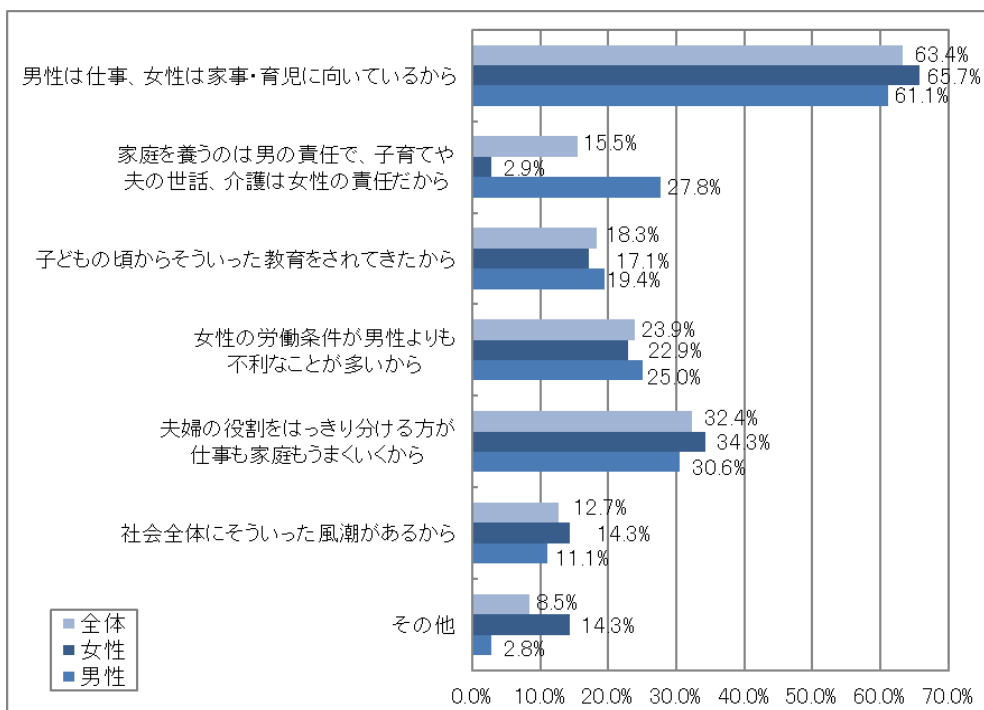
	賛成	どちらかとい えば賛成	(賛成の 計)	どちらかとい えば反対	反対	(反対の 計)	どちらとも いえない
全体	5.0%	12.7%	17.7%	19.2%	28.4%	47.5%	34.8%
女性	3.2%	12.8%	16.0%	21.5%	30.1%	51.6%	32.4%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	40.0%	60.0%	40.0%
20歳代	0.0%	12.0%	12.0%	24.0%	28.0%	52.0%	36.0%
30歳代	2.6%	13.2%	15.8%	26.3%	34.2%	60.5%	23.7%
40歳代	6.7%	13.3%	20.0%	23.3%	23.3%	46.7%	33.3%
50歳代	0.0%	17.4%	17.4%	19.6%	37.0%	56.5%	26.1%
60歳代	4.0%	4.0%	8.0%	24.0%	32.0%	56.0%	36.0%
70歳代	5.9%	11.8%	17.6%	11.8%	23.5%	35.3%	47.1%
80歳代以上	6.3%	18.8%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	25.0%
男性	7.1%	12.6%	19.7%	16.4%	26.2%	42.6%	37.7%
10歳代	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	40.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	12.5%	25.0%	75.0%
30歳代	4.3%	0.0%	4.3%	17.4%	52.2%	69.6%	26.1%
40歳代	3.2%	9.7%	12.9%	16.1%	19.4%	35.5%	51.6%
50歳代	4.0%	24.0%	28.0%	20.0%	24.0%	44.0%	28.0%
60歳代	3.3%	6.7%	10.0%	16.7%	33.3%	50.0%	40.0%
70歳代	10.0%	20.0%	30.0%	15.0%	22.5%	37.5%	32.5%
80歳代以上	30.8%	30.8%	61.5%	23.1%	7.7%	30.8%	7.7%

◆全体では、『反対』『どちらかといえば反対』と回答した人の割合は47.5%で、『賛成』『どちらかといえ  
ば賛成』の17.7%を大幅に上回った。『どちらともいえない』は34.8%であった。

◆前回調査と比較すると、『反対』『どちらかといえば反対』と回答した人の割合はほぼ横ばい(47.4%  
→47.5%)となったが、『賛成』『どちらかといえば賛成』は22.1%から17.7%へ下がり、『どちらともい  
えない』(前回調査では『わからない』)は30.5%から34.8%へと上昇した。

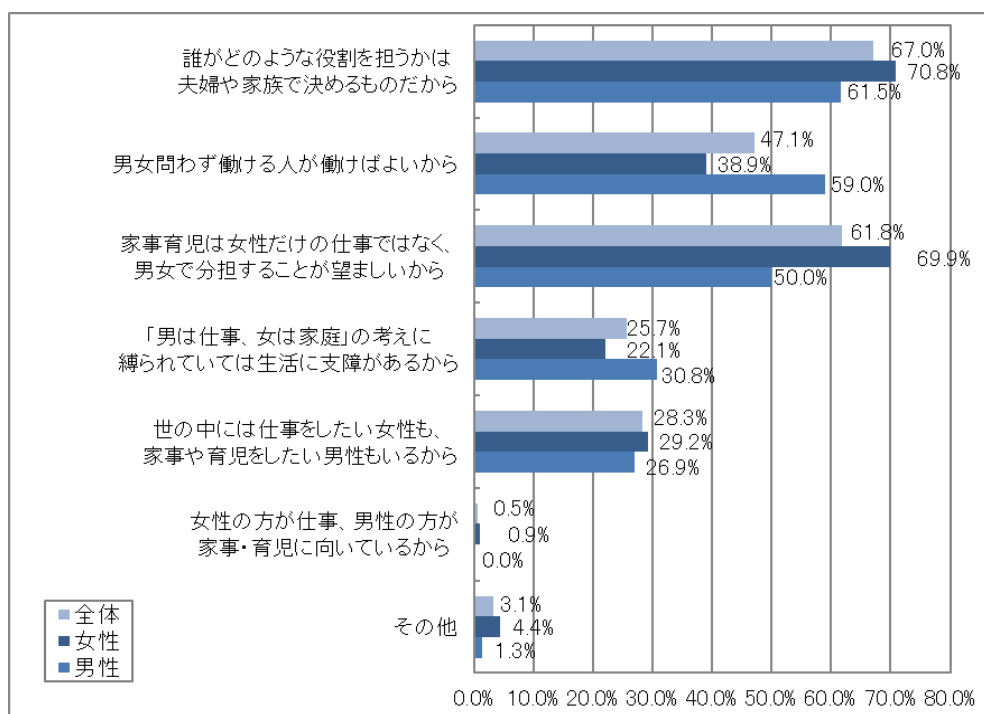


問2-1 問1で「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した理由は何ですか。(3つまで選択)



◆全体でも男女別でも、『男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから』という回答した人の割合が6割を超えた。

問2-2 問1で「反対」または「どちらかという反対」と回答した理由は何ですか。(3つまで選択)

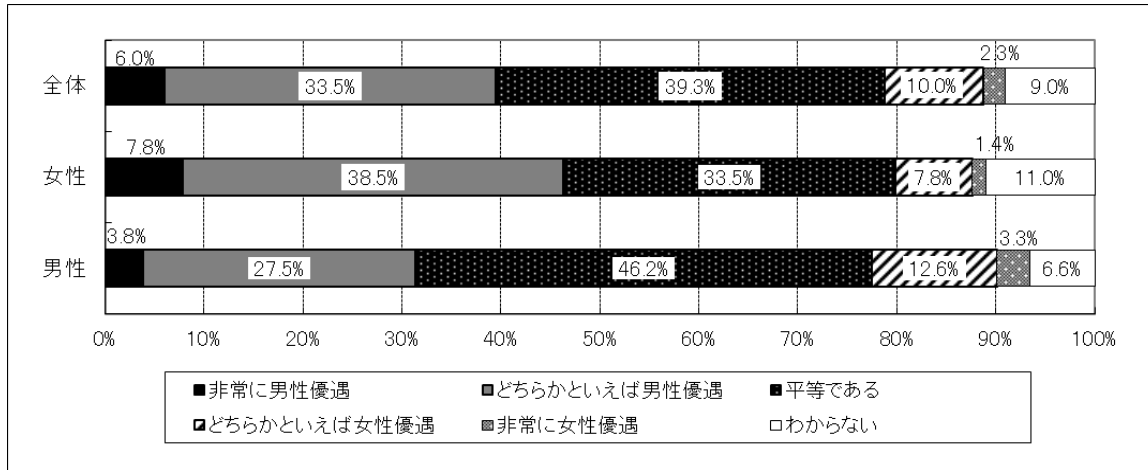


◆全体でも男女別でも、『誰がどのような役割を担うかは夫婦や家族で決めるものだから』と回答した人の割合が6割を超えて最も高く、次いで『家事育児は女性だけの仕事ではなく、男女で分担することが望ましいから』と回答した人の割合が高かった。

<男女の地位の平等感>

問3 以下における「男女の地位の平等感」について、あなたはどのように思いますか。(各項目1つ選択)

① 家庭生活

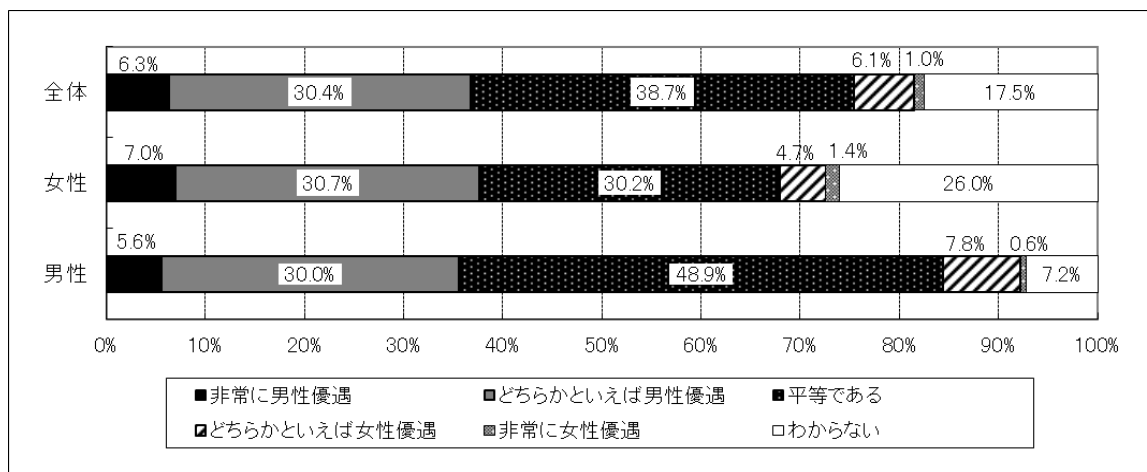


	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
全体	6.0%	33.5%	39.5%	39.3%	10.0%	2.3%	12.3%	9.0%
女性	7.8%	38.5%	46.3%	33.5%	7.8%	1.4%	9.2%	11.0%
10歳代	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%
20歳代	4.0%	36.0%	40.0%	48.0%	4.0%	4.0%	8.0%	4.0%
30歳代	5.3%	28.9%	34.2%	34.2%	18.4%	0.0%	18.4%	13.2%
40歳代	16.7%	43.3%	60.0%	26.7%	3.3%	0.0%	3.3%	10.0%
50歳代	6.5%	30.4%	37.0%	34.8%	6.5%	4.3%	10.9%	17.4%
60歳代	12.0%	48.0%	60.0%	24.0%	4.0%	0.0%	4.0%	12.0%
70歳代	0.0%	48.5%	48.5%	36.4%	6.1%	0.0%	6.1%	9.1%
80歳代以上	18.8%	43.8%	62.5%	31.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%
男性	3.8%	27.5%	31.3%	46.2%	12.6%	3.3%	15.9%	6.6%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
20歳代	0.0%	12.5%	12.5%	81.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.3%
30歳代	0.0%	17.4%	17.4%	30.4%	30.4%	13.0%	43.5%	8.7%
40歳代	3.2%	16.1%	19.4%	54.8%	12.9%	6.5%	19.4%	6.5%
50歳代	4.0%	28.0%	32.0%	48.0%	16.0%	0.0%	16.0%	4.0%
60歳代	3.3%	33.3%	36.7%	33.3%	23.3%	0.0%	23.3%	6.7%
70歳代	5.0%	40.0%	45.0%	42.5%	2.5%	2.5%	5.0%	7.5%
80歳代以上	16.7%	50.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『男性優遇』(『非常に』と『どちらかといえば』の計)と回答した人の割合が39.5%、『平等』が39.3%、『女性優遇』(『非常に』と『どちらかといえば』の計)は12.3%であった。前回調査と比較して、『男性優遇』の割合が下がり(45.5%→39.5%)、『平等』の割合が上昇した(33.4%→39.3%)。

◆男女別では、女性は『男性優遇』(『非常に』と『どちらかといえば』の計)と回答した人の割合が46.3%で最も高いのに対し、男性は『平等である』が46.2%で最も高かった。

## ② 地域活動の場

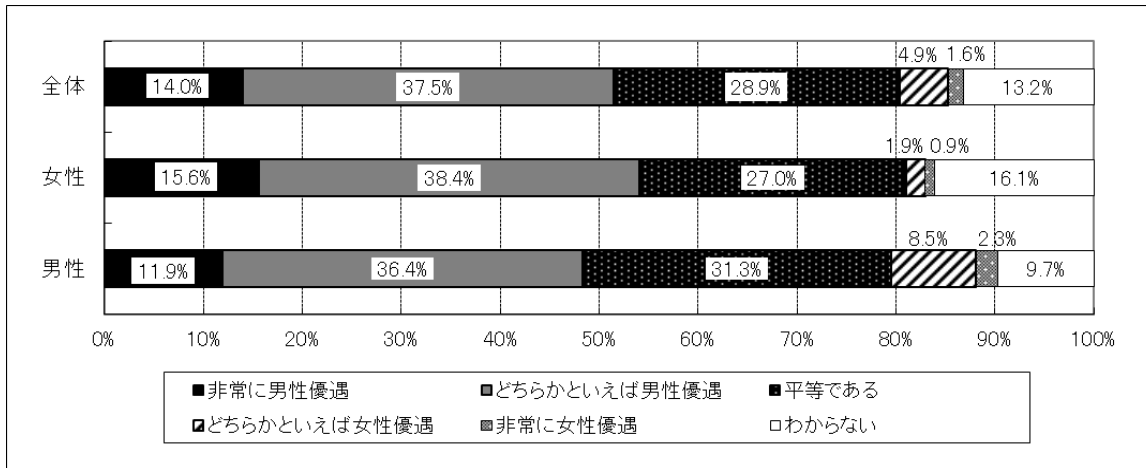


	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
全体	6.3%	30.4%	36.7%	38.7%	6.1%	1.0%	7.1%	17.5%
女性	7.0%	30.7%	37.7%	30.2%	4.7%	1.4%	6.0%	26.0%
10歳代	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	0.0%	20.0%	20.0%	48.0%	8.0%	0.0%	8.0%	24.0%
30歳代	2.6%	18.4%	21.1%	31.6%	13.2%	0.0%	13.2%	34.2%
40歳代	12.9%	38.7%	51.6%	19.4%	3.2%	0.0%	3.2%	25.8%
50歳代	4.3%	41.3%	45.7%	21.7%	4.3%	4.3%	8.7%	23.9%
60歳代	16.0%	32.0%	48.0%	36.0%	0.0%	4.0%	4.0%	12.0%
70歳代	9.7%	35.5%	45.2%	19.4%	0.0%	0.0%	0.0%	35.5%
80歳代以上	7.1%	21.4%	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
男性	5.6%	30.0%	35.6%	48.9%	7.8%	0.6%	8.3%	7.2%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%
20歳代	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	12.5%	0.0%	12.5%	12.5%
30歳代	4.3%	39.1%	43.5%	26.1%	17.4%	4.3%	21.7%	8.7%
40歳代	3.2%	35.5%	38.7%	45.2%	9.7%	0.0%	9.7%	6.5%
50歳代	0.0%	32.0%	32.0%	56.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%
60歳代	3.3%	23.3%	26.7%	66.7%	3.3%	0.0%	3.3%	3.3%
70歳代	13.2%	23.7%	36.8%	50.0%	7.9%	0.0%	7.9%	5.3%
80歳代以上	16.7%	50.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が36.7%、『平等』が38.7%、『女性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）は7.1%であった。

◆男女別では、女性は『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が37.7%で最も高いのに対し、男性は『平等である』の割合が48.9%で最も高かった。また、女性では『わからない』と回答した人の割合が26.0%と、男性の7.2%と比較するとかなり高い結果となった。

③ 職場

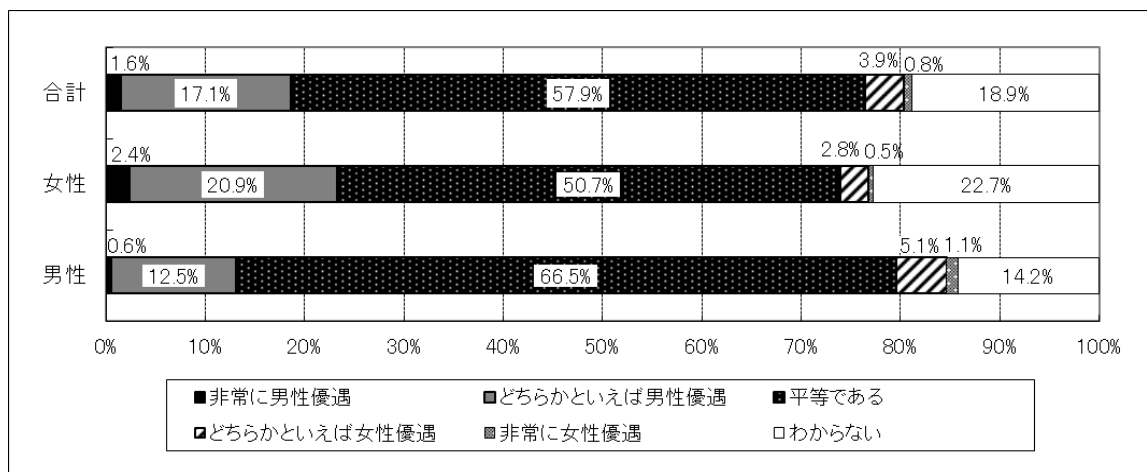


	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
全体	14.0%	37.5%	51.4%	28.9%	4.9%	1.6%	6.5%	13.2%
女性	15.6%	38.4%	54.0%	27.0%	1.9%	0.9%	2.8%	16.1%
10歳代	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	4.0%	48.0%	52.0%	32.0%	4.0%	0.0%	4.0%	12.0%
30歳代	21.1%	42.1%	63.2%	21.1%	2.6%	0.0%	2.6%	13.2%
40歳代	25.8%	35.5%	61.3%	29.0%	3.2%	0.0%	3.2%	6.5%
50歳代	10.9%	45.7%	56.5%	32.6%	2.2%	4.3%	6.5%	4.3%
60歳代	12.5%	37.5%	50.0%	29.2%	0.0%	0.0%	0.0%	20.8%
70歳代	16.7%	30.0%	46.7%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%
80歳代以上	16.7%	16.7%	33.3%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	41.7%
男性	11.9%	36.4%	48.3%	31.3%	8.5%	2.3%	10.8%	9.7%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	6.3%	50.0%	56.3%	18.8%	6.3%	0.0%	6.3%	18.8%
30歳代	17.4%	30.4%	47.8%	26.1%	13.0%	8.7%	21.7%	4.3%
40歳代	12.9%	38.7%	51.6%	19.4%	16.1%	3.2%	19.4%	9.7%
50歳代	4.0%	40.0%	44.0%	44.0%	8.0%	0.0%	8.0%	4.0%
60歳代	6.7%	40.0%	46.7%	36.7%	10.0%	3.3%	13.3%	3.3%
70歳代	16.2%	32.4%	48.6%	35.1%	2.7%	0.0%	2.7%	13.5%
80歳代以上	33.3%	33.3%	66.7%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%

◆全体では、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が51.4%と最も高く、『平等』は28.9%、『女性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）は6.5%であった。前回調査と比較して、傾向の変化は見られなかった。

◆男女別では、どちらも『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が最も高かったが、女性は男性よりも『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が高く、『女性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が低かった。

#### ④ 学校教育の場

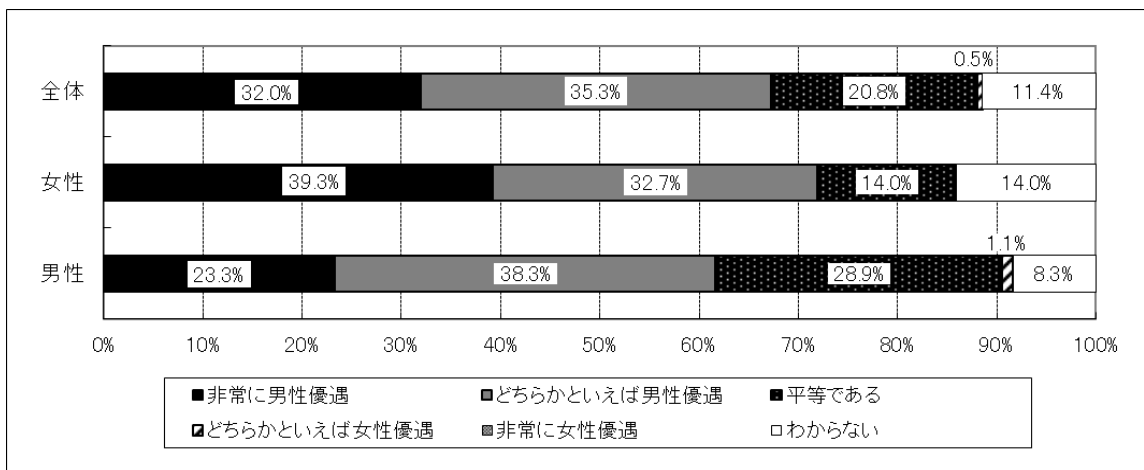


	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
<b>全体</b>	<b>1.6%</b>	<b>17.1%</b>	<b>18.6%</b>	<b>57.9%</b>	<b>3.9%</b>	<b>0.8%</b>	<b>4.7%</b>	<b>18.9%</b>
<b>女性</b>	<b>2.4%</b>	<b>20.9%</b>	<b>23.2%</b>	<b>50.7%</b>	<b>2.8%</b>	<b>0.5%</b>	<b>3.3%</b>	<b>22.7%</b>
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%
20歳代	0.0%	28.0%	28.0%	48.0%	4.0%	0.0%	4.0%	20.0%
30歳代	0.0%	24.3%	24.3%	59.5%	2.7%	0.0%	2.7%	13.5%
40歳代	3.2%	19.4%	22.6%	54.8%	0.0%	0.0%	0.0%	22.6%
50歳代	2.1%	14.9%	17.0%	55.3%	4.3%	0.0%	4.3%	23.4%
60歳代	4.0%	28.0%	32.0%	40.0%	4.0%	4.0%	8.0%	20.0%
70歳代	7.4%	22.2%	29.6%	29.6%	0.0%	0.0%	0.0%	40.7%
80歳代以上	0.0%	14.3%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%
<b>男性</b>	<b>0.6%</b>	<b>12.5%</b>	<b>13.1%</b>	<b>66.5%</b>	<b>5.1%</b>	<b>1.1%</b>	<b>6.3%</b>	<b>14.2%</b>
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	0.0%	18.8%	18.8%	56.3%	6.3%	0.0%	6.3%	18.8%
30歳代	0.0%	21.7%	21.7%	47.8%	8.7%	4.3%	13.0%	17.4%
40歳代	0.0%	16.1%	16.1%	61.3%	9.7%	0.0%	9.7%	12.9%
50歳代	0.0%	12.0%	12.0%	60.0%	8.0%	0.0%	8.0%	20.0%
60歳代	0.0%	6.7%	6.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
70歳代	0.0%	11.4%	11.4%	71.4%	2.9%	2.9%	5.7%	11.4%
80歳代以上	9.1%	0.0%	9.1%	72.7%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%

◆全体では、『平等』と回答した人の割合が57.9%と最も高く、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）が18.6%、『女性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）が4.7%であった。前回調査と比較して、傾向の変化は見られなかった。

◆男女別では、どちらも『平等』と回答した人の割合が最も高かった。前回調査と比較すると、男性は『わからない』と回答した人の割合が下がり（20.7%→14.2%）、『平等』が56.0%から66.5%へと大幅に上昇した。また、女性については、『平等』と回答した人の割合が下がり（55.6%→50.7%）、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）が上昇した（14.3%→23.2%）。

⑤ 政治の場

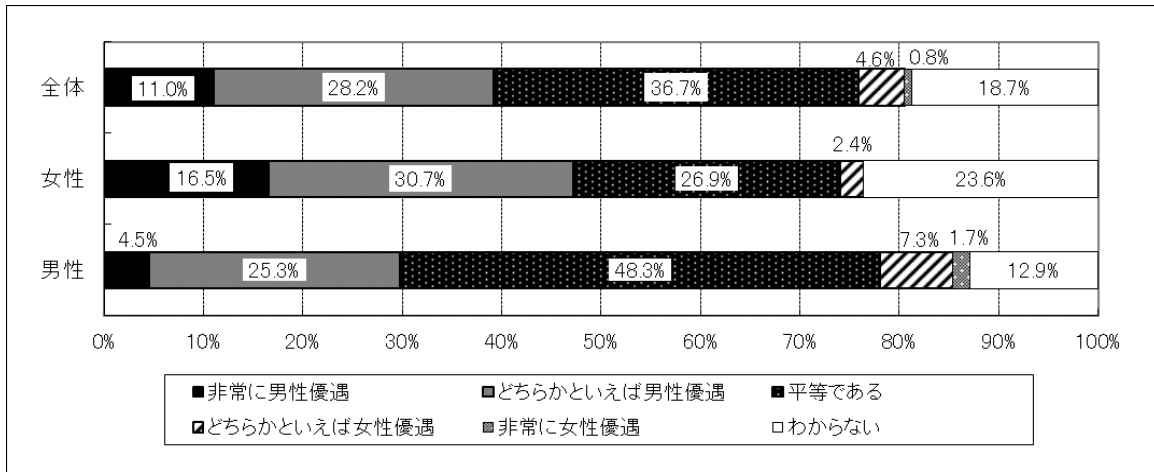


	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
全体	32.0%	35.3%	67.3%	20.8%	0.5%	0.0%	0.5%	11.4%
女性	39.3%	32.7%	72.0%	14.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.0%
10歳代	40.0%	40.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
20歳代	36.0%	36.0%	72.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.0%
30歳代	52.6%	31.6%	84.2%	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%
40歳代	48.4%	19.4%	67.7%	16.1%	0.0%	0.0%	0.0%	16.1%
50歳代	42.6%	34.0%	76.6%	14.9%	0.0%	0.0%	0.0%	8.5%
60歳代	36.0%	32.0%	68.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
70歳代	24.1%	41.4%	65.5%	13.8%	0.0%	0.0%	0.0%	20.7%
80歳代以上	14.3%	35.7%	50.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%
男性	23.3%	38.3%	61.7%	28.9%	1.1%	0.0%	1.1%	8.3%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
20歳代	37.5%	31.3%	68.8%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%
30歳代	17.4%	65.2%	82.6%	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代	35.5%	25.8%	61.3%	22.6%	3.2%	0.0%	3.2%	12.9%
50歳代	24.0%	36.0%	60.0%	32.0%	4.0%	0.0%	4.0%	4.0%
60歳代	20.0%	46.7%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
70歳代	18.4%	36.8%	55.3%	34.2%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%
80歳代以上	16.7%	33.3%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%

◆全体では、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が67.3%で最も高く、次いで『平等』が20.8%であった。前回調査と比較して、傾向の変化はみられなかった。

◆男女別では、男女ともに『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が最も高かったが、女性は男性よりも『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が高く、『平等』の割合が低かった。

⑥ 法律や制度

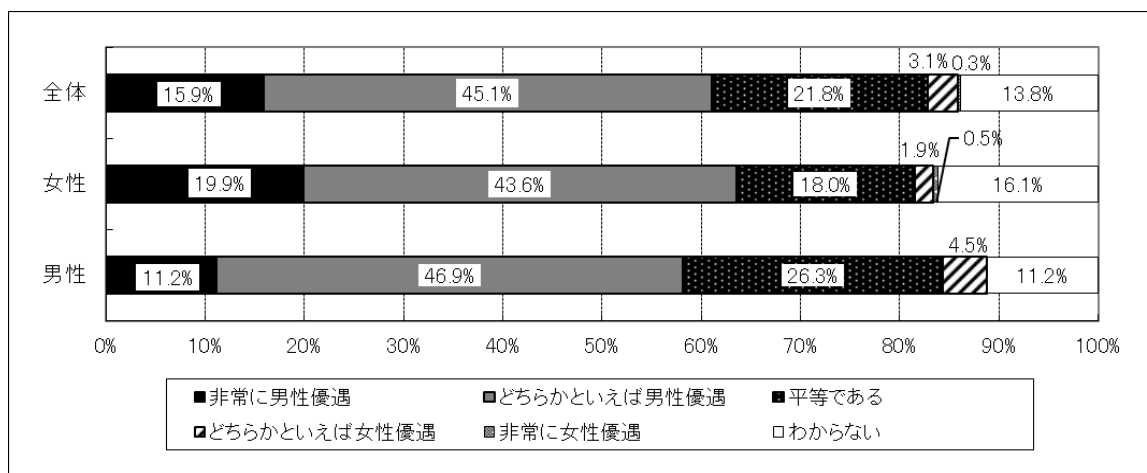


	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
全体	11.0%	28.2%	39.2%	36.7%	4.6%	0.8%	5.4%	18.7%
女性	16.5%	30.7%	47.2%	26.9%	2.4%	0.0%	2.4%	23.6%
10歳代	0.0%	60.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
20歳代	8.0%	32.0%	40.0%	24.0%	4.0%	0.0%	4.0%	32.0%
30歳代	18.4%	34.2%	52.6%	28.9%	2.6%	0.0%	2.6%	15.8%
40歳代	25.8%	32.3%	58.1%	19.4%	3.2%	0.0%	3.2%	19.4%
50歳代	19.1%	23.4%	42.6%	36.2%	2.1%	0.0%	2.1%	19.1%
60歳代	12.0%	32.0%	44.0%	32.0%	0.0%	0.0%	0.0%	24.0%
70歳代	18.5%	22.2%	40.7%	14.8%	3.7%	0.0%	3.7%	40.7%
80歳代以上	7.1%	42.9%	50.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%
男性	4.5%	25.3%	29.8%	48.3%	7.3%	1.7%	9.0%	12.9%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	0.0%	12.5%	12.5%	18.8%	18.8%	12.5%	31.3%	37.5%
30歳代	4.3%	43.5%	47.8%	26.1%	13.0%	0.0%	13.0%	13.0%
40歳代	9.7%	22.6%	32.3%	38.7%	16.1%	3.2%	19.4%	9.7%
50歳代	4.0%	24.0%	28.0%	56.0%	8.0%	0.0%	8.0%	8.0%
60歳代	6.9%	20.7%	27.6%	65.5%	0.0%	0.0%	0.0%	6.9%
70歳代	0.0%	26.3%	26.3%	63.2%	0.0%	0.0%	0.0%	10.5%
80歳代以上	9.1%	36.4%	45.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%

◆全体では、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が39.2%で最も多く、次いで『平等』が36.7%であった。前回調査と比較して、傾向の変化はみられなかった。

◆男女別では、女性は『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が47.2%で最も高いのに対し、男性は『平等である』と回答した人の割合が48.3%で最も高かった。男女間の認識の差が大きい結果となった。

⑦ 社会通念・習慣・しきたりなど



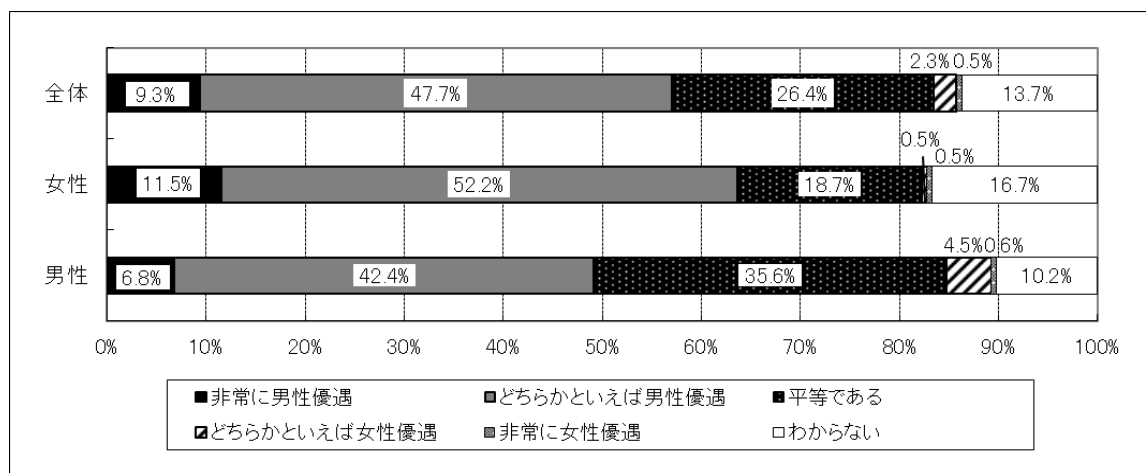
	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
<b>全体</b>	<b>15.9%</b>	<b>45.1%</b>	<b>61.0%</b>	<b>21.8%</b>	<b>3.1%</b>	<b>0.3%</b>	<b>3.3%</b>	<b>13.8%</b>
<b>女性</b>	<b>19.9%</b>	<b>43.6%</b>	<b>63.5%</b>	<b>18.0%</b>	<b>1.9%</b>	<b>0.5%</b>	<b>2.4%</b>	<b>16.1%</b>
10歳代	0.0%	60.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	16.0%	52.0%	68.0%	8.0%	4.0%	0.0%	4.0%	20.0%
30歳代	10.8%	54.1%	64.9%	18.9%	0.0%	0.0%	0.0%	16.2%
40歳代	29.0%	32.3%	61.3%	22.6%	3.2%	0.0%	3.2%	12.9%
50歳代	25.5%	48.9%	74.5%	10.6%	2.1%	2.1%	4.3%	10.6%
60歳代	20.8%	29.2%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%
70歳代	17.9%	46.4%	64.3%	17.9%	3.6%	0.0%	3.6%	14.3%
80歳代以上	21.4%	21.4%	42.9%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%
<b>男性</b>	<b>11.2%</b>	<b>46.9%</b>	<b>58.1%</b>	<b>26.3%</b>	<b>4.5%</b>	<b>0.0%</b>	<b>4.5%</b>	<b>11.2%</b>
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	12.5%	18.8%	31.3%	25.0%	12.5%	0.0%	12.5%	31.3%
30歳代	13.0%	56.5%	69.6%	13.0%	8.7%	0.0%	8.7%	8.7%
40歳代	16.1%	64.5%	80.6%	12.9%	3.2%	0.0%	3.2%	3.2%
50歳代	16.0%	40.0%	56.0%	32.0%	4.0%	0.0%	4.0%	8.0%
60歳代	10.3%	55.2%	65.5%	24.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.3%
70歳代	5.3%	44.7%	50.0%	36.8%	5.3%	0.0%	5.3%	7.9%
80歳代以上	8.3%	41.7%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%

◆全体では、『男性優遇』(『非常に』と『どちらかといえば』の計)と回答した人の割合が61.0%と最も高く、次いで『平等』が21.8%であった。前回調査と比較して、傾向の変化はみられなかった。

◆男女別では、男女ともに『男性優遇』(『非常に』と『どちらかといえば』の計)と回答した人の割合が最も高かったが、女性は男性よりも『男性優遇』(『非常に』と『どちらかといえば』の計)と回答した人の割合が高く、『平等』の割合が低かった。



⑧ 社会全体では



	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	(男性優遇の計)	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	(女性優遇の計)	わからない
<b>全体</b>	<b>9.3%</b>	<b>47.7%</b>	<b>57.0%</b>	<b>26.4%</b>	<b>2.3%</b>	<b>0.5%</b>	<b>2.8%</b>	<b>13.7%</b>
<b>女性</b>	<b>11.5%</b>	<b>52.2%</b>	<b>63.6%</b>	<b>18.7%</b>	<b>0.5%</b>	<b>0.5%</b>	<b>1.0%</b>	<b>16.7%</b>
10歳代	0.0%	60.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	16.0%	52.0%	68.0%	16.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.0%
30歳代	2.7%	64.9%	67.6%	21.6%	0.0%	0.0%	0.0%	10.8%
40歳代	20.0%	46.7%	66.7%	13.3%	0.0%	3.3%	3.3%	16.7%
50歳代	12.8%	55.3%	68.1%	14.9%	2.1%	0.0%	2.1%	14.9%
60歳代	12.5%	45.8%	58.3%	20.8%	0.0%	0.0%	0.0%	20.8%
70歳代	14.8%	48.1%	63.0%	14.8%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%
80歳代以上	0.0%	35.7%	35.7%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%
<b>男性</b>	<b>6.8%</b>	<b>42.4%</b>	<b>49.2%</b>	<b>35.6%</b>	<b>4.5%</b>	<b>0.6%</b>	<b>5.1%</b>	<b>10.2%</b>
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	6.3%	25.0%	31.3%	31.3%	12.5%	0.0%	12.5%	25.0%
30歳代	8.7%	47.8%	56.5%	17.4%	13.0%	4.3%	17.4%	8.7%
40歳代	16.1%	45.2%	61.3%	32.3%	3.2%	0.0%	3.2%	3.2%
50歳代	0.0%	56.0%	56.0%	36.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.0%
60歳代	3.4%	48.3%	51.7%	37.9%	3.4%	0.0%	3.4%	6.9%
70歳代	5.4%	37.8%	43.2%	43.2%	2.7%	0.0%	2.7%	10.8%
80歳代以上	9.1%	36.4%	45.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%

◆全体では、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が57.0%で最も高く、次いで『平等』の割合が26.4%であった。前回調査と比較して、傾向の変化はみられなかった。

◆男女別では、男女ともに『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人の割合が最も高かったが、男性については、『男性優遇』（『非常に』と『どちらかといえば』の計）と回答した人と『平等』と回答した人の割合に女性ほどの大きな差はみられなかった。男女間の認識の差が大きい結果となった。

問4 あなたは問3の各場面で、特にどのようなことについて、男性優遇または女性優遇であると感じますか。

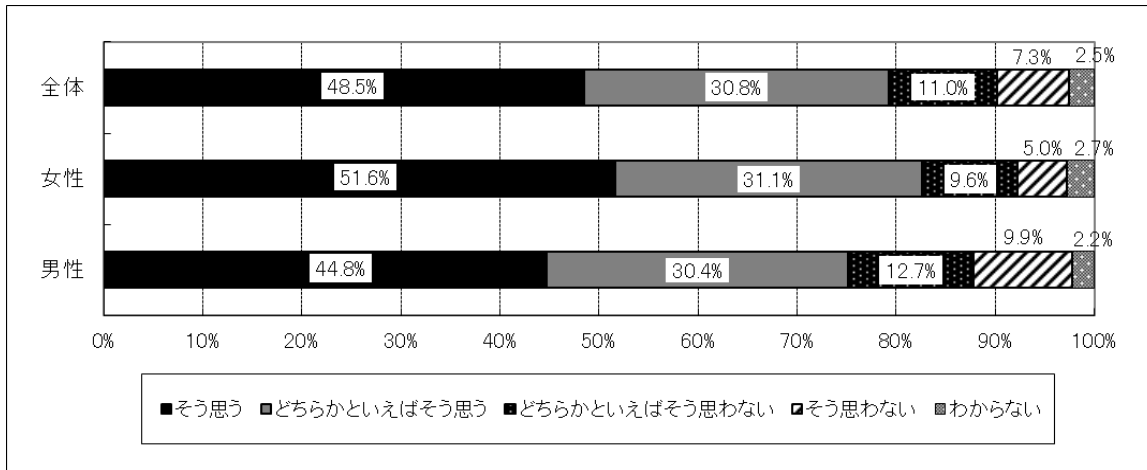
【主な複数意見紹介】

場面	区分	内容	回答数
①家庭	男性優遇	家事や育児の大半を女性が担っている	26
		夫の意見が優先される	3
	女性優遇	妻の意見が優先される	3
②地域活動	男性優遇	町会・自治会や団体などの代表・役員に男性が多い	7
		活動の参加者に男性が多い	4
③職場	男性優遇	管理職数・割合	26
		給与	15
		昇進・昇格	11
		女性の産休・育休の取得や時短勤務への理解がない	8
		採用	6
		責任のある仕事を男性に任せる傾向がある	4
		会社全体の雰囲気	3
	女性優遇	男性の育児休暇等の取得が女性に比べて困難である	6
		男性の方が労働時間が長い	4
⑤政治	男性優遇	女性議員が少ない	48
		女性議員への差別	5
⑥法律や制度	男性優遇	女性天皇が認められていない	3
		男性目線・男性主導の法律や制度が多い	3
	女性優遇	「女性専用〇〇」が多い	5
⑦社会通念・慣習・しきたり	男性優遇	家長や跡取りは男性という考え方	8
		「だから女は」「女の出る幕ではない」等、女性を下に見た言動	5
		家事や育児などは女性だけの仕事という考え方	5
		順番は男性が先で女性は後(挨拶、お風呂、食事など)	4
⑧社会全体	男性優遇	社会のあらゆる場面で男性が優遇されている	17

## (2) 結婚観・家庭生活について

問5 以下の結婚や子どもに関する考え方について、あなたはどのように思いますか。(各項目1つ選択)

### ① 結婚は個人の自由だから、してもなくてもどちらでもよい

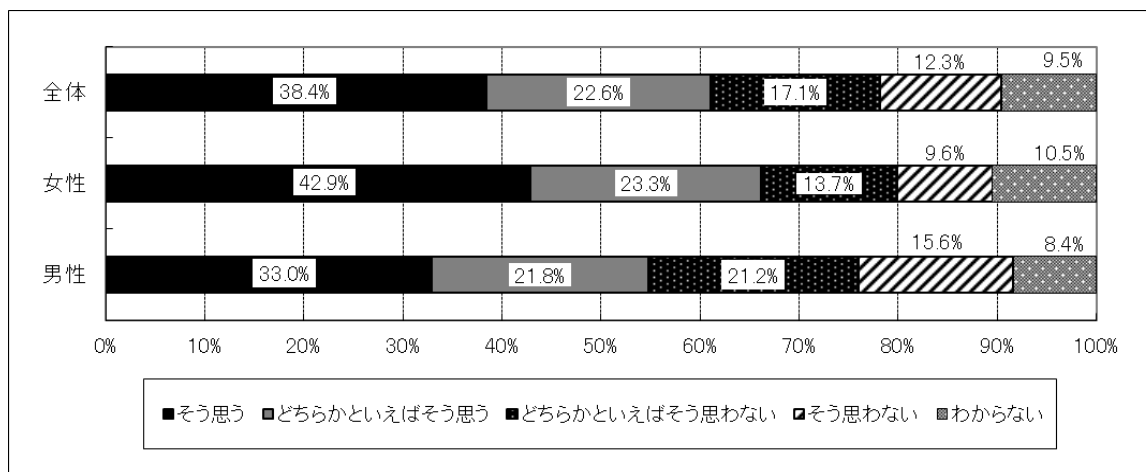


	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	(そう思う の計)	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	(そう思わ ないの計)	わからない
全体	48.5%	30.8%	79.3%	11.0%	7.3%	18.3%	2.5%
女性	51.6%	31.1%	82.6%	9.6%	5.0%	14.6%	2.7%
10歳代	80.0%	20.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	80.0%	16.0%	96.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%
30歳代	78.9%	21.1%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40歳代	54.8%	22.6%	77.4%	16.1%	3.2%	19.4%	3.2%
50歳代	29.8%	46.8%	76.6%	12.8%	8.5%	21.3%	2.1%
60歳代	52.0%	32.0%	84.0%	0.0%	8.0%	8.0%	8.0%
70歳代	38.2%	35.3%	73.5%	14.7%	5.9%	20.6%	5.9%
80歳代以上	14.3%	42.9%	57.1%	35.7%	7.1%	42.9%	0.0%
男性	44.8%	30.4%	75.1%	12.7%	9.9%	22.7%	2.2%
10歳代	60.0%	0.0%	60.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%
20歳代	62.5%	37.5%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	73.9%	17.4%	91.3%	8.7%	0.0%	8.7%	0.0%
40歳代	38.7%	38.7%	77.4%	3.2%	16.1%	19.4%	3.2%
50歳代	40.0%	40.0%	80.0%	12.0%	8.0%	20.0%	0.0%
60歳代	31.0%	41.4%	72.4%	17.2%	10.3%	27.6%	0.0%
70歳代	42.5%	20.0%	62.5%	20.0%	15.0%	35.0%	2.5%
80歳代以上	25.0%	25.0%	50.0%	33.3%	8.3%	41.7%	8.3%

◆全体では、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合は79.3%で、前回調査結果(67.6%)より上昇し、一方で『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合は前回の29.2%から18.3%へと下がった。

◆男女別では、女性の方が男性より『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合が高く、『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合が低かった。

② 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない

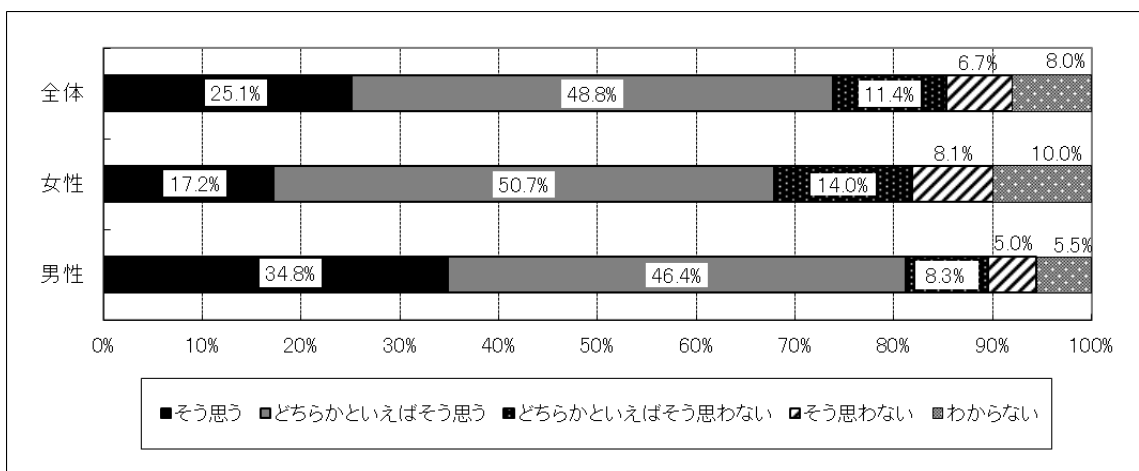


	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	(そう思う の計)	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	(そう思わ ないの計)	わからない
<b>全体</b>	<b>38.4%</b>	<b>22.6%</b>	<b>61.1%</b>	<b>17.1%</b>	<b>12.3%</b>	<b>29.4%</b>	<b>9.5%</b>
<b>女性</b>	<b>42.9%</b>	<b>23.3%</b>	<b>66.2%</b>	<b>13.7%</b>	<b>9.6%</b>	<b>23.3%</b>	<b>10.5%</b>
10歳代	60.0%	40.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	68.0%	20.0%	88.0%	0.0%	8.0%	8.0%	4.0%
30歳代	68.4%	15.8%	84.2%	10.5%	0.0%	10.5%	5.3%
40歳代	51.6%	22.6%	74.2%	19.4%	3.2%	22.6%	3.2%
50歳代	25.5%	27.7%	53.2%	23.4%	8.5%	31.9%	14.9%
60歳代	44.0%	20.0%	64.0%	4.0%	8.0%	12.0%	24.0%
70歳代	20.6%	29.4%	50.0%	14.7%	20.6%	35.3%	14.7%
80歳代以上	14.3%	21.4%	35.7%	21.4%	35.7%	57.1%	7.1%
<b>男性</b>	<b>33.0%</b>	<b>21.8%</b>	<b>54.7%</b>	<b>21.2%</b>	<b>15.6%</b>	<b>36.9%</b>	<b>8.4%</b>
10歳代	40.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%
20歳代	50.0%	31.3%	81.3%	12.5%	6.3%	18.8%	0.0%
30歳代	65.2%	21.7%	87.0%	13.0%	0.0%	13.0%	0.0%
40歳代	32.3%	35.5%	67.7%	9.7%	12.9%	22.6%	9.7%
50歳代	36.0%	16.0%	52.0%	28.0%	12.0%	40.0%	8.0%
60歳代	17.2%	13.8%	31.0%	37.9%	17.2%	55.2%	13.8%
70歳代	26.3%	18.4%	44.7%	21.1%	26.3%	47.4%	7.9%
80歳代以上	0.0%	25.0%	25.0%	33.3%	41.7%	75.0%	0.0%

◆全体では、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合は61.1%で、前回調査結果(51.8%)より上昇し、一方で『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合は前回の42.1%から29.4%へと下がった。

◆男女別では、女性の方が男性より『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合が高く、『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合が低かった。また、女性の80代以上と男性の60代以上では、『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合が、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合を上回った。

③ 結婚したら、自分自身のことより家族を中心に考えて生活したほうがよい

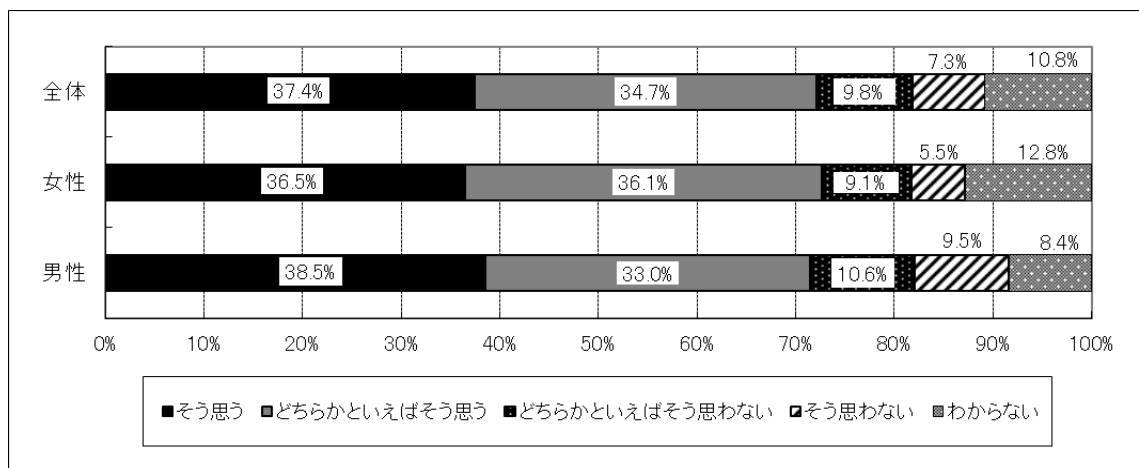


	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	(そう思う の計)	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	(そう思わ ないの計)	わからない
全体	25.1%	48.8%	73.9%	11.4%	6.7%	18.2%	8.0%
女性	17.2%	50.7%	67.9%	14.0%	8.1%	22.2%	10.0%
10歳代	0.0%	80.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
20歳代	16.0%	32.0%	48.0%	32.0%	4.0%	36.0%	16.0%
30歳代	26.3%	52.6%	78.9%	15.8%	2.6%	18.4%	2.6%
40歳代	12.9%	54.8%	67.7%	16.1%	9.7%	25.8%	6.5%
50歳代	4.3%	61.7%	66.0%	6.4%	8.5%	14.9%	19.1%
60歳代	8.0%	60.0%	68.0%	12.0%	12.0%	24.0%	8.0%
70歳代	32.4%	38.2%	70.6%	5.9%	14.7%	20.6%	8.8%
80歳代以上	31.3%	37.5%	68.8%	25.0%	6.3%	31.3%	0.0%
男性	34.8%	46.4%	81.2%	8.3%	5.0%	13.3%	5.5%
10歳代	20.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%
20歳代	25.0%	50.0%	75.0%	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%
30歳代	30.4%	47.8%	78.3%	17.4%	4.3%	21.7%	0.0%
40歳代	32.3%	45.2%	77.4%	12.9%	3.2%	16.1%	6.5%
50歳代	40.0%	44.0%	84.0%	4.0%	4.0%	8.0%	8.0%
60歳代	27.6%	58.6%	86.2%	3.4%	10.3%	13.8%	0.0%
70歳代	45.0%	35.0%	80.0%	12.5%	2.5%	15.0%	5.0%
80歳代以上	41.7%	58.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合は73.9%で、『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合は18.2%であり、前回調査からあまり変化はみられなかった。

◆男女別では、男性のほうが女性よりも、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合が高く、『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合が低かった。

④ 結婚しても、うまくいかなければ、離婚してもよい

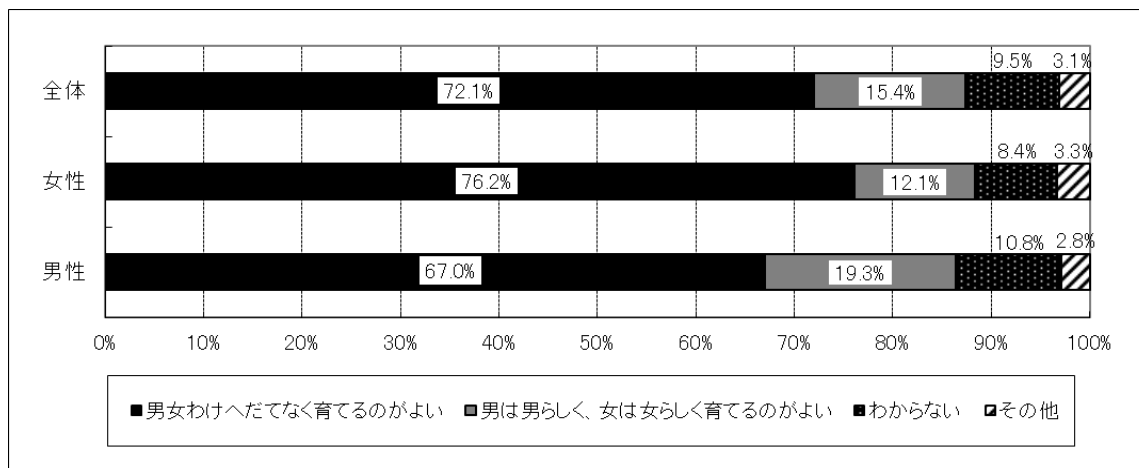


	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	(そう思う の計)	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない	(そう思わ ないの計)	わからない
<b>全体</b>	<b>37.4%</b>	<b>34.7%</b>	<b>72.1%</b>	<b>9.8%</b>	<b>7.3%</b>	<b>17.1%</b>	<b>10.8%</b>
<b>女性</b>	<b>36.5%</b>	<b>36.1%</b>	<b>72.6%</b>	<b>9.1%</b>	<b>5.5%</b>	<b>14.6%</b>	<b>12.8%</b>
10歳代	60.0%	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%	20.0%
20歳代	28.0%	48.0%	76.0%	12.0%	0.0%	12.0%	12.0%
30歳代	42.1%	42.1%	84.2%	5.3%	0.0%	5.3%	10.5%
40歳代	35.5%	45.2%	80.6%	6.5%	3.2%	9.7%	9.7%
50歳代	38.3%	34.0%	72.3%	14.9%	2.1%	17.0%	10.6%
60歳代	40.0%	36.0%	76.0%	8.0%	8.0%	16.0%	8.0%
70歳代	35.3%	23.5%	58.8%	2.9%	20.6%	23.5%	17.6%
80歳代以上	21.4%	28.6%	50.0%	14.3%	7.1%	21.4%	28.6%
<b>男性</b>	<b>38.5%</b>	<b>33.0%</b>	<b>71.5%</b>	<b>10.6%</b>	<b>9.5%</b>	<b>20.1%</b>	<b>8.4%</b>
10歳代	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	40.0%
20歳代	37.5%	25.0%	62.5%	6.3%	12.5%	18.8%	18.8%
30歳代	47.8%	30.4%	78.3%	8.7%	13.0%	21.7%	0.0%
40歳代	41.9%	35.5%	77.4%	9.7%	6.5%	16.1%	6.5%
50歳代	40.0%	36.0%	76.0%	16.0%	4.0%	20.0%	4.0%
60歳代	25.0%	46.4%	71.4%	3.6%	14.3%	17.9%	10.7%
70歳代	35.9%	28.2%	64.1%	12.8%	12.8%	25.6%	10.3%
80歳代以上	50.0%	33.3%	83.3%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%

◆全体では、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合は72.1%で、前回調査結果(65.5%)より上昇し、一方で『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合は前回の26.0%から17.1%へと下がった。

◆男女別では、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』と回答した人の割合にはあまり差がなかったが、男性のほうが女性よりも、『そう思わない』『どちらかといえばそう思わない』と回答した人の割合が高く、『わからない』と回答した人の割合が低かった。

問6 あなたは子育てについてどのように考えますか。(1つのみ選択)



	男女わけへだてなく育てるのがよい	男は男らしく、女は女らしく育てるのがよい	わからない	その他※
全体	72.1%	15.4%	9.5%	3.1%
女性	76.2%	12.1%	8.4%	3.3%
10歳代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	76.0%	8.0%	12.0%	4.0%
30歳代	78.9%	10.5%	7.9%	2.6%
40歳代	71.0%	19.4%	6.5%	3.2%
50歳代	75.0%	6.8%	11.4%	6.8%
60歳代	88.0%	4.0%	4.0%	4.0%
70歳代	74.2%	19.4%	6.5%	0.0%
80歳代以上	60.0%	26.7%	13.3%	0.0%
男性	67.0%	19.3%	10.8%	2.8%
10歳代	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%
20歳代	56.3%	25.0%	12.5%	6.3%
30歳代	65.2%	21.7%	8.7%	4.3%
40歳代	61.3%	12.9%	16.1%	9.7%
50歳代	62.5%	25.0%	12.5%	0.0%
60歳代	66.7%	14.8%	18.5%	0.0%
70歳代	78.9%	18.4%	2.6%	0.0%
80歳代以上	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%

※【その他 複数意見】

- その子の個性に合わせてその子らしく育てる
- 様々な人や考え方に触れさせる

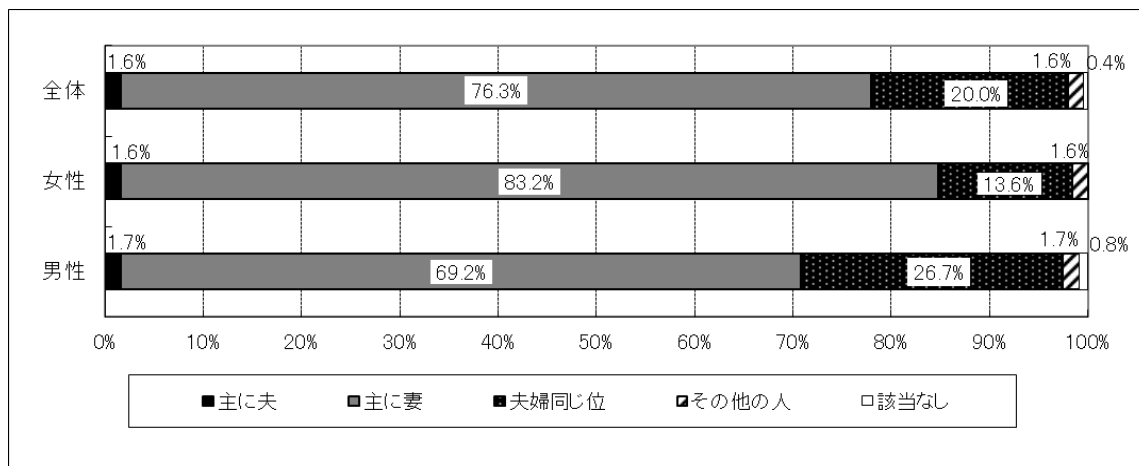
◆全体では、『男女わけへだてなく育てるのがよい』と回答した人の割合は72.1%で、前回調査結果(67.3%)より上昇し、一方で『男は男らしく、女は女らしく育てるのがよい』と回答した人の割合は前回の23.3%から15.4%へと下がった。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『男女わけへだてなく育てるのがよい』の割合が高く、『男は男らしく、女は女らしく育てるのがよい』の割合が低かった。

問7 以下について、あなたの家庭では、どのように役割分担していますか。(各項目1つ選択)

※現在結婚し、夫婦が同居している人のみ回答(事実婚含む)

① 食事のしたく・片づけ



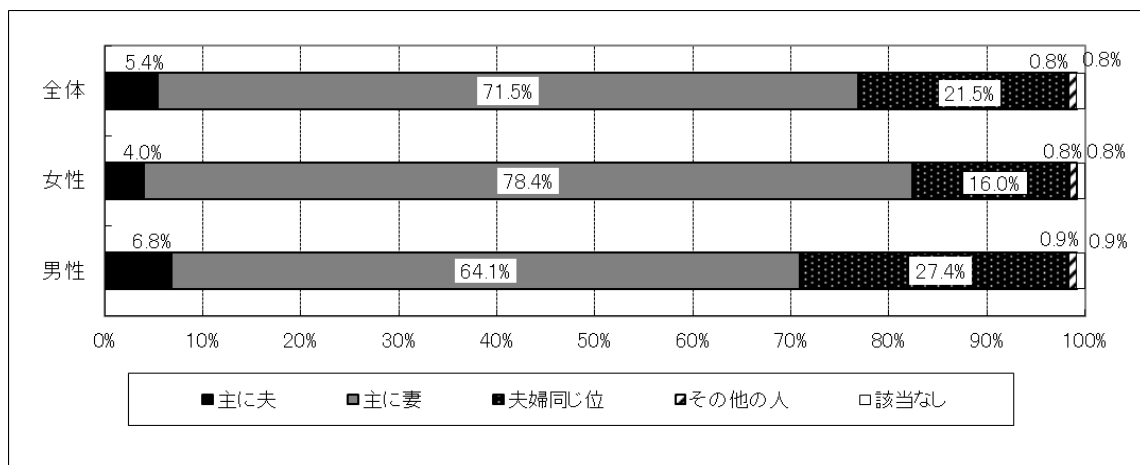
	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
全体	1.6%	76.3%	20.0%	1.6%	0.4%
女性	1.6%	83.2%	13.6%	1.6%	0.0%
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
30歳代	3.8%	76.9%	19.2%	0.0%	0.0%
40歳代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
60歳代	4.8%	85.7%	9.5%	0.0%	0.0%
70歳代	0.0%	85.7%	9.5%	4.8%	0.0%
80歳代以上	0.0%	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%
男性	1.7%	69.2%	26.7%	1.7%	0.8%
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
30歳代	0.0%	64.3%	35.7%	0.0%	0.0%
40歳代	0.0%	78.3%	17.4%	0.0%	4.3%
50歳代	0.0%	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%
60歳代	0.0%	69.2%	26.9%	3.8%	0.0%
70歳代	3.3%	70.0%	23.3%	3.3%	0.0%
80歳代以上	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合は76.3%で、前回調査結果(81.0%)より下がり、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合は前回の14.3%から20.0%へと上昇した。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『主に妻』と回答した人の割合が高く、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。



## ② そうじ

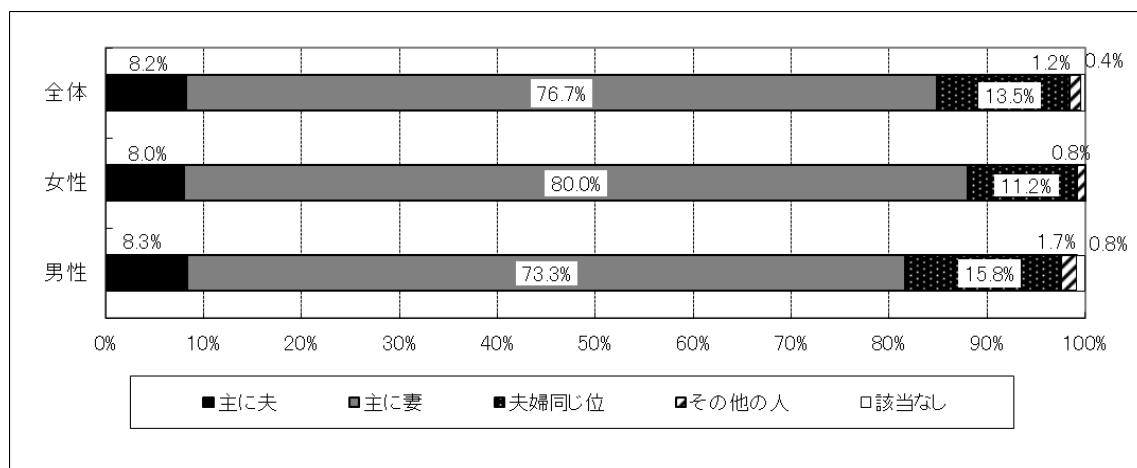


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>5.4%</b>	<b>71.5%</b>	<b>21.5%</b>	<b>0.8%</b>	<b>0.8%</b>
<b>女性</b>	<b>4.0%</b>	<b>78.4%</b>	<b>16.0%</b>	<b>0.8%</b>	<b>0.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
30歳代	3.8%	84.6%	11.5%	0.0%	0.0%
40歳代	5.0%	85.0%	5.0%	0.0%	5.0%
50歳代	7.1%	64.3%	28.6%	0.0%	0.0%
60歳代	0.0%	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%
70歳代	4.8%	81.0%	9.5%	4.8%	0.0%
80歳代以上	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
<b>男性</b>	<b>6.8%</b>	<b>64.1%</b>	<b>27.4%</b>	<b>0.9%</b>	<b>0.9%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
30歳代	7.1%	71.4%	21.4%	0.0%	0.0%
40歳代	8.7%	56.5%	26.1%	4.3%	4.3%
50歳代	5.3%	68.4%	26.3%	0.0%	0.0%
60歳代	11.5%	53.8%	34.6%	0.0%	0.0%
70歳代	0.0%	72.4%	27.6%	0.0%	0.0%
80歳代以上	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合は71.5%で、前回調査結果(75.1%)より下がり、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合は前回の16.5%から21.5%へと上昇した。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『主に妻』と回答した人の割合が高く、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。

### ③ 洗濯

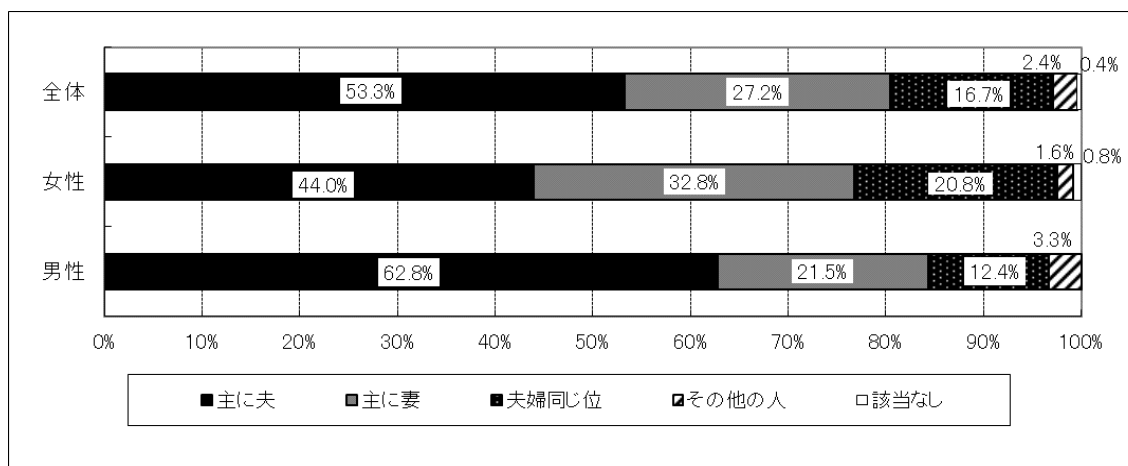


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>8.2%</b>	<b>76.7%</b>	<b>13.5%</b>	<b>1.2%</b>	<b>0.4%</b>
<b>女性</b>	<b>8.0%</b>	<b>80.0%</b>	<b>11.2%</b>	<b>0.8%</b>	<b>0.0%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	11.5%	76.9%	11.5%	0.0%	0.0%
40歳代	0.0%	90.0%	10.0%	0.0%	0.0%
50歳代	17.9%	71.4%	10.7%	0.0%	0.0%
60歳代	4.8%	85.7%	9.5%	0.0%	0.0%
70歳代	4.8%	76.2%	14.3%	4.8%	0.0%
80歳代以上	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
<b>男性</b>	<b>8.3%</b>	<b>73.3%</b>	<b>15.8%</b>	<b>1.7%</b>	<b>0.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	21.4%	35.7%	42.9%	0.0%	0.0%
40歳代	13.0%	60.9%	17.4%	4.3%	4.3%
50歳代	0.0%	84.2%	15.8%	0.0%	0.0%
60歳代	3.8%	84.6%	11.5%	0.0%	0.0%
70歳代	3.3%	83.3%	10.0%	3.3%	0.0%
80歳代以上	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合は76.7%で、前回調査結果(83.1%)より下がり、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合は前回の9.7%から13.5%へと上昇した。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『主に妻』と回答した人の割合が高く、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。また、男女ともに『主に夫』と回答した人の割合は8%を超えており、食事やそうじに比べて夫が担っている割合が高かった。

#### ④ ゴミ出し

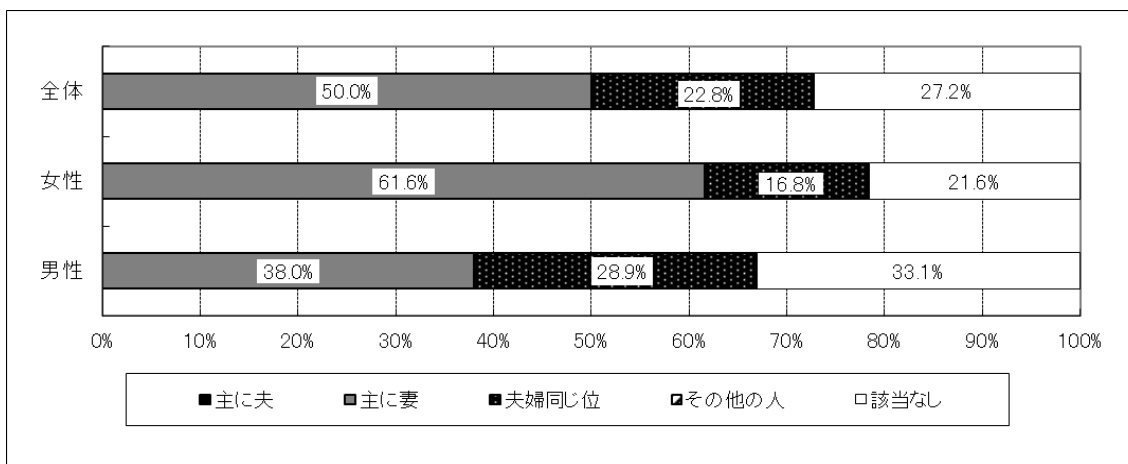


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>53.3%</b>	<b>27.2%</b>	<b>16.7%</b>	<b>2.4%</b>	<b>0.4%</b>
<b>女性</b>	<b>44.0%</b>	<b>32.8%</b>	<b>20.8%</b>	<b>1.6%</b>	<b>0.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	61.5%	26.9%	11.5%	0.0%	0.0%
40歳代	35.0%	35.0%	20.0%	5.0%	5.0%
50歳代	42.9%	35.7%	21.4%	0.0%	0.0%
60歳代	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
70歳代	38.1%	33.3%	23.8%	4.8%	0.0%
80歳代以上	60.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%
<b>男性</b>	<b>62.8%</b>	<b>21.5%</b>	<b>12.4%</b>	<b>3.3%</b>	<b>0.0%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
30歳代	78.6%	7.1%	14.3%	0.0%	0.0%
40歳代	56.5%	21.7%	17.4%	4.3%	0.0%
50歳代	57.9%	36.8%	5.3%	0.0%	0.0%
60歳代	61.5%	19.2%	15.4%	3.8%	0.0%
70歳代	64.5%	25.8%	6.5%	3.2%	0.0%
80歳代以上	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に夫』と回答した人の割合は53.3%で、前回調査結果(41.0%)より上昇し、『主に妻』と回答した人の割合は前回の36.3%から27.2%へ下がった。

◆男女別では、男性のほうが女性よりも『主に夫』と回答した人の割合が高く、『主に妻』や『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。

⑤ 育児

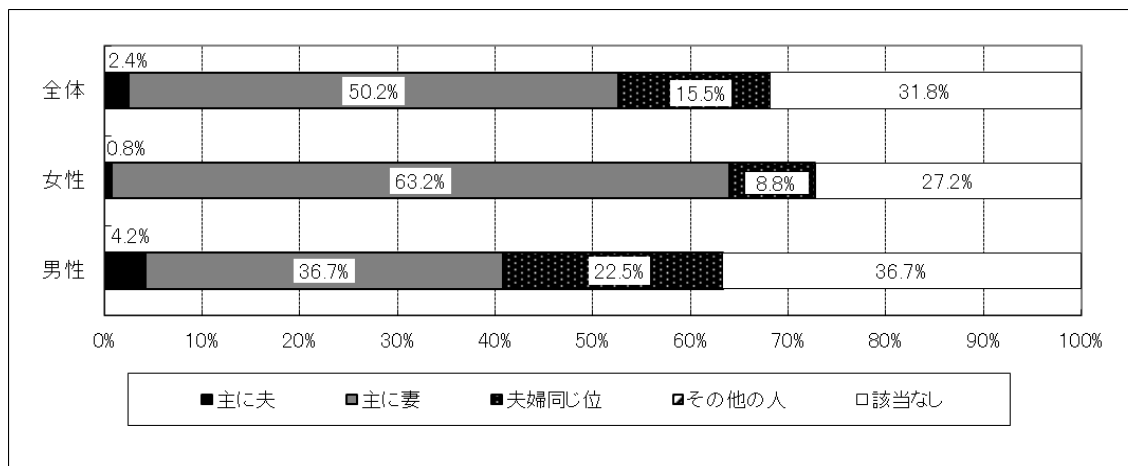


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>0.0%</b>	<b>50.0%</b>	<b>22.8%</b>	<b>0.0%</b>	<b>27.2%</b>
<b>女性</b>	<b>0.0%</b>	<b>61.6%</b>	<b>16.8%</b>	<b>0.0%</b>	<b>21.6%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
30歳代	0.0%	73.1%	15.4%	0.0%	11.5%
40歳代	0.0%	65.0%	25.0%	0.0%	10.0%
50歳代	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%
60歳代	0.0%	57.1%	4.8%	0.0%	38.1%
70歳代	0.0%	61.9%	9.5%	0.0%	28.6%
80歳代以上	0.0%	60.0%	20.0%	0.0%	20.0%
<b>男性</b>	<b>0.0%</b>	<b>38.0%</b>	<b>28.9%</b>	<b>0.0%</b>	<b>33.1%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%
30歳代	0.0%	50.0%	42.9%	0.0%	7.1%
40歳代	0.0%	39.1%	34.8%	0.0%	26.1%
50歳代	0.0%	31.6%	47.4%	0.0%	21.1%
60歳代	0.0%	38.5%	26.9%	0.0%	34.6%
70歳代	0.0%	32.3%	16.1%	0.0%	51.6%
80歳代以上	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	60.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合は50.0%で、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合は22.8%であった。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『主に妻』と回答した人の割合が高く、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。男女間の認識の差が大きい結果となった。

## ⑥ 学校関連行事への参加

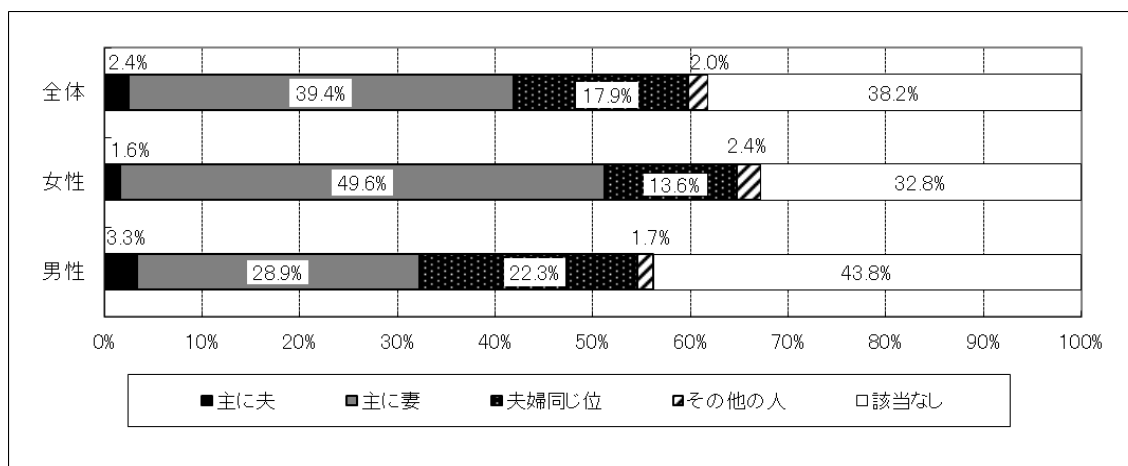


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>2.4%</b>	<b>50.2%</b>	<b>15.5%</b>	<b>0.0%</b>	<b>31.8%</b>
<b>女性</b>	<b>0.8%</b>	<b>63.2%</b>	<b>8.8%</b>	<b>0.0%</b>	<b>27.2%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%	25.0%
30歳代	0.0%	65.4%	11.5%	0.0%	23.1%
40歳代	0.0%	85.0%	0.0%	0.0%	15.0%
50歳代	0.0%	67.9%	10.7%	0.0%	21.4%
60歳代	0.0%	47.6%	9.5%	0.0%	42.9%
70歳代	0.0%	57.1%	4.8%	0.0%	38.1%
80歳代以上	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%
<b>男性</b>	<b>4.2%</b>	<b>36.7%</b>	<b>22.5%</b>	<b>0.0%</b>	<b>36.7%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	66.7%
30歳代	7.1%	28.6%	42.9%	0.0%	21.4%
40歳代	4.3%	52.2%	13.0%	0.0%	30.4%
50歳代	0.0%	57.9%	21.1%	0.0%	21.1%
60歳代	7.7%	30.8%	26.9%	0.0%	34.6%
70歳代	3.2%	22.6%	19.4%	0.0%	54.8%
80歳代以上	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合は50.2%で、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合は15.5%であった。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『主に妻』と回答した人の割合が高く、『主に夫』『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。男女間の認識の差が大きい結果となった。

⑦ 家族の看護・介護

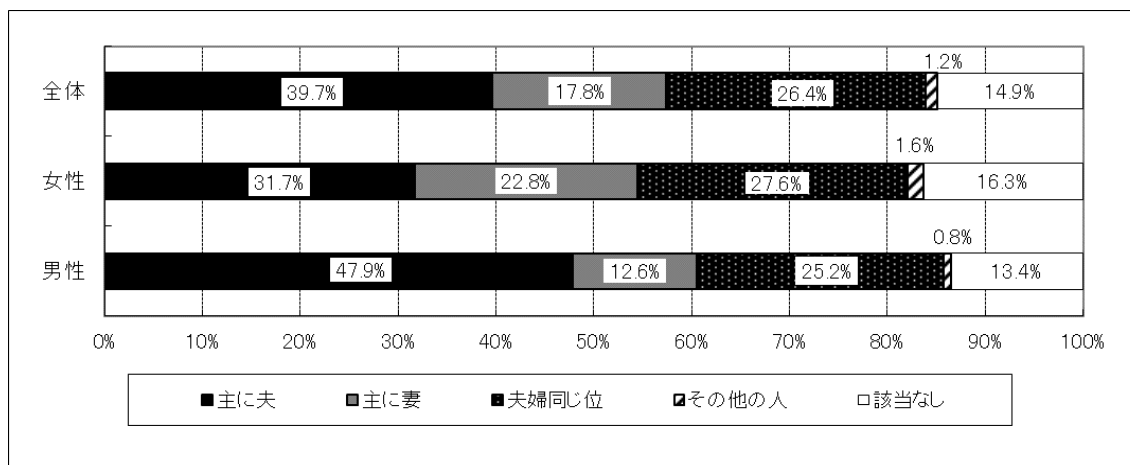


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>2.4%</b>	<b>39.4%</b>	<b>17.9%</b>	<b>2.0%</b>	<b>38.2%</b>
<b>女性</b>	<b>1.6%</b>	<b>49.6%</b>	<b>13.6%</b>	<b>2.4%</b>	<b>32.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%
30歳代	0.0%	46.2%	11.5%	0.0%	42.3%
40歳代	0.0%	70.0%	0.0%	5.0%	25.0%
50歳代	7.1%	32.1%	25.0%	3.6%	32.1%
60歳代	0.0%	61.9%	9.5%	0.0%	28.6%
70歳代	0.0%	47.6%	14.3%	4.8%	33.3%
80歳代以上	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	0.0%
<b>男性</b>	<b>3.3%</b>	<b>28.9%</b>	<b>22.3%</b>	<b>1.7%</b>	<b>43.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	14.3%	21.4%	0.0%	64.3%
40歳代	8.7%	34.8%	8.7%	4.3%	43.5%
50歳代	0.0%	42.1%	36.8%	0.0%	21.1%
60歳代	3.8%	34.6%	30.8%	0.0%	30.8%
70歳代	0.0%	25.8%	19.4%	3.2%	51.6%
80歳代以上	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	60.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合は39.4%で、『夫婦同じくらい』と回答した人の割合は17.9%であった。

◆男女別では、女性のほうが男性よりも『主に妻』と回答した人の割合が高く、『主に夫』『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。

⑧ 町内会など地域の活動への参加

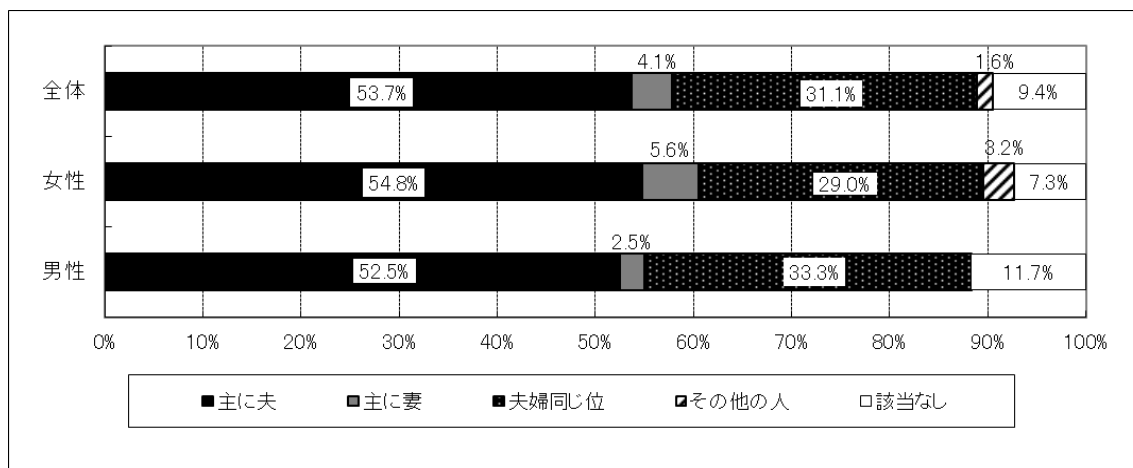


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>39.7%</b>	<b>17.8%</b>	<b>26.4%</b>	<b>1.2%</b>	<b>14.9%</b>
<b>女性</b>	<b>31.7%</b>	<b>22.8%</b>	<b>27.6%</b>	<b>1.6%</b>	<b>16.3%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%
30歳代	11.5%	19.2%	30.8%	0.0%	38.5%
40歳代	15.0%	50.0%	20.0%	5.0%	10.0%
50歳代	50.0%	21.4%	21.4%	0.0%	7.1%
60歳代	42.9%	19.0%	33.3%	0.0%	4.8%
70歳代	47.4%	5.3%	31.6%	5.3%	10.5%
80歳代以上	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%
<b>男性</b>	<b>47.9%</b>	<b>12.6%</b>	<b>25.2%</b>	<b>0.8%</b>	<b>13.4%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	21.4%	21.4%	28.6%	0.0%	28.6%
40歳代	30.4%	13.0%	34.8%	0.0%	21.7%
50歳代	57.9%	5.3%	26.3%	5.3%	5.3%
60歳代	61.5%	15.4%	23.1%	0.0%	0.0%
70歳代	53.3%	13.3%	23.3%	0.0%	10.0%
80歳代以上	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に夫』と回答した人の割合が39.7%で最も高く、次いで『夫婦同じくらい』が26.4%、『主に妻』が17.8%であった。

◆男女別では、男性のほうが女性よりも『主に夫』と回答した人の割合が高く、『主に妻』と回答した人の割合が低かった。

⑨ 生活費を稼ぐ



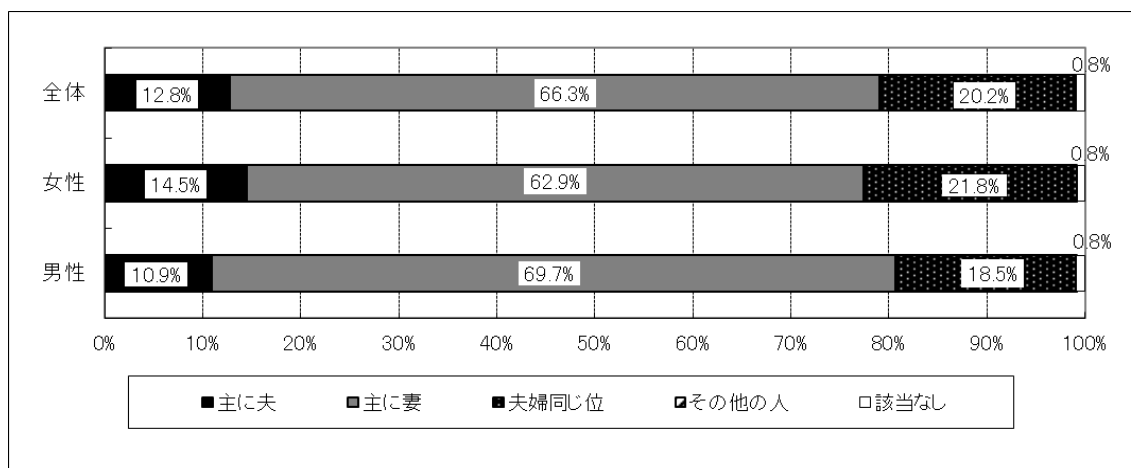
	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>53.7%</b>	<b>4.1%</b>	<b>31.1%</b>	<b>1.6%</b>	<b>9.4%</b>
<b>女性</b>	<b>54.8%</b>	<b>5.6%</b>	<b>29.0%</b>	<b>3.2%</b>	<b>7.3%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
30歳代	76.9%	0.0%	23.1%	0.0%	0.0%
40歳代	65.0%	0.0%	35.0%	0.0%	0.0%
50歳代	42.9%	14.3%	39.3%	3.6%	0.0%
60歳代	57.1%	9.5%	19.0%	4.8%	9.5%
70歳代	33.3%	4.8%	28.6%	9.5%	23.8%
80歳代以上	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%
<b>男性</b>	<b>52.5%</b>	<b>2.5%</b>	<b>33.3%</b>	<b>0.0%</b>	<b>11.7%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	64.3%	0.0%	35.7%	0.0%	0.0%
40歳代	65.2%	4.3%	26.1%	0.0%	4.3%
50歳代	68.4%	0.0%	31.6%	0.0%	0.0%
60歳代	34.6%	0.0%	53.8%	0.0%	11.5%
70歳代	38.7%	3.2%	29.0%	0.0%	29.0%
80歳代以上	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%

◆全体では、『主に夫』と回答した人の割合が53.7%で最も高く、次いで『夫婦同じくらい』が31.1%であった。前回の調査結果と比較して、傾向の変化は見られなかった。

◆男女間の回答割合にあまり大きな差は見られなかった。



⑩ 家計管理

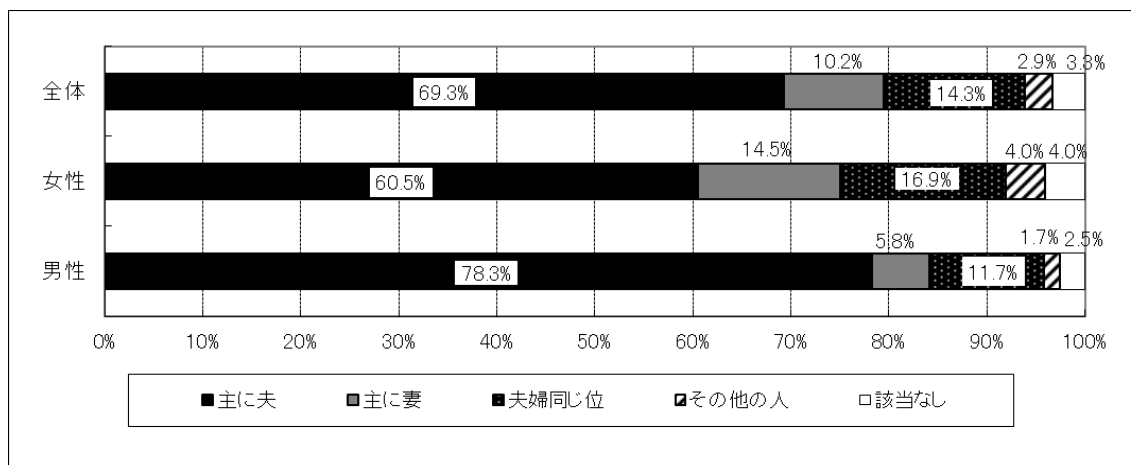


	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>12.8%</b>	<b>66.3%</b>	<b>20.2%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.8%</b>
<b>女性</b>	<b>14.5%</b>	<b>62.9%</b>	<b>21.8%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	7.7%	61.5%	30.8%	0.0%	0.0%
40歳代	20.0%	65.0%	15.0%	0.0%	0.0%
50歳代	10.7%	60.7%	28.6%	0.0%	0.0%
60歳代	23.8%	57.1%	19.0%	0.0%	0.0%
70歳代	9.5%	66.7%	19.0%	0.0%	4.8%
80歳代以上	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
<b>男性</b>	<b>10.9%</b>	<b>69.7%</b>	<b>18.5%</b>	<b>0.0%</b>	<b>0.8%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
30歳代	7.1%	85.7%	7.1%	0.0%	0.0%
40歳代	17.4%	65.2%	13.0%	0.0%	4.3%
50歳代	0.0%	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%
60歳代	11.5%	69.2%	19.2%	0.0%	0.0%
70歳代	13.8%	58.6%	27.6%	0.0%	0.0%
80歳代以上	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に妻』と回答した人の割合が66.3%で最も高く、次いで『夫婦同じくらい』が20.2%、『主に夫』が12.8%であった。前回の調査結果と比較すると、『主に妻』と回答した人の割合が下がった(77.0%→66.3%)一方、『主に夫』(6.0%→12.8%)と『夫婦同じくらい』(15.3%→20.2%)と回答した人の割合がそれぞれ上昇した。

◆男女間の回答割合にあまり大きな差は見られなかった。

⑪ 家の中の簡単な修理



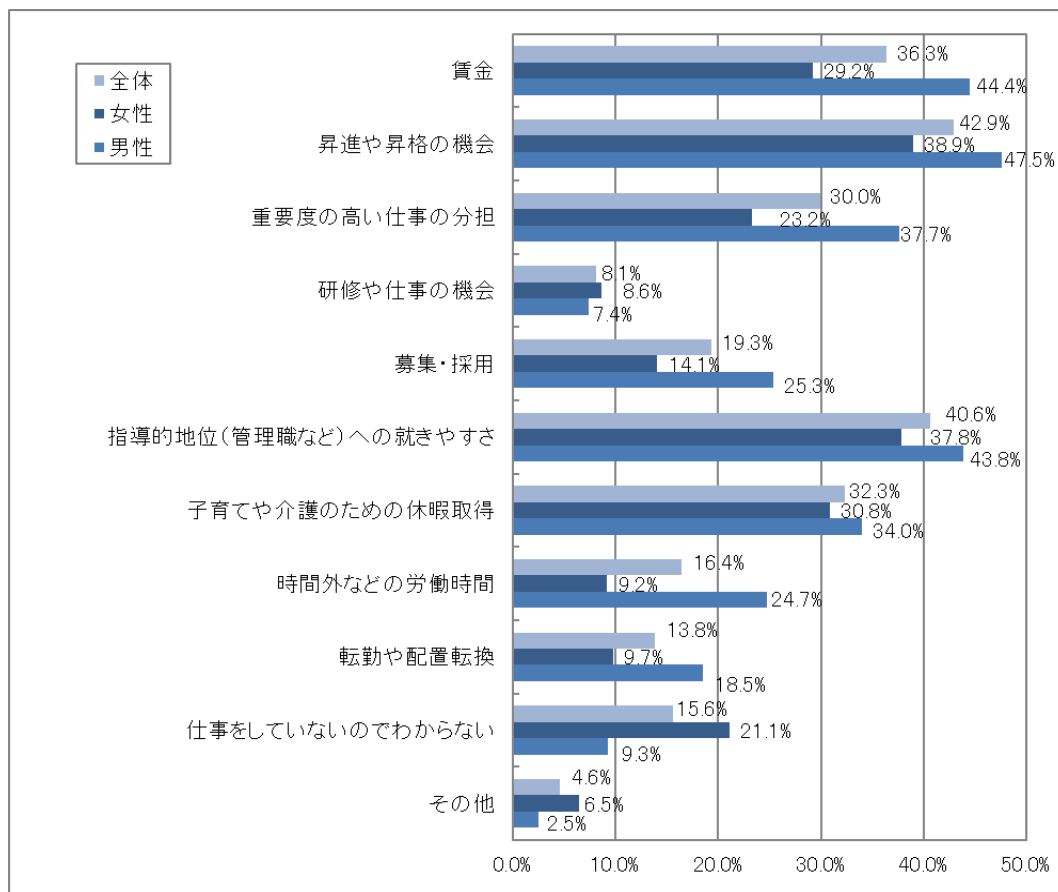
	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
<b>全体</b>	<b>69.3%</b>	<b>10.2%</b>	<b>14.3%</b>	<b>2.9%</b>	<b>3.3%</b>
<b>女性</b>	<b>60.5%</b>	<b>14.5%</b>	<b>16.9%</b>	<b>4.0%</b>	<b>4.0%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
30歳代	50.0%	30.8%	19.2%	0.0%	0.0%
40歳代	65.0%	10.0%	25.0%	0.0%	0.0%
50歳代	50.0%	7.1%	28.6%	3.6%	10.7%
60歳代	76.2%	9.5%	4.8%	9.5%	0.0%
70歳代	60.0%	15.0%	10.0%	10.0%	5.0%
80歳代以上	60.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%
<b>男性</b>	<b>78.3%</b>	<b>5.8%</b>	<b>11.7%</b>	<b>1.7%</b>	<b>2.5%</b>
10歳代	-	-	-	-	-
20歳代	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
30歳代	92.9%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%
40歳代	78.3%	4.3%	8.7%	0.0%	8.7%
50歳代	68.4%	15.8%	10.5%	5.3%	0.0%
60歳代	84.6%	3.8%	11.5%	0.0%	0.0%
70歳代	70.0%	6.7%	20.0%	0.0%	3.3%
80歳代以上	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

◆全体では、『主に夫』と回答した人の割合が69.3%で最も高く、次いで『夫婦同じくらい』が14.3%、『主に妻』が10.2%であった。前回の調査結果と比較して、傾向の変化は見られなかった。

◆男女別では、男性のほうが女性よりも『主に夫』と回答した人の割合が高く、『主に妻』『夫婦同じくらい』と回答した人の割合が低かった。

### (3) 仕事・職場について

問8 あなたが職場で男女平等ではないと思うのはどのようなことですか。(該当するものをすべて選択)



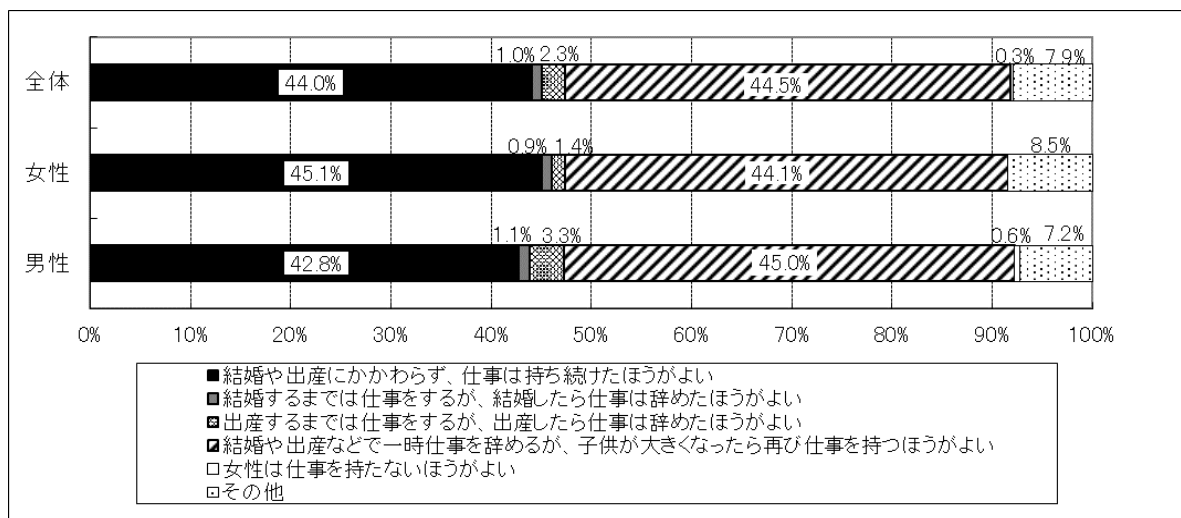
◆全体では、『昇進や昇格の機会』(42.9%)と回答した人の割合が最も高く、次いで『指導的地位(管理職など)への就きやすさ』(40.6%)が高かった。

◆男女別では、男性は『昇進や昇格の機会』(47.5%)と回答した人の割合が最も高く、次いで『賃金』(44.4%)、『指導的地位(管理職など)への就きやすさ』(43.8%)の順で高かった。

一方、女性は『昇進や昇格の機会』(38.9%)と回答した人の割合が最も高く、次いで『指導的地位(管理職など)への就きやすさ』(37.8%)、『子育てや介護のための休暇取得』(30.8%)の順で高かった。

また、男女間で『重要度の高い仕事の分担』や『時間外などの労働時間』については、回答した人の割合に乖離が見られた。

問9 あなたは女性が社会で働くことについて、どのように考えますか。(1つのみ選択)



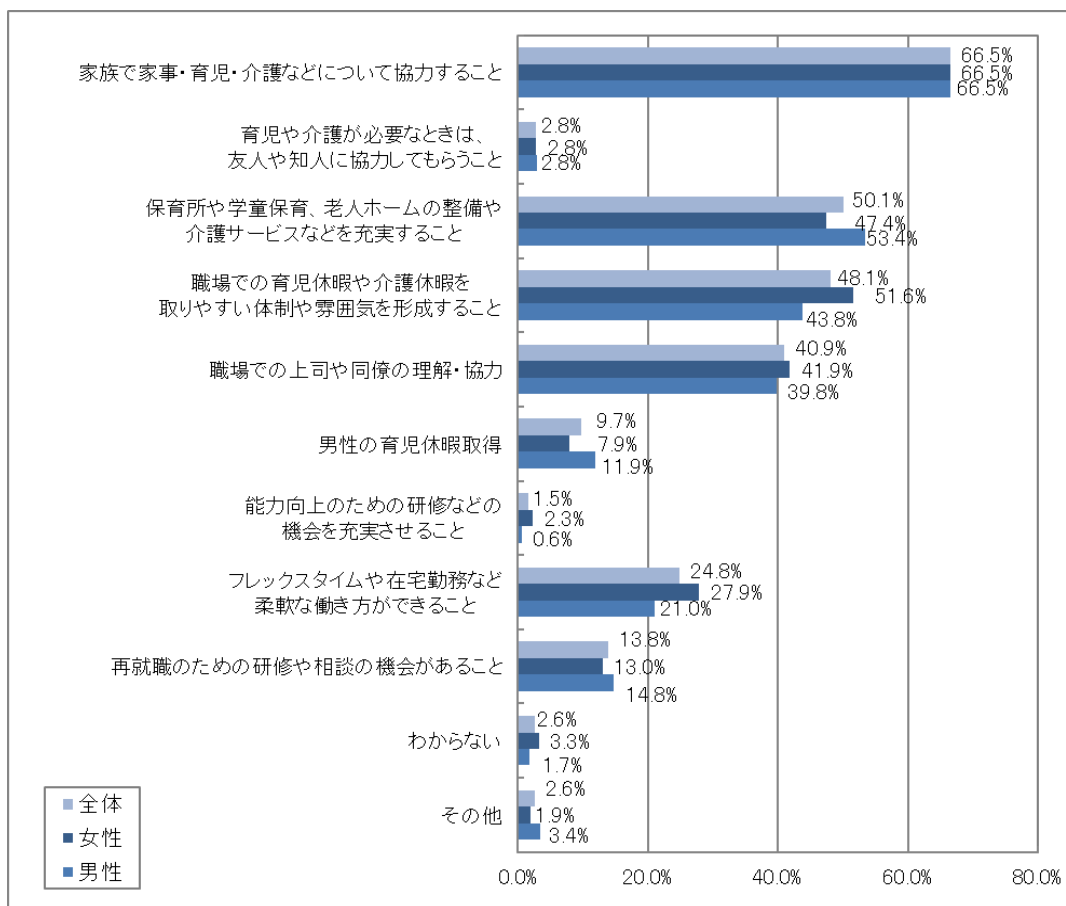
	仕事は持ち続けたほうがよい	結婚したら仕事は辞めたほうがよい	出産したら仕事は辞めたほうがよい	子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい	女性は仕事をもたないほうがよい	その他※
全体	44.0%	1.0%	2.3%	44.5%	0.3%	7.9%
女性	45.1%	0.9%	1.4%	44.1%	0.0%	8.5%
10歳代	60.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%
20歳代	45.8%	0.0%	0.0%	54.2%	0.0%	0.0%
30歳代	57.9%	0.0%	0.0%	31.6%	0.0%	10.5%
40歳代	48.4%	3.2%	0.0%	35.5%	0.0%	12.9%
50歳代	43.5%	0.0%	0.0%	43.5%	0.0%	13.0%
60歳代	28.0%	4.0%	0.0%	60.0%	0.0%	8.0%
70歳代	34.5%	0.0%	10.3%	51.7%	0.0%	3.4%
80歳代以上	53.3%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	6.7%
男性	42.8%	1.1%	3.3%	45.0%	0.6%	7.2%
10歳代	40.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%
20歳代	25.0%	0.0%	6.3%	50.0%	0.0%	18.8%
30歳代	56.5%	0.0%	0.0%	34.8%	0.0%	8.7%
40歳代	48.4%	0.0%	0.0%	32.3%	0.0%	19.4%
50歳代	33.3%	4.2%	8.3%	54.2%	0.0%	0.0%
60歳代	55.2%	0.0%	3.4%	37.9%	0.0%	3.4%
70歳代	43.6%	0.0%	0.0%	53.8%	0.0%	2.6%
80歳代以上	15.4%	7.7%	7.7%	69.2%	0.0%	0.0%

※【その他 複数意見】  
 ・個人の自由  
 ・本人次第

◆全体では、『結婚や出産などで一時仕事を辞めるが、子供が大きくなったら再び仕事を持つほうがよい』と回答した人の割合が44.5%で最も高かった。過去3回の調査でも同様だったが、その割合は徐々に低下している(H15年:60.7%⇒H22年:52.2%⇒H27年:48.4%⇒今回:44.5%)。また、『結婚や出産にかかわらず、仕事は持ち続けたほうがよい』の割合は44.0%で、こちらは増加傾向にある(H15年:25.6%⇒H22年:32.5%⇒H27年:40.9%⇒今回:44.0%)。

◆男女間の回答割合にあまり大きな差は見られなかった。

問10 あなたは、女性が結婚・出産後も仕事を続けたり、再就職するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択)



◆全体、男女別ともに『家族で家事・育児・介護などについて協力すること』と回答した人の割合が66.5%で最も高かった。

◆女性は、上記に次いで、『職場での育児休暇や介護休暇を取りやすい体制や雰囲気形成すること』と回答した人の割合が高く51.6%、男性は『保育所や学童保育、老人ホームの整備や介護サービスなどを充実すること』と回答した人の割合が高く53.4%となり、いずれも5割を超えた。

※【その他 複数意見】

- ・本人次第
- ・国や自治体による支援
- ・男女問わず、結婚や育児や介護でライフスタイルが変わっても働けるシステムや社会の風潮

#### (4) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

<時間の使い方について>

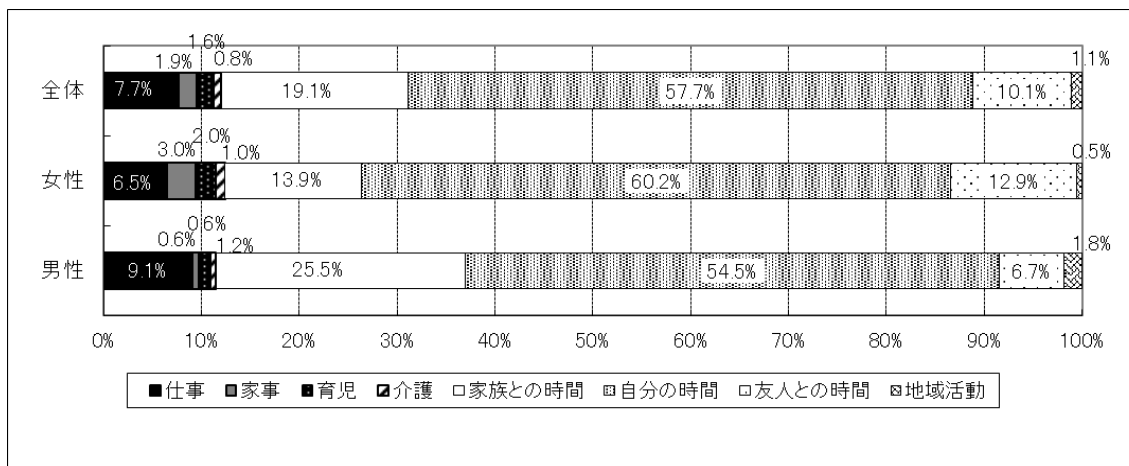
問11 以下について、あなたは1日あたりどのくらいの時間を費やしていますか。平日と休日について、それぞれ平均的な1日を思い浮かべてお答えください。

《お詫び》

仕事、家事、育児、介護、家族との時間、自分の時間、友人・恋人との時間、地域活動について費やしている時間に関する設問でしたが、条件設定等に不備があったため、適切な回答が得られませんでした。ご協力いただいた皆様には大変申し訳ございませんが、当設問の集計結果につきましては公表を控えさせていただきます。

問12 あなたが今最も確保したい時間は、以下のうち、どの時間ですか。また、その時間を確保するために必要なのはどのようなことだと思いますか。

<最も確保したい時間> (1つのみ選択)

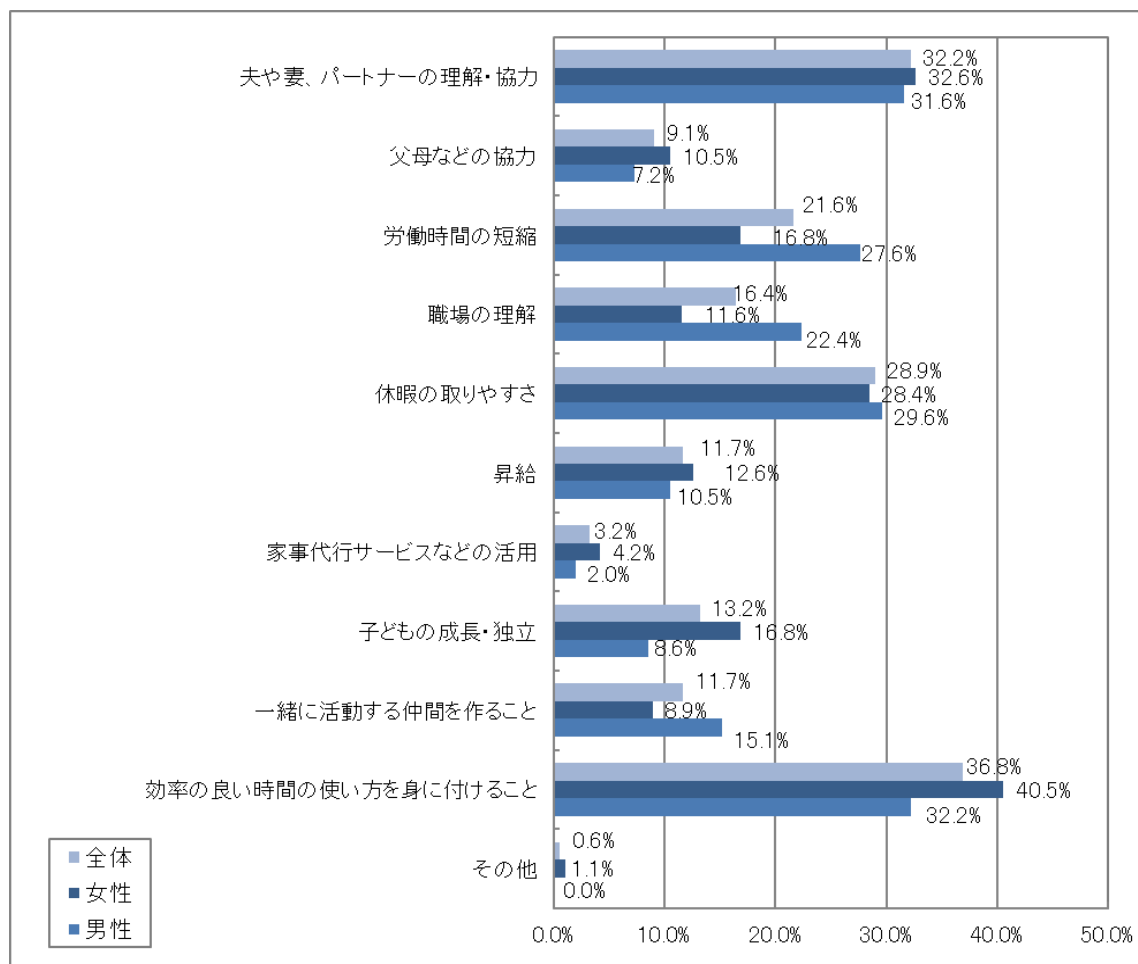


	仕事	家事	育児	介護	家族との時間	自分の時間	友人との時間	地域活動
全体	7.7%	1.9%	1.6%	0.8%	19.1%	57.7%	10.1%	1.1%
女性	6.5%	3.0%	2.0%	1.0%	13.9%	60.2%	12.9%	0.5%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	0.0%
20歳代	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.0%	60.0%	16.0%	0.0%
30歳代	7.9%	0.0%	5.3%	0.0%	10.5%	71.1%	5.3%	0.0%
40歳代	10.0%	0.0%	3.3%	0.0%	20.0%	60.0%	6.7%	0.0%
50歳代	8.7%	4.3%	0.0%	0.0%	17.4%	56.5%	13.0%	0.0%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	70.8%	16.7%	0.0%
70歳代	0.0%	17.4%	4.3%	4.3%	13.0%	39.1%	21.7%	0.0%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	10.0%	60.0%	10.0%	10.0%
男性	9.1%	0.6%	1.2%	0.6%	25.5%	54.5%	6.7%	1.8%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%
20歳代	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	26.7%	0.0%
30歳代	13.0%	0.0%	4.3%	0.0%	21.7%	60.9%	0.0%	0.0%
40歳代	3.4%	3.4%	3.4%	0.0%	44.8%	44.8%	0.0%	0.0%
50歳代	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	20.8%	70.8%	0.0%	0.0%
60歳代	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	66.7%	3.7%	3.7%
70歳代	21.2%	0.0%	0.0%	0.0%	27.3%	36.4%	12.1%	3.0%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	33.3%	11.1%	11.1%

◆全体、男女別ともに、『自分の時間』と回答した人の割合が最も高く、次いで『家族との時間』と回答した人の割合が高かった。

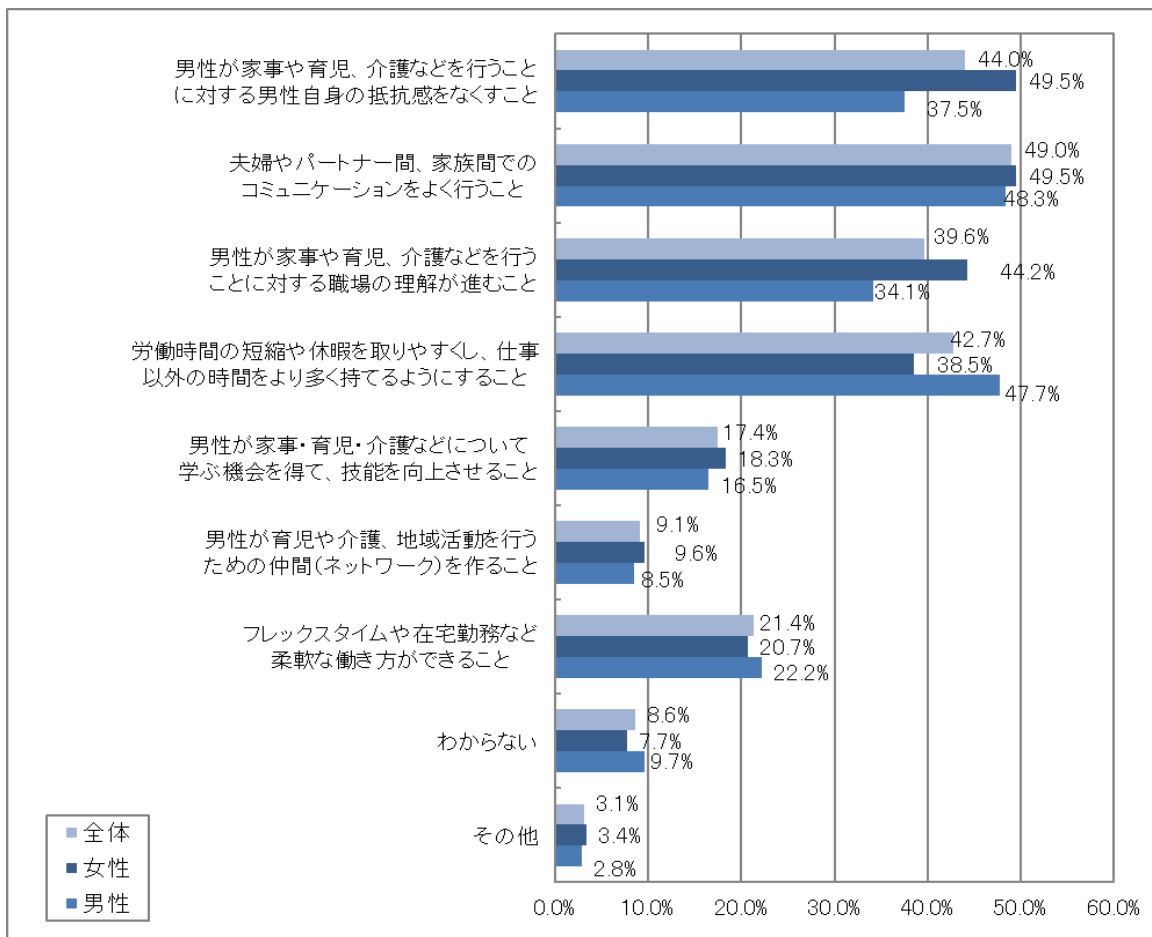
◆男女別では、女性の方が男性に比べて『友人との時間』と回答した人の割合が高く、子育て世代の30～50代以外の年代では、『自分の時間』に次いで高い割合となった。一方、男性は、『家族との時間』と回答した人の割合が女性よりも高く、特に40代は44.8%と高く、家族との時間が十分に取れていないことがうかがえた。

<時間を確保するために必要なこと> (3つまで選択)



- ◆全体、男女別ともに、『効率の良い時間の使い方を身に付けること』と回答した人の割合が最も高く、次いで『夫や妻、パートナーの理解・協力』、『休暇の取りやすさ』と回答した人の割合が高かった。
- ◆男女別では、女性より男性の方が、『労働時間の短縮』・『職場の理解』と回答した人の割合が高く、男性の時間確保のためのカギは職場にあることがうかがい知れた。

問13 平成28年度の総務省の調査によると、日本の6歳未満の子どもを持つ夫婦の1日当たりの育児・家事関連時間の割合は、妻:夫=7:1であり、他の先進国と比較しても、妻の負担が非常に重くなっている状況にあります。あなたは、男性が家事、育児、介護などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択)



◆全体では、『夫婦やパートナー間、家族間でのコミュニケーションをよく行うこと』と回答した人の割合が49.0%で最も高く、次いで『男性が家事や育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』(44.0%)、『労働時間の短縮や休暇を取りやすくし、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること』(42.7%)の順に高かった。

※【その他 複数意見】

- ・意識改革
- ・社会全体の変化

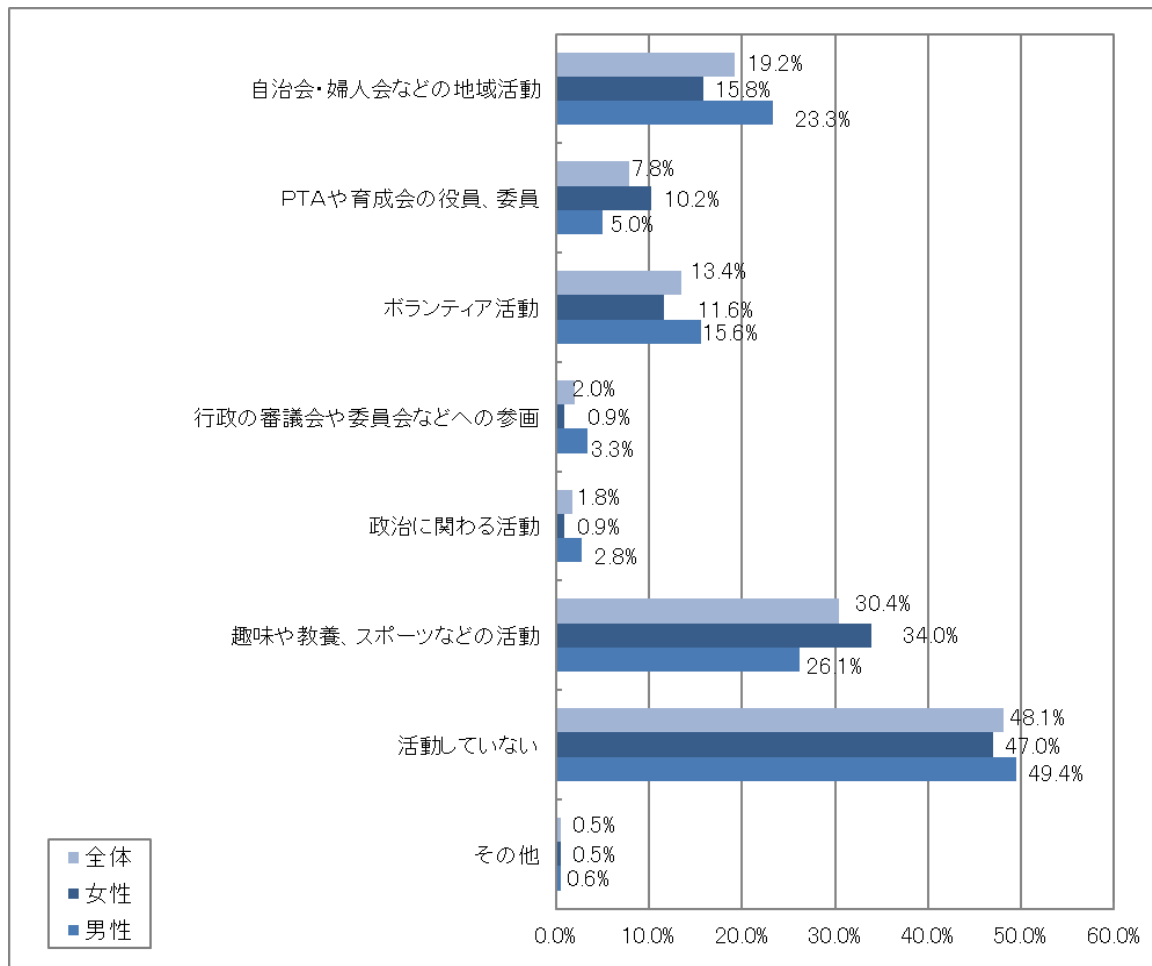
◆男女別では、女性の方が男性よりも『男性が家事や育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと』や『男性が家事や育児、介護などを行うことに対する職場の理解が進むこと』と回答した人の割合が高かった。



## (5) 社会参画について

＜地域活動への参画状況＞

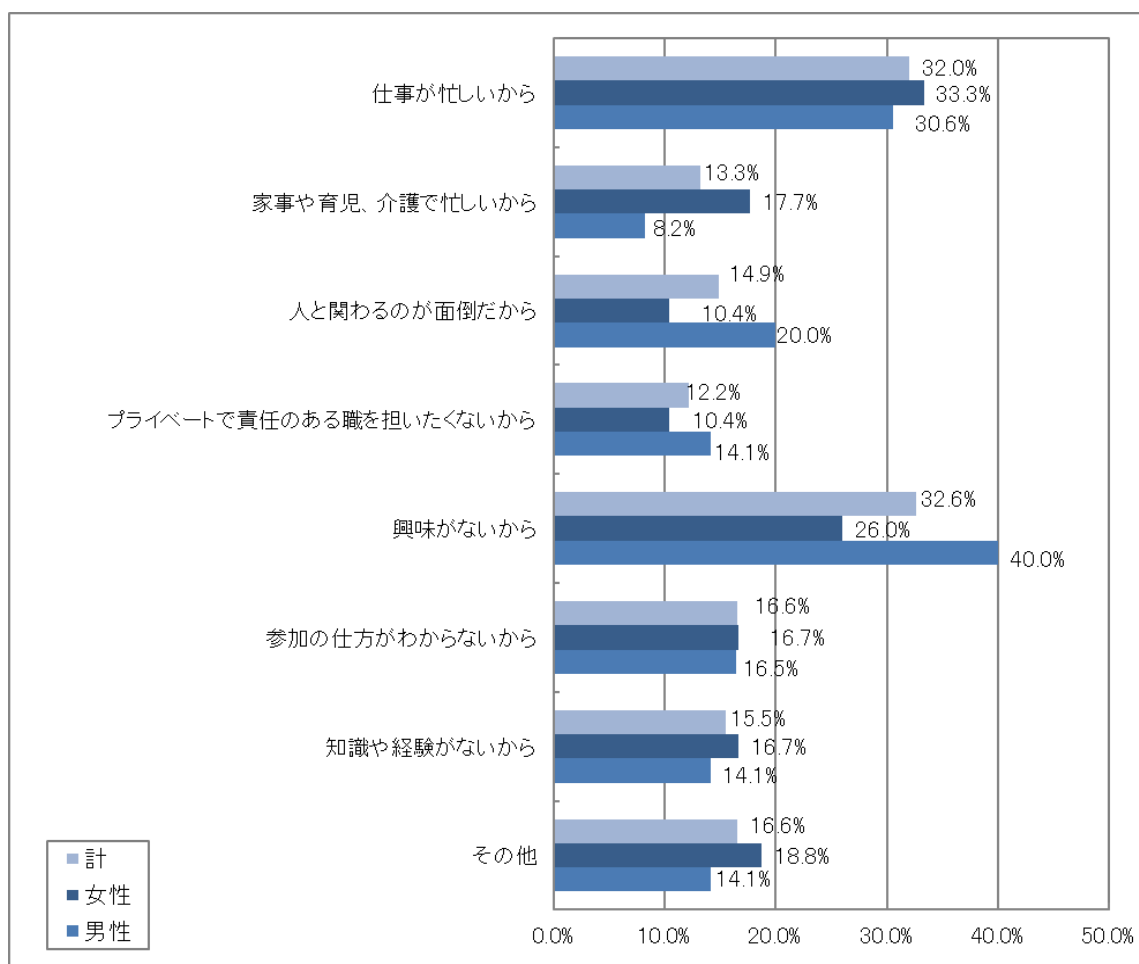
問14 あなたは、現在、どのような地域活動や社会活動に参加していますか。(該当するものすべてを選択)



◆全体、男女別ともに、『活動していない』と回答した人の割合が最も高く、次いで『趣味や教養、スポーツなどの活動』と回答した人の割合が高かった。

◆男女別では、女性は『PTAや育成会の役員』や『趣味や教養、スポーツなどの活動』と回答した人の割合が男性よりも高く、男性は『自治会・婦人会などの地域活動』や『ボランティア活動』と回答した人の割合が女性より高かった。

問15 問14で「活動していない」と回答した方について、活動しない主な理由は何ですか。(3つまで選択)



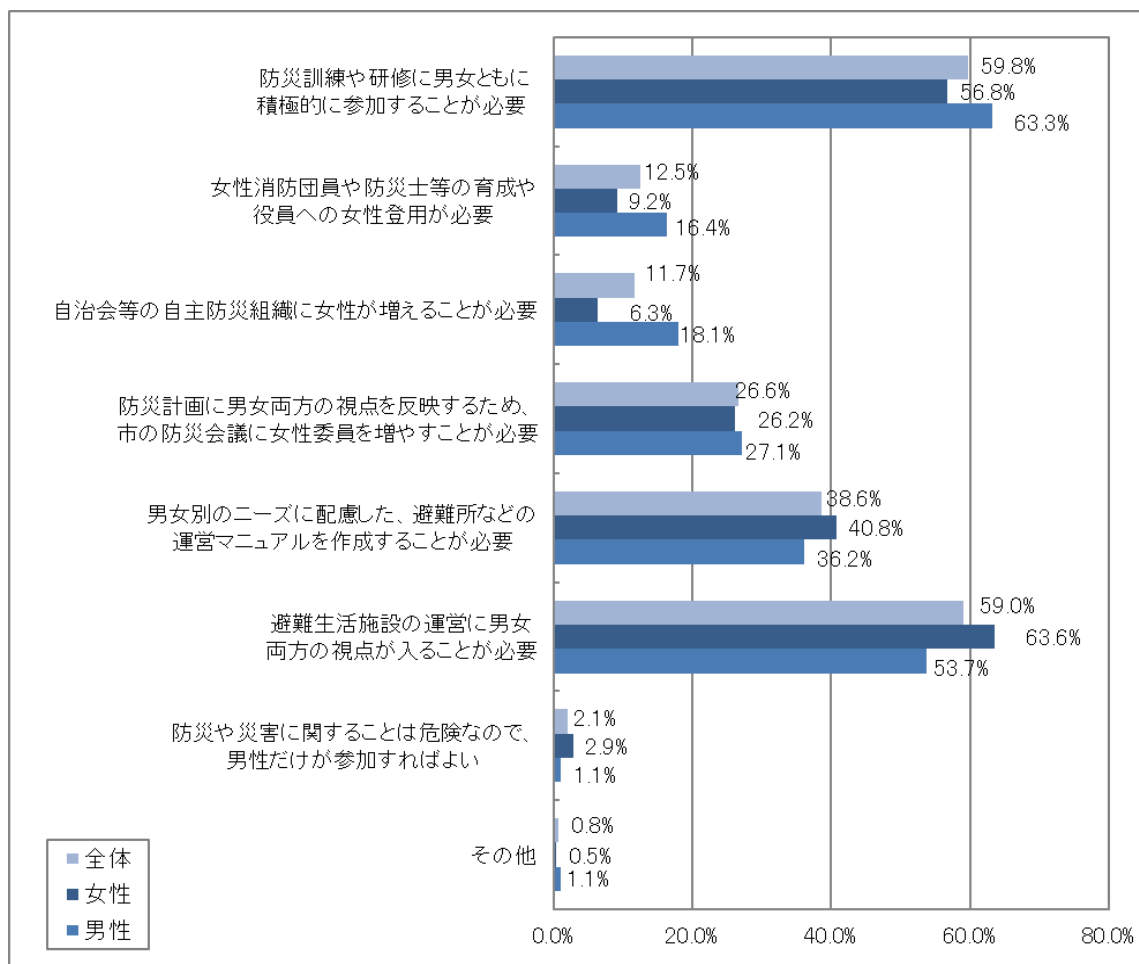
◆全体では、『興味がないから』と回答した人の割合が32.6%で最も高く、次いで『仕事が忙しいから』が32.0%だった。

◆男女別では、女性は『仕事が忙しいから』と回答した人の割合が33.3%で最も高く、次いで『興味がないから』が26.0%だった。一方、男性は『興味がないから』と回答した人の割合が40.0%で最も高く、女性よりも高い割合となった。また、『人とかかわるのが面倒だから』と回答した人の割合も、男性の方が女性よりも高かった。

※【その他 複数意見】

- 病気/体調不良のため
- 高齢のため
- 学業が忙しい

問16 大震災等の経験から、近年、防災・災害対策における男女共同参画の重要性が高まっています。  
 防災・災害対策について、あなたの考えに近いものを選んでください。(3つまで選択)

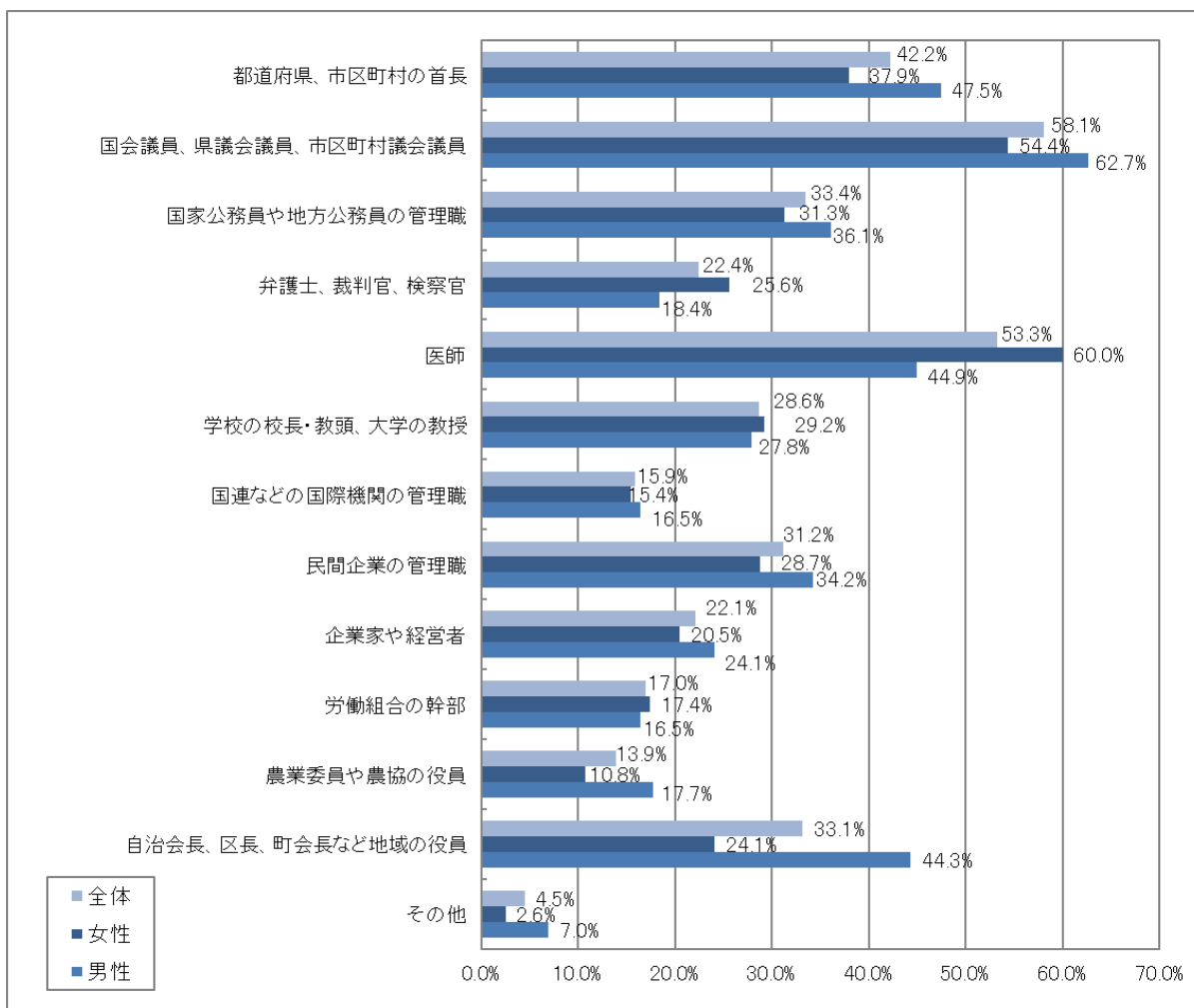


◆全体では、『防災訓練や研修に男女ともに積極的に参加することが必要』と回答した人の割合が59.8%で最も高く、次いで『避難生活施設の運営に男女両方の視点が入ることが必要』(59.0%)、『男女別のニーズに配慮した、避難所などの運営マニュアルを作成することが必要』(38.6%)の順に割合が高かった。

◆男女の参加や視点を反映などが必要と回答した人の割合は、男女ともに高かった一方で、『女性消防団員や防災士等の育成や役員への女性登用が必要』や『自治会等の自主防災組織に女性が増えることが必要』など、女性人材登用の面に関して必要と回答した人は1割程度にとどまり、特に男性よりも女性の方が、回答した人の割合が低かった。

## (6) 女性の活躍推進について

問17 今後女性が増えてほしいと思う職業や役職は何ですか。(該当するものすべてを選択)



◆全体では、『国会議員、県議会議員、市区町村議会議員』と回答した人の割合が58.1%で最も高く、次いで『医師』(53.3%)、『都道府県、市区町村の首長』(42.2%)の順で高かった。

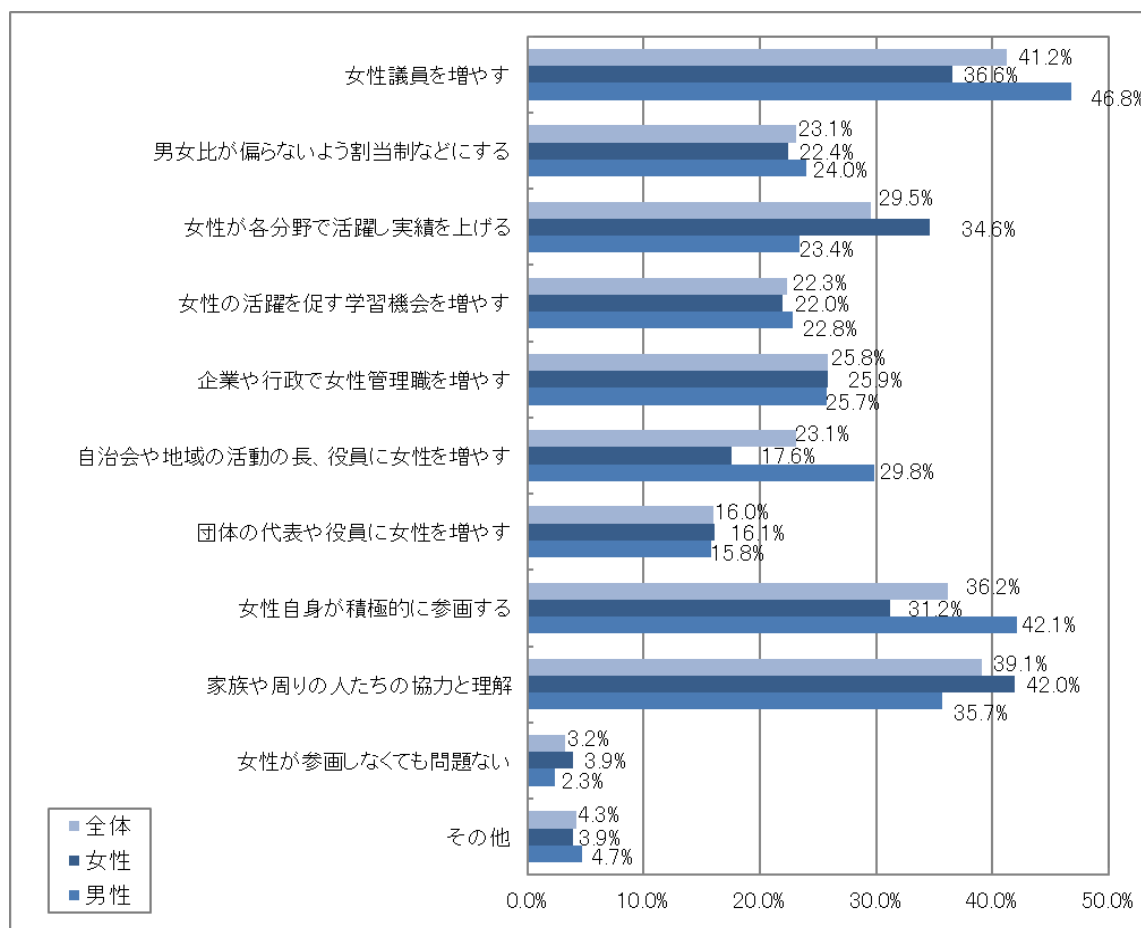
◆男女別では、女性は『医師』と回答した人の割合が60.0%で最も高く、次いで『国会議員、県議会議員、市区町村議会議員』が54.4%であった。『医師』については、男性と比べて女性の割合が大幅に高くなっているが、その一因として、2018年発覚した医学部入試不正問題の影響が考えられる。

※【その他 複数意見】

- すべての職業
- 性差ではなく資質や能力が重要
- やりたい人がやればよい

また、男性は、『国会議員、県議会議員、市区町村議会議員』と回答した人の割合が62.7%で最も高く、次いで『都道府県、市区町村の首長』が47.5%だった。なお、男性と女性で最も差があったのは、『自治会長、区長、町会長など地域の役員』であり、男性の割合が大幅に高い傾向は、前回調査でも同様であった。(前回調査: 男性59.1%、女性35.4%)

問18 桐生市では各種委員会等の女性の割合を30%以上にすることを目指していますが、現状は22%程度に留まっています。桐生市の各種委員会など、政策や意思決定の場への女性の参画をさらに進めていくために、あなたは、特にどのようなことが大切だと思いますか。(該当するものすべてを選択)



◆全体では、『女性議員を増やす』と回答した人の割合が41.2%で最も高く、次いで『家族や周りの人たちの協力と理解』(39.1%)、『女性自身が積極的に参画する』(36.2%)の順で高かった。

※【その他 複数意見】

- ・会議時の託児や時間帯の配慮
- ・性別に関係なく能力のある人が参加すればいい
- ・社会全体で女性参画の理解を深める

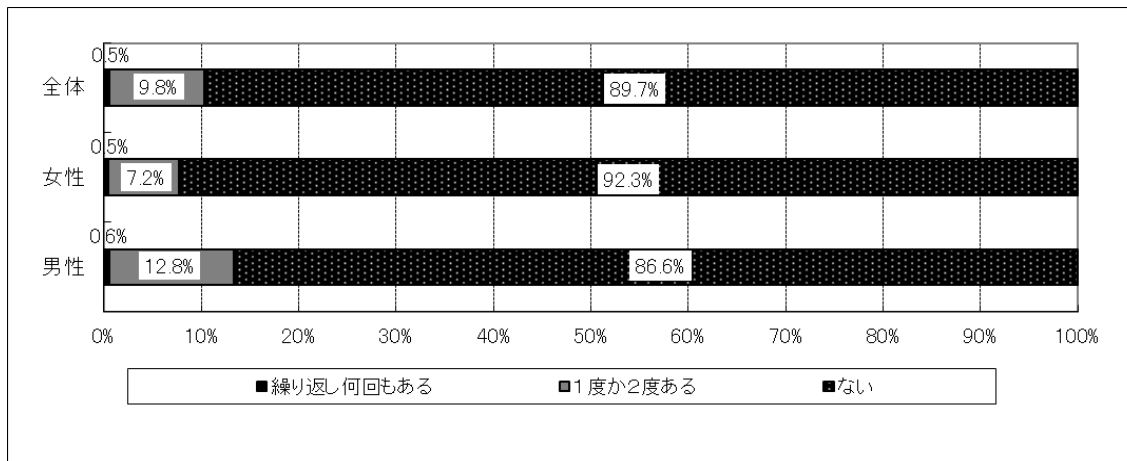
◆男女別では、女性は『家族や周りの人たちの協力と理解』と回答した人の割合が42.0%で最も高く、次いで『女性議員を増やす』(36.6%)、『女性が各分野で活躍し実績を上げる』(34.6%)の順に高かった。一方、男性は、『女性議員を増やす』と回答した人の割合が46.8%で最も高く、次いで『女性自身が積極的に参画する』(42.1%)、『家族や周りの人たちの協力と理解』(35.7%)の順に高かった。

◆男女間の回答した人の割合の差については、『女性議員を増やす』『自治会や地域の活動の長、役員に女性を増やす』『女性自身が積極的に参画する』について、いずれも男性の方が女性よりも回答した人の割合が高かった。一方、女性は『女性が各分野で活躍し実績を上げると回答した人の割合が男性よりも高く、実績づくりの必要性を女性自身がより感じていることが垣間見られた。

## (7) 人権について

問19-1 あなたはこれまでに、夫や妻、パートナーなどの親しい関係の相手に、次のような暴力をふるったことはありますか。(各項目1つ選択)

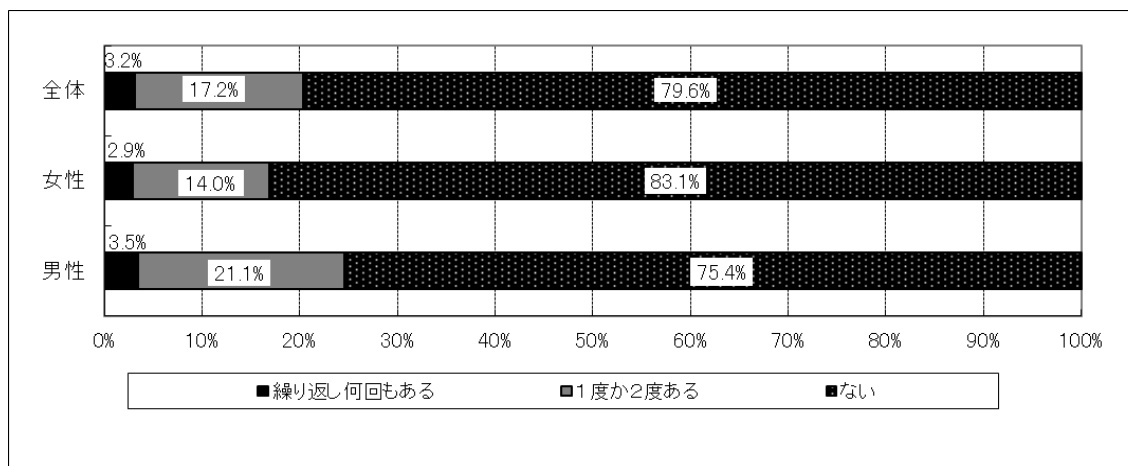
① 身体的な暴力(殴る、蹴る、ものを投げつける、突き飛ばす、刃物で脅す等)



	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
<b>全体</b>	<b>0.5%</b>	<b>9.8%</b>	<b>10.3%</b>	<b>89.7%</b>
<b>女性</b>	<b>0.5%</b>	<b>7.2%</b>	<b>7.7%</b>	<b>92.3%</b>
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	5.3%	5.3%	94.7%
40歳代	0.0%	10.7%	10.7%	89.3%
50歳代	0.0%	12.8%	12.8%	87.2%
60歳代	0.0%	4.0%	4.0%	96.0%
70歳代	0.0%	10.3%	10.3%	89.7%
80歳代以上	8.3%	0.0%	8.3%	91.7%
<b>男性</b>	<b>0.6%</b>	<b>12.8%</b>	<b>13.4%</b>	<b>86.6%</b>
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	6.7%	6.7%	93.3%
30歳代	0.0%	13.6%	13.6%	86.4%
40歳代	3.3%	6.7%	10.0%	90.0%
50歳代	0.0%	16.0%	16.0%	84.0%
60歳代	0.0%	21.4%	21.4%	78.6%
70歳代	0.0%	13.5%	13.5%	86.5%
80歳代以上	0.0%	10.0%	10.0%	90.0%

◆全体では、身体的な暴力をふるったことが『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合は10.3%で、男性の方が『ある』と回答した人の割合が高かった。

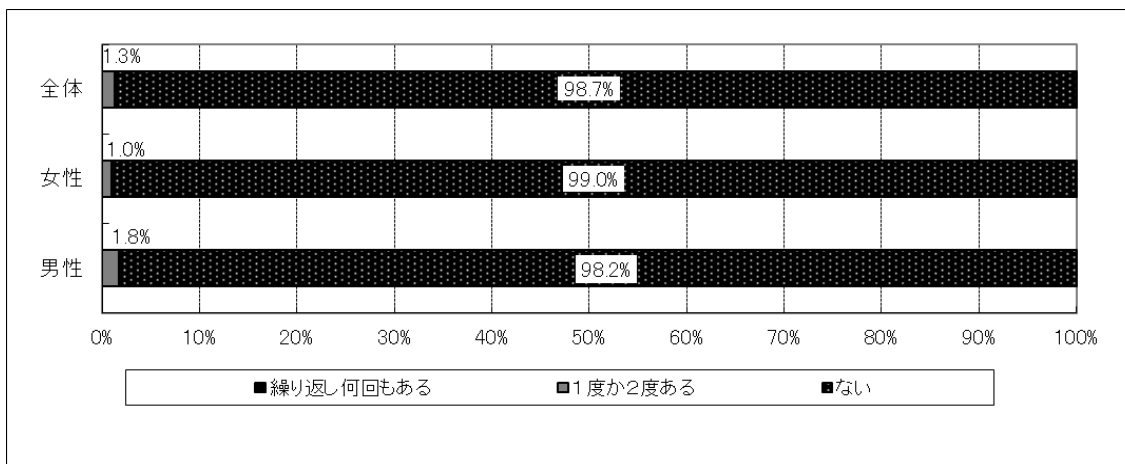
② 精神的な暴力(脅す、人格を否定する、無視する、行動を監視する等)



	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	3.2%	17.2%	20.4%	79.6%
女性	2.9%	14.0%	16.9%	83.1%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	5.3%	15.8%	21.1%	78.9%
40歳代	3.6%	17.9%	21.4%	78.6%
50歳代	2.1%	19.1%	21.3%	78.7%
60歳代	0.0%	12.0%	12.0%	88.0%
70歳代	6.9%	10.3%	17.2%	82.8%
80歳代以上	0.0%	25.0%	25.0%	75.0%
男性	3.5%	21.1%	24.6%	75.4%
10歳代	40.0%	0.0%	40.0%	60.0%
20歳代	6.7%	20.0%	26.7%	73.3%
30歳代	4.5%	18.2%	22.7%	77.3%
40歳代	3.3%	23.3%	26.7%	73.3%
50歳代	0.0%	12.0%	12.0%	88.0%
60歳代	0.0%	28.6%	28.6%	71.4%
70歳代	2.7%	27.0%	29.7%	70.3%
80歳代以上	0.0%	11.1%	11.1%	88.9%

◆全体では、精神的な暴力をふるったことが『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合は20.4%で、男性の方が『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合が高かった。

③ 性的な暴力（性行為や中絶の強要、避妊に協力しない、ポルノを見せる等）

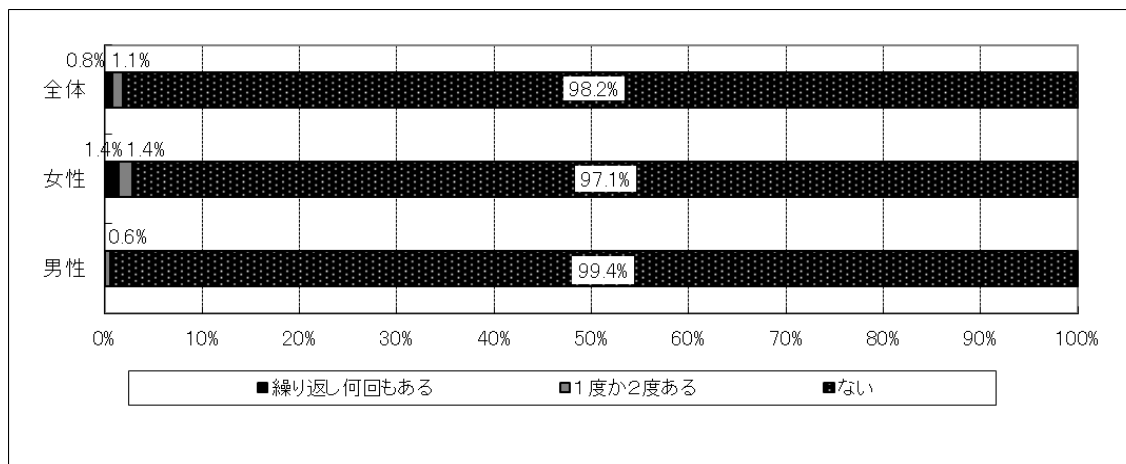


	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	0.0%	1.3%	1.3%	98.7%
女性	0.0%	1.0%	1.0%	99.0%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
50歳代	0.0%	2.1%	2.1%	97.9%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
80歳代以上	0.0%	8.3%	8.3%	91.7%
男性	0.0%	1.8%	1.8%	98.2%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	4.5%	4.5%	95.5%
40歳代	0.0%	6.7%	6.7%	93.3%
50歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

◆全体では、性的な暴力をふるったことが『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合は1.3%で、その他の暴力と比較すると、『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合が低かった。



④ 経済的な暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害する等)

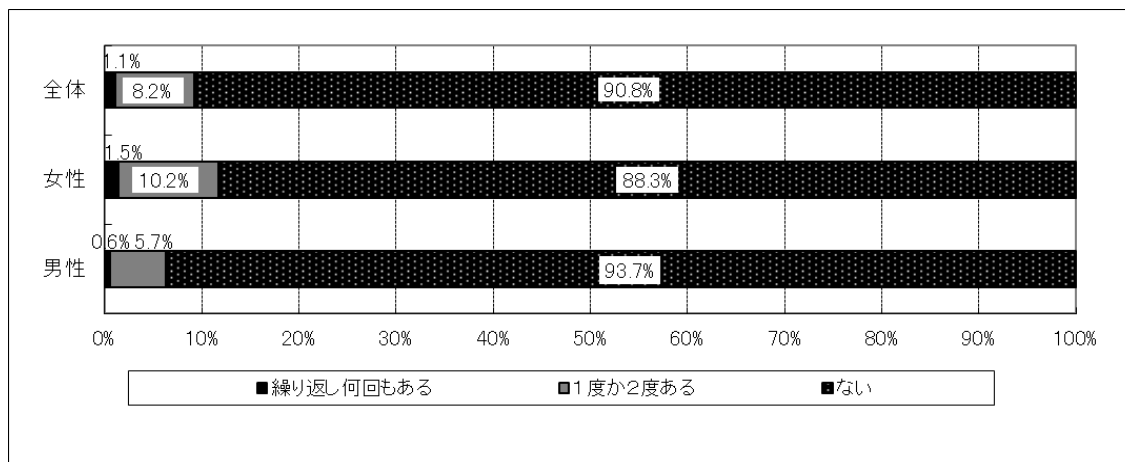


	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	0.8%	1.1%	1.8%	98.2%
女性	1.4%	1.4%	2.9%	97.1%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	2.6%	2.6%	97.4%
40歳代	0.0%	3.6%	3.6%	96.4%
50歳代	0.0%	2.1%	2.1%	97.9%
60歳代	4.0%	0.0%	4.0%	96.0%
70歳代	3.4%	0.0%	3.4%	96.6%
80歳代以上	7.7%	0.0%	7.7%	92.3%
男性	0.0%	0.6%	0.6%	99.4%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	0.0%	3.3%	3.3%	96.7%
50歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

◆全体では、経済的な暴力をふるったことが『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合は1.8%で、身体的・精神的な暴力と比較すると、『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合が低かった。また、男性より女性の方が『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合が高かった。

問19-2 あなたはこれまでに、夫や妻、パートナーなどの親しい関係の相手から、次のような暴力を受けたことはありますか。(各項目1つ選択)

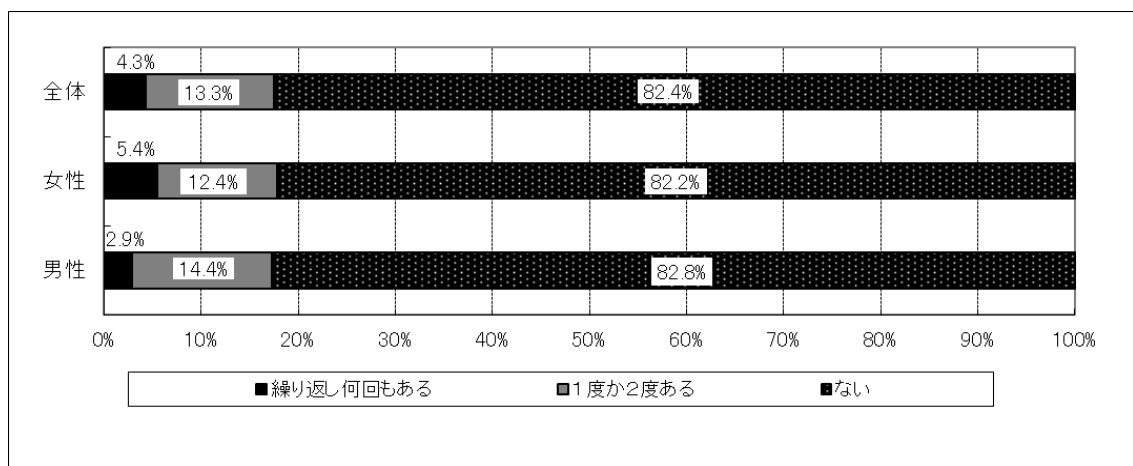
① 身体的な暴力(殴る、蹴る、ものを投げつける、突き飛ばす、刃物で脅す等)



	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	1.1%	8.2%	9.2%	90.8%
女性	1.5%	10.2%	11.7%	88.3%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	4.3%	4.3%	95.7%
30歳代	2.6%	5.3%	7.9%	92.1%
40歳代	0.0%	14.3%	14.3%	85.7%
50歳代	0.0%	10.6%	10.6%	89.4%
60歳代	0.0%	12.0%	12.0%	88.0%
70歳代	3.6%	17.9%	21.4%	78.6%
80歳代以上	9.1%	9.1%	18.2%	81.8%
男性	0.6%	5.7%	6.3%	93.7%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	6.7%	6.7%	93.3%
30歳代	0.0%	13.6%	13.6%	86.4%
40歳代	3.2%	3.2%	6.5%	93.5%
50歳代	0.0%	4.0%	4.0%	96.0%
60歳代	0.0%	7.1%	7.1%	92.9%
70歳代	0.0%	5.3%	5.3%	94.7%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

◆全体では、身体的な暴力を受けたことが『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合は9.2%だった。女性の方が『ある』(『繰り返し何回も』『1度か2度』の計)と回答した人の割合が高く、特に70歳以上については、他の年代に比べて割合が高かった。

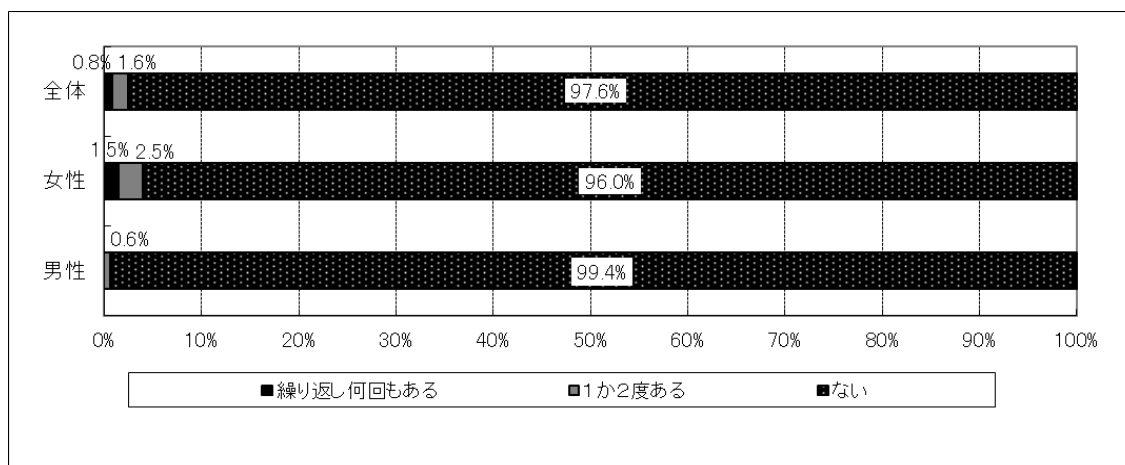
② 精神的な暴力(脅す、人格を否定する、無視する、行動を監視する等)



	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	4.3%	13.3%	17.6%	82.4%
女性	5.4%	12.4%	17.8%	82.2%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	4.3%	4.3%	95.7%
30歳代	10.5%	7.9%	18.4%	81.6%
40歳代	10.7%	28.6%	39.3%	60.7%
50歳代	6.4%	14.9%	21.3%	78.7%
60歳代	0.0%	8.3%	8.3%	91.7%
70歳代	3.7%	14.8%	18.5%	81.5%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性	2.9%	14.4%	17.2%	82.8%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	6.7%	6.7%	13.3%	86.7%
30歳代	9.1%	9.1%	18.2%	81.8%
40歳代	3.2%	19.4%	22.6%	77.4%
50歳代	0.0%	12.0%	12.0%	88.0%
60歳代	0.0%	28.6%	28.6%	71.4%
70歳代	2.6%	13.2%	15.8%	84.2%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

◆全体では、精神的な暴力を受けたことが『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合は17.6%だった。男女間の回答にあまり大きな差は見られなかったが、40代女性については、39.3%が『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答しており、他と比較して割合が高かった。

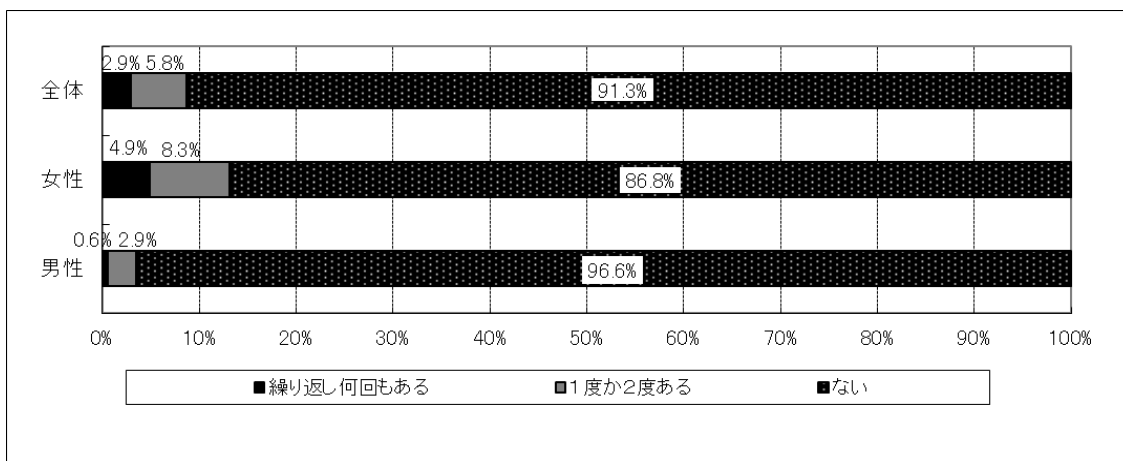
③ 性的な暴力（性行為や中絶の強要、避妊に協力しない、ポルノを見せる等）



	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	0.8%	1.6%	2.4%	97.6%
女性	1.5%	2.5%	4.0%	96.0%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	4.3%	4.3%	95.7%
30歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳代	7.1%	10.7%	17.9%	82.1%
50歳代	2.1%	2.1%	4.3%	95.7%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性	0.0%	0.6%	0.6%	99.4%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
30歳代	0.0%	4.5%	4.5%	95.5%
40歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
50歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

◆全体では、性的な暴力を受けたことが『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合は2.4%であり、女性の方が『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合が高かった。また、その他の暴力と比較すると、『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合が低かった。

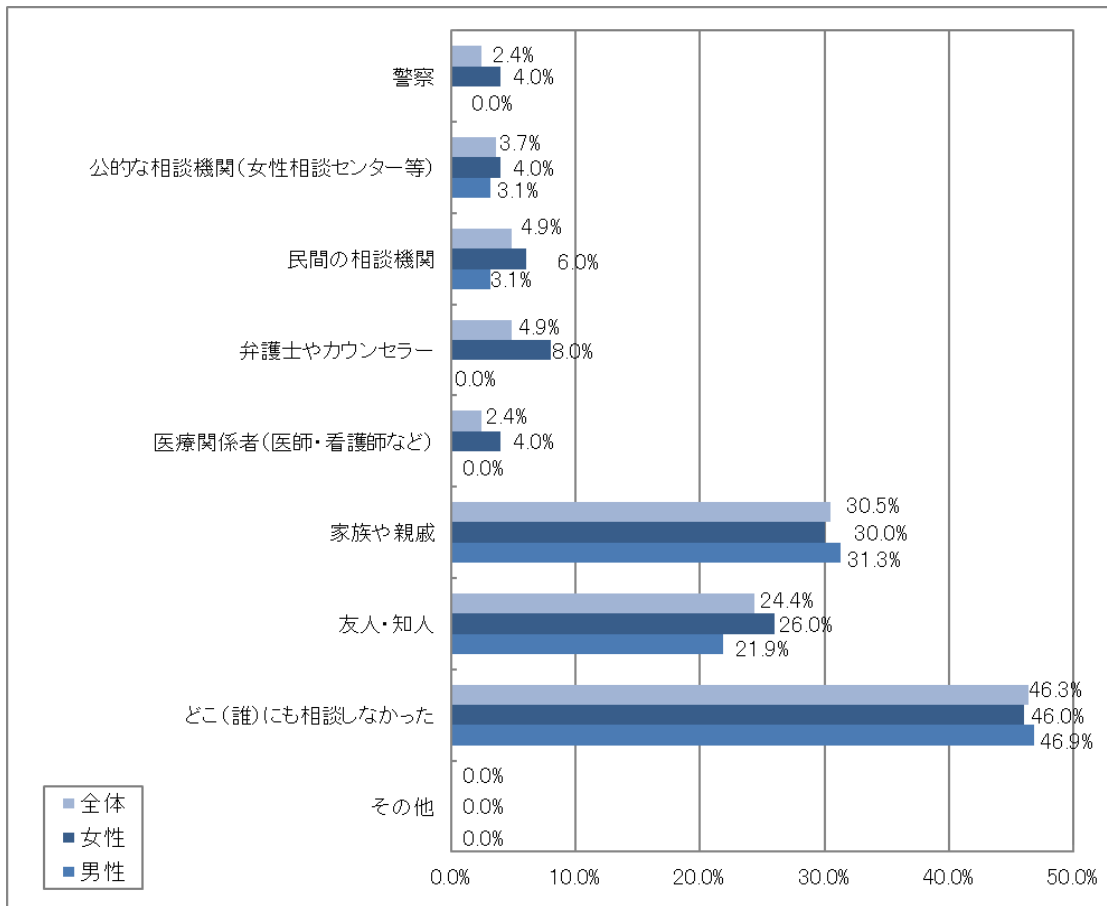
④ 経済的な暴力(生活費を渡さない、働くことを妨害する等)



	繰り返し何回もある	1度か2度ある	(あるの計)	ない
全体	2.9%	5.8%	8.7%	91.3%
女性	4.9%	8.3%	13.2%	86.8%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	4.3%	4.3%	95.7%
30歳代	0.0%	13.2%	13.2%	86.8%
40歳代	3.6%	10.7%	14.3%	85.7%
50歳代	8.5%	10.6%	19.1%	80.9%
60歳代	4.0%	8.0%	12.0%	88.0%
70歳代	11.1%	0.0%	11.1%	88.9%
80歳代以上	8.3%	8.3%	16.7%	83.3%
男性	0.6%	2.9%	3.4%	96.6%
10歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
20歳代	0.0%	6.7%	6.7%	93.3%
30歳代	4.5%	4.5%	9.1%	90.9%
40歳代	0.0%	6.5%	6.5%	93.5%
50歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
60歳代	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
70歳代	0.0%	2.6%	2.6%	97.4%
80歳代以上	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

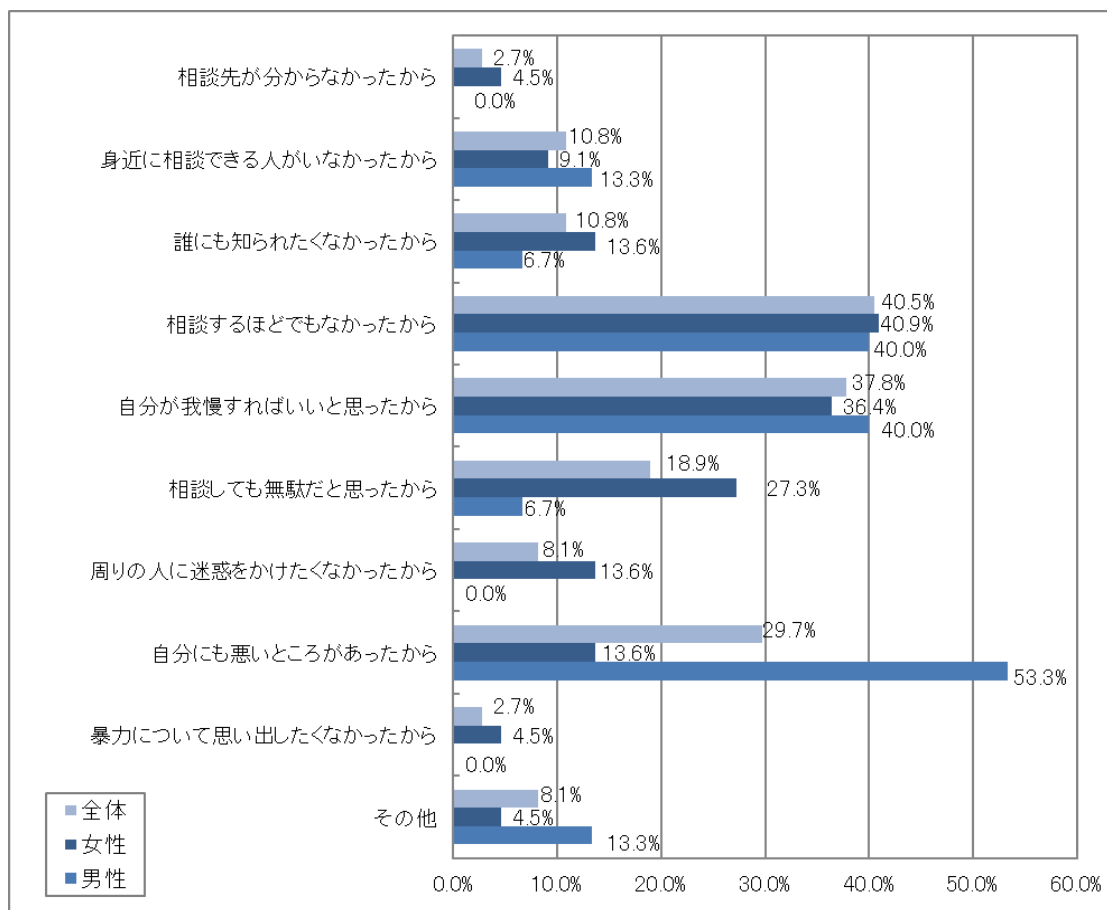
◆全体では、経済的な暴力を受けたことが『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合は8.7%であり、女性の方が『ある』（『繰り返し何回も』『1度か2度』の計）と回答した人の割合が高かった。

問20 夫や妻、パートナーなどの親しい関係の相手から暴力をふるわれた際、そのことをどこか(誰か)に相談しましたか。(該当するものすべてを選択)



◆全体、男女別ともに、『どこにも相談しなかった』と回答した人の割合が最も高く、いずれも46%を超えた。次いで『家族や親戚』、『友人・知人』の順に高く、警察や相談機関などに相談する人の割合は低い現状が明らかとなった。

問21 夫や妻、パートナーなどの親しい関係の相手から暴力をふるわれた際、どこ(誰)にも相談しなかったのはなぜですか。(該当するものすべてを選択)

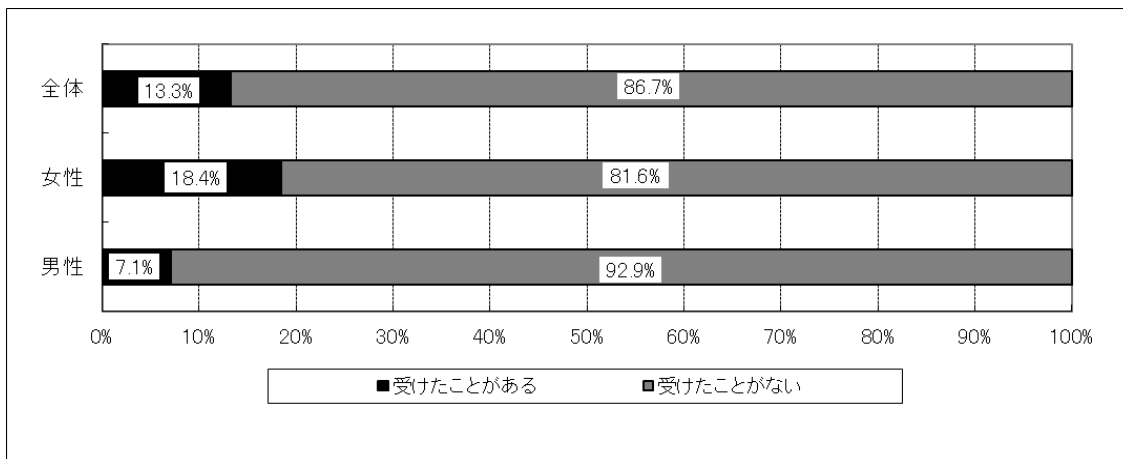


◆全体では、『相談するほどでもなかったから』と回答した人の割合が40.5%で最も高く、次いで『自分が我慢すればいいと思ったから』が37.8%だった。

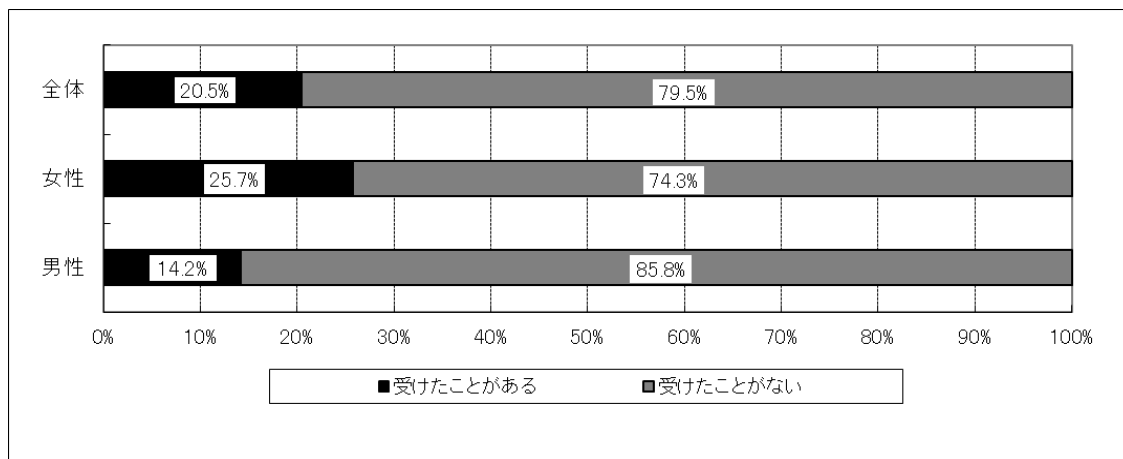
◆男女別では、男性は『自分にも悪いところがあったから』と回答した人の割合が53.3%で最も高く、女性と比較すると、突出して割合が高かった。また、女性は、『相談しても無駄だと思ったから』と回答した人の割合が男性よりも高かった。

問22 あなたは、これまでに職場、地域、学校などで次のようなセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けたことがありますか。(各項目1つに選択)

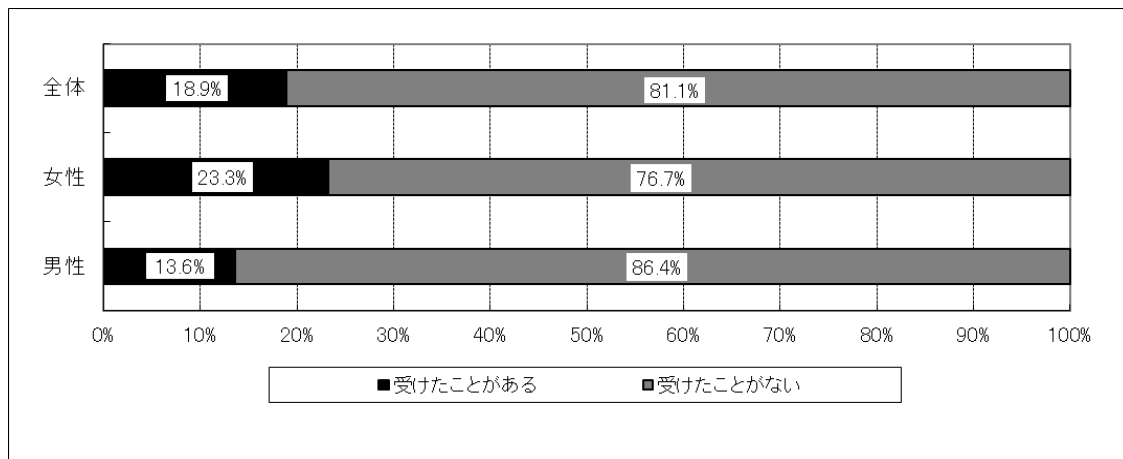
① 好まない性的な話を聞かされた



② 容姿について傷つくことを言われた

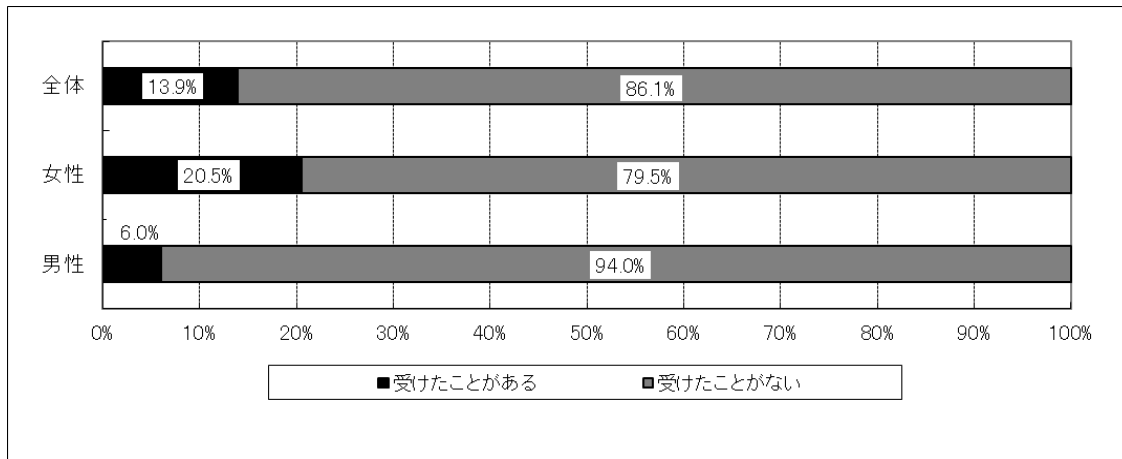


③ 「女のくせに」、「男のくせに」と性差別的な言い方をされた

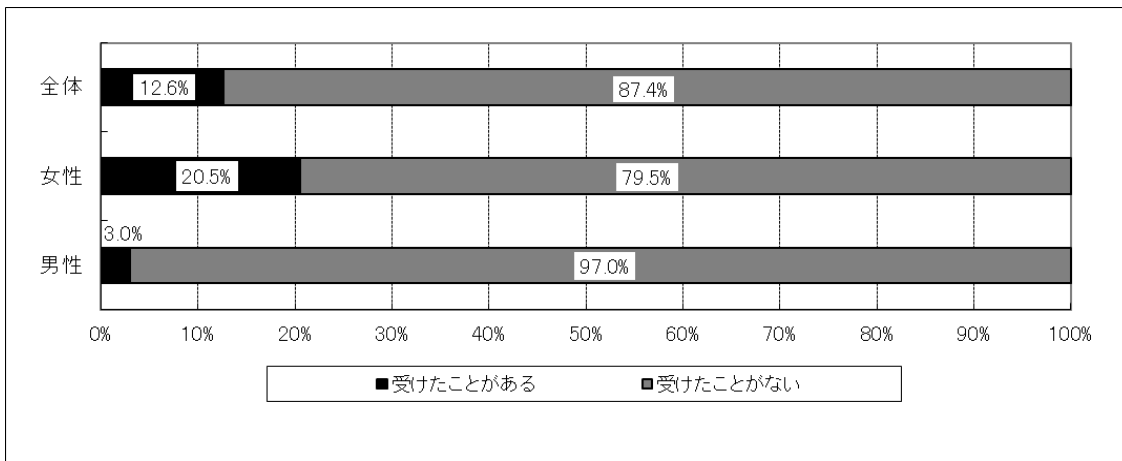




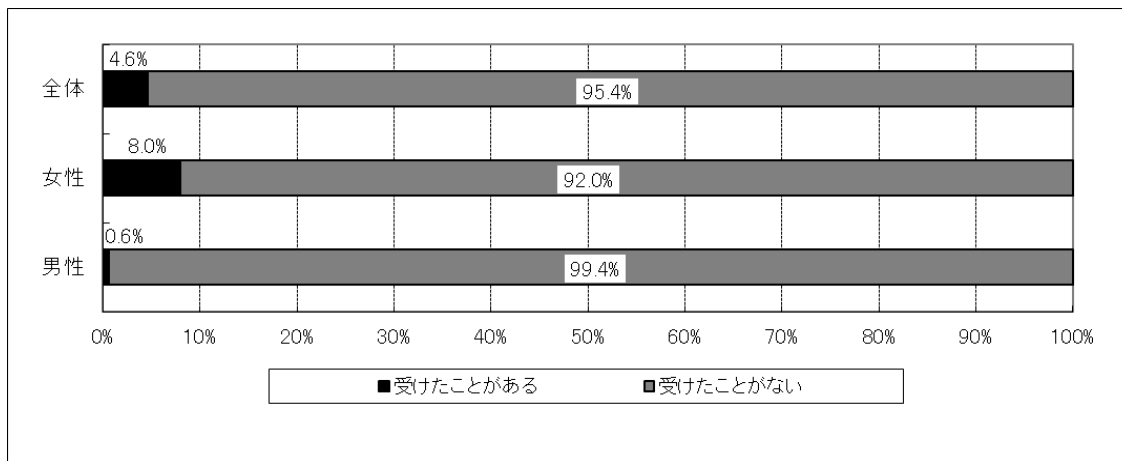
④ お酒の席でお酌やデュエットを強要された



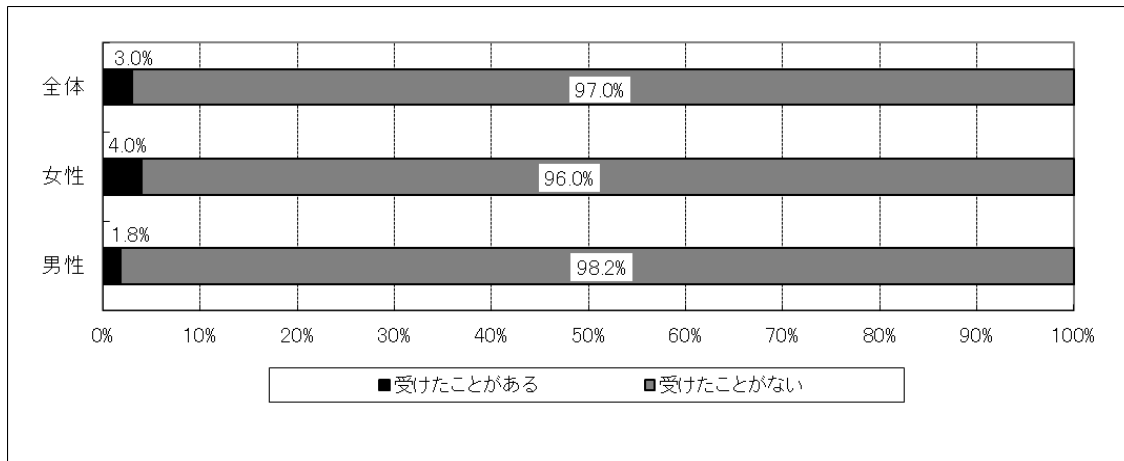
⑤ 不必要に体を触られた



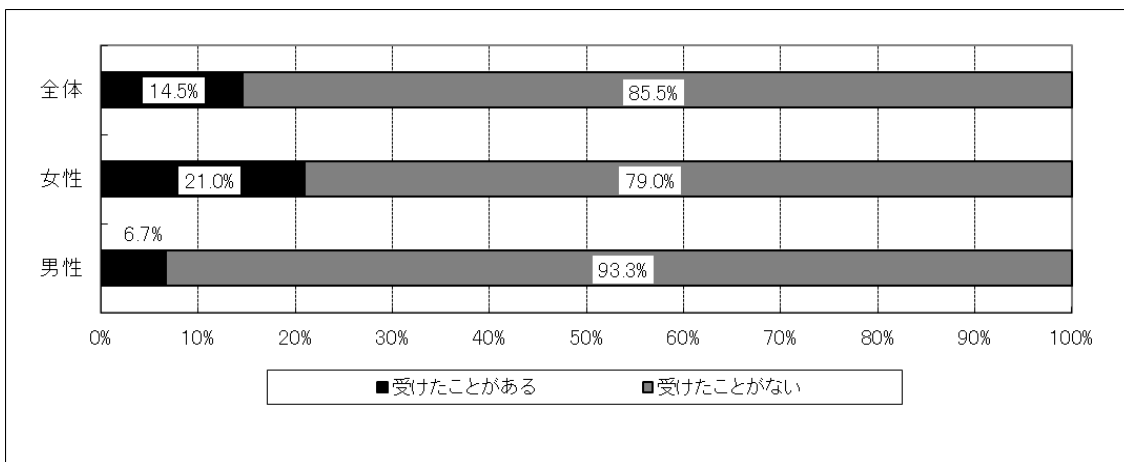
⑥ しつこく交際や性的な関係を強要された



⑦ 交際や性的な関係を拒否したら、いやがらせをされた

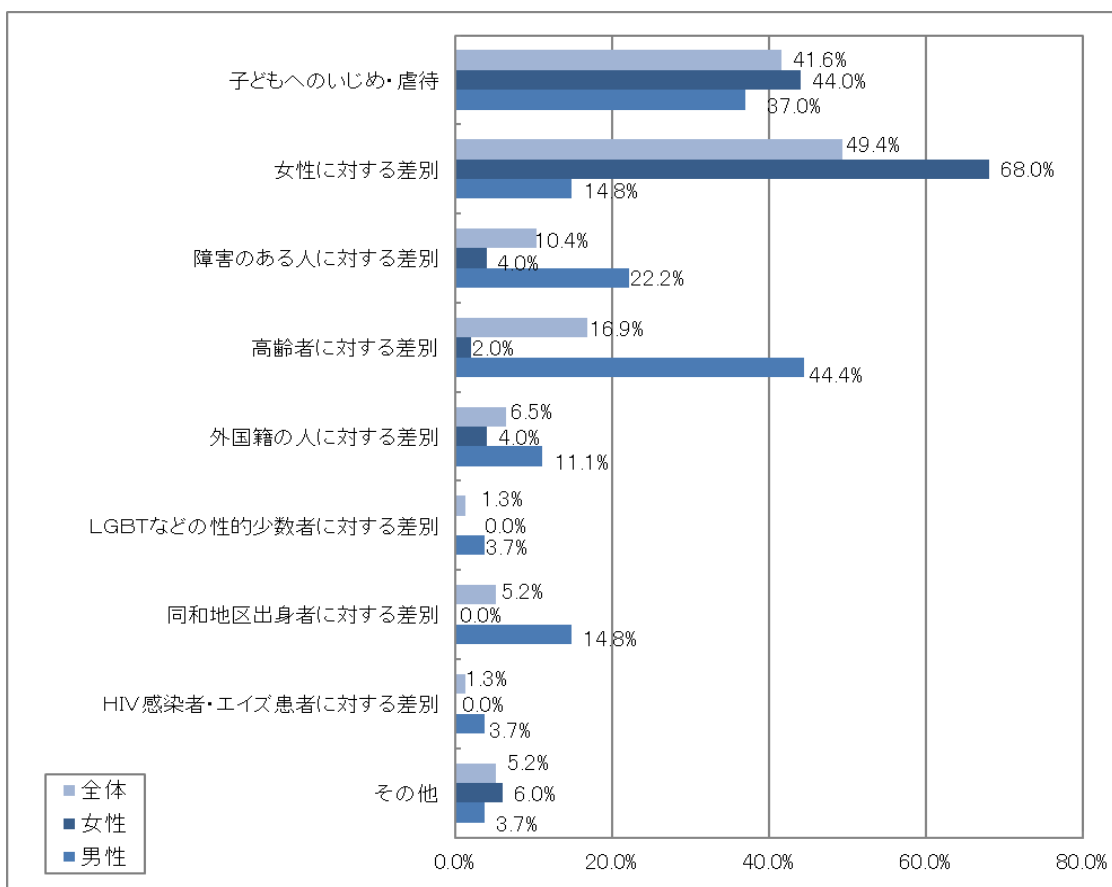


⑧ 結婚や出産などプライベートなことについてたびたび聞かれた



問23 あなたは、これまでに次のような差別や人権侵害を受けた経験はありますか。

(該当するものすべてを選択)



◆全体では、『女性に対する差別』と回答した人の割合が49.4%で最も高く、次いで『子どもへのいじめ・虐待』が41.6 %だった。

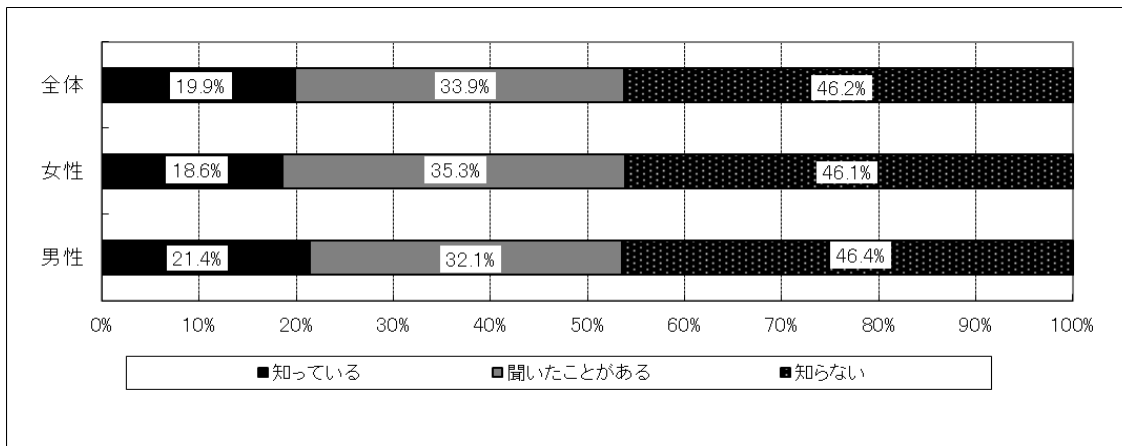
◆男女別では、女性は、『女性に対する差別』と回答した人の割合が68.0%で最も高く、次いで『子どもへのいじめ・虐待』が44.0 %だった。男性は、『高齢者に対する差別』と回答した人の割合が44.4%で最も高く、次いで『子どもへのいじめ・虐待』が37.0 %だった。全体的に男女で回答の割合にばらつきがみられた。

## (8) 男女共同参画施策について

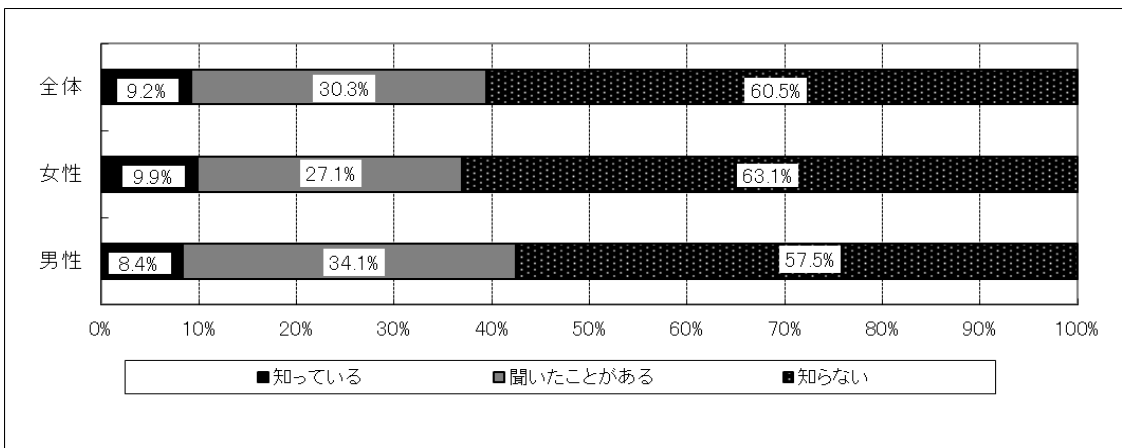
問24 あなたは、次の言葉や法律、市の事業などについて見たり聞いたりしたことがありますか。

(各項目1つ選択)

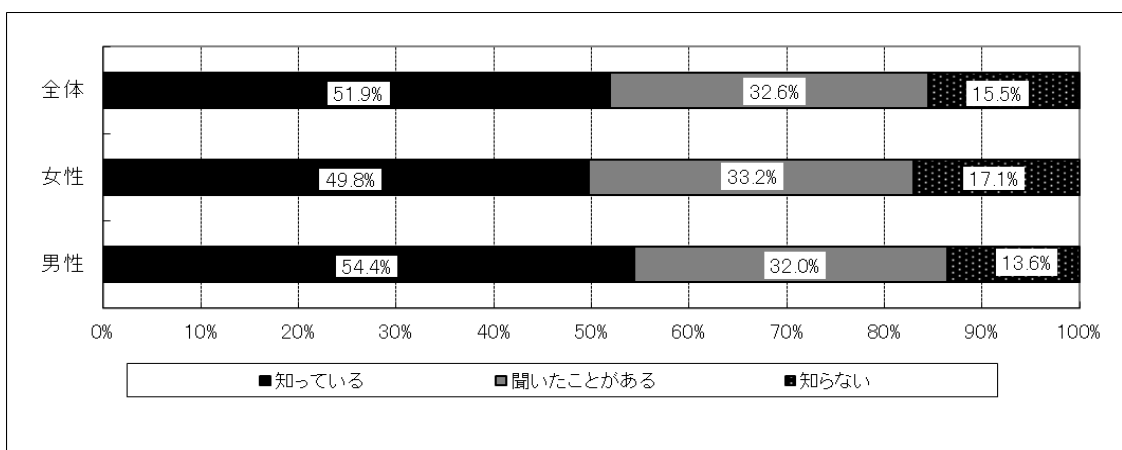
### ① 男女共同参画社会基本法



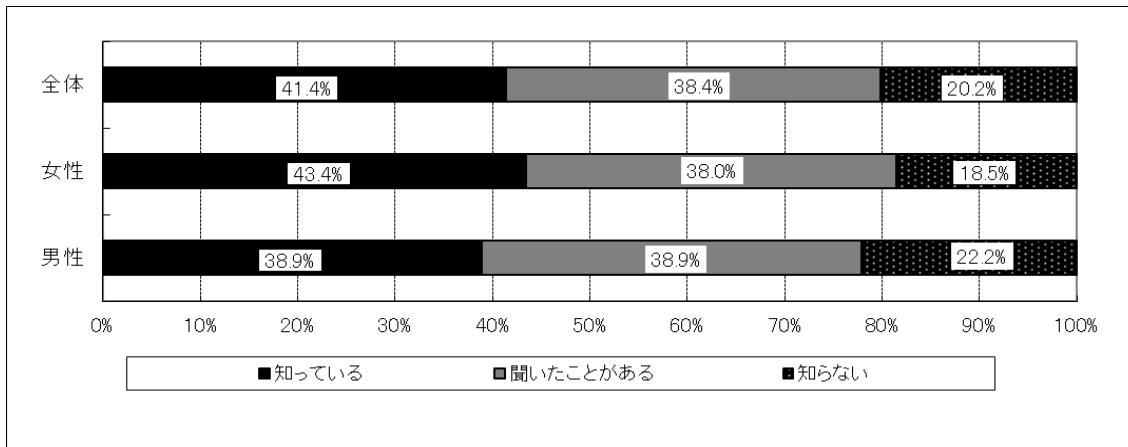
### ② 女子差別撤廃条約



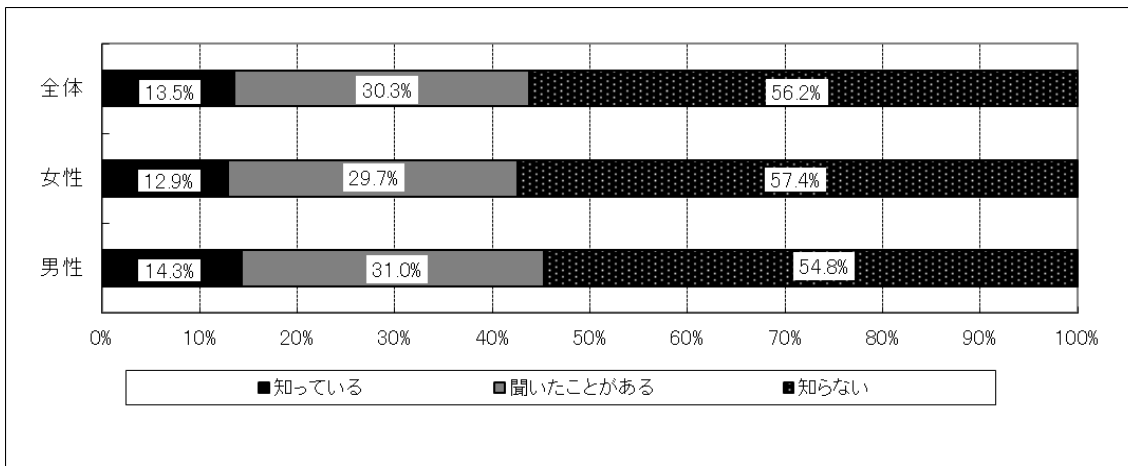
### ③ 男女雇用機会均等法



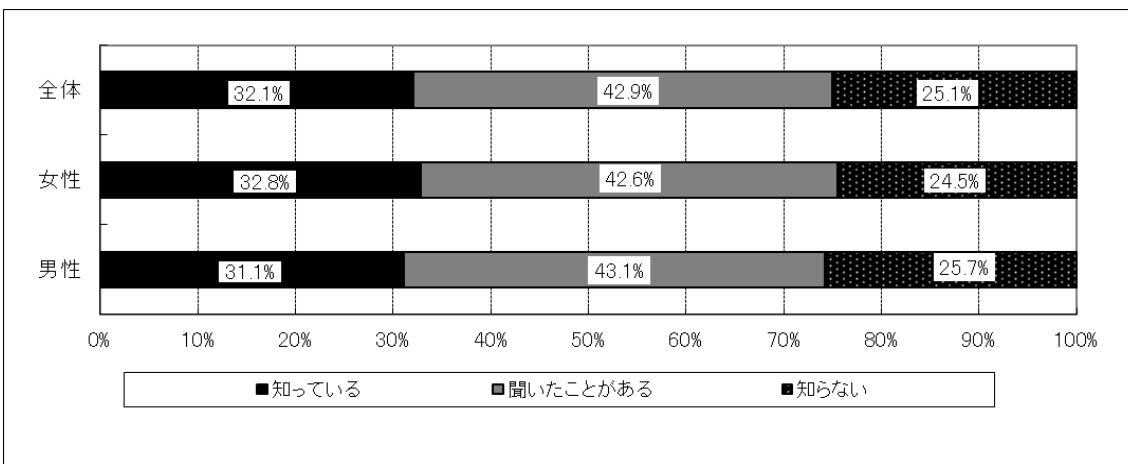
④ 育児・介護休業法



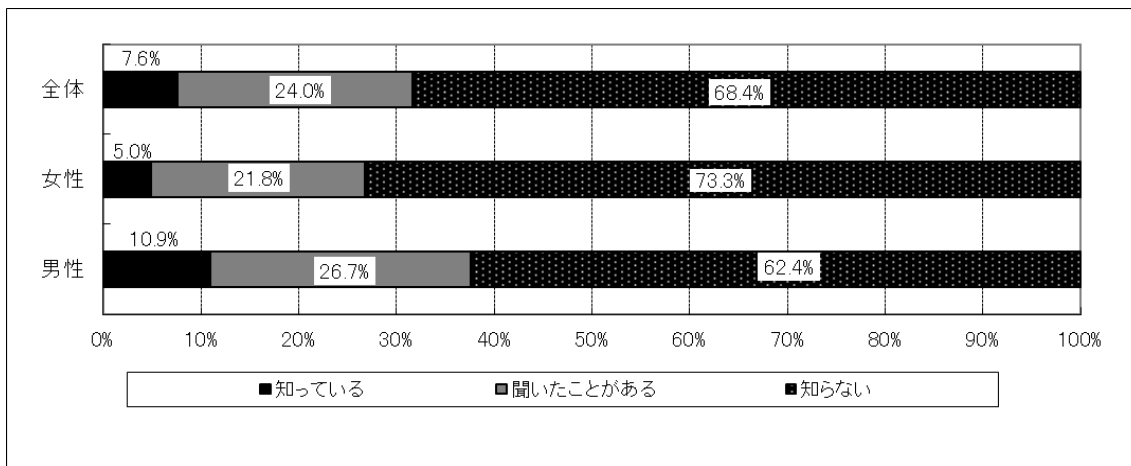
⑤ 女性活躍推進法



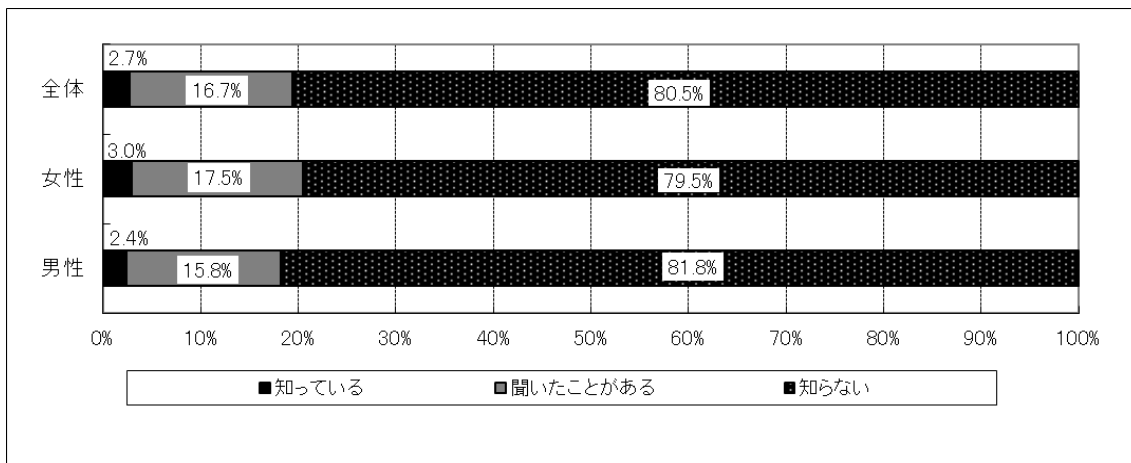
⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)



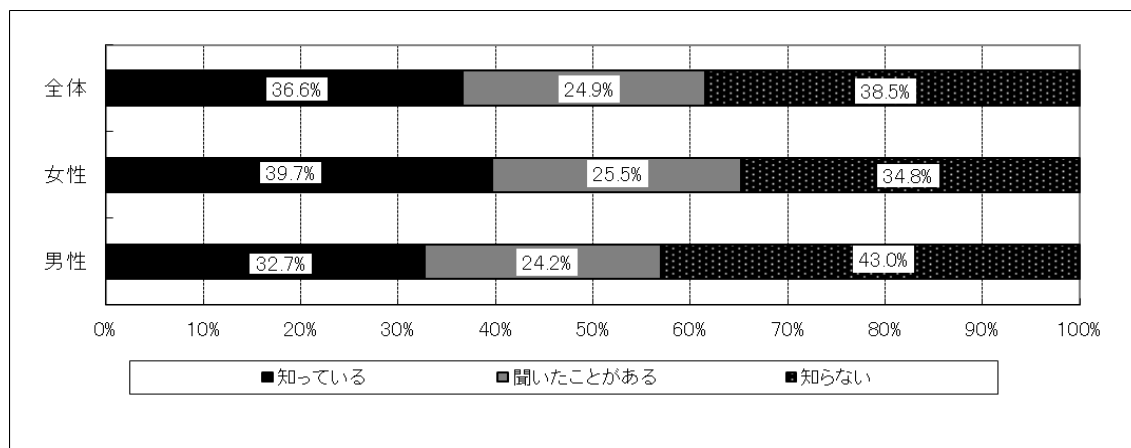
⑦ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律



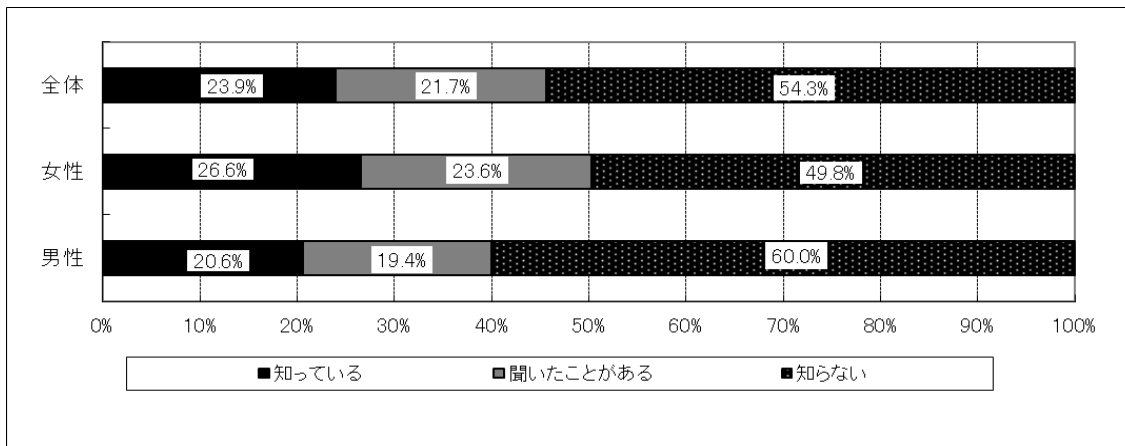
⑧ ポジティブアクション



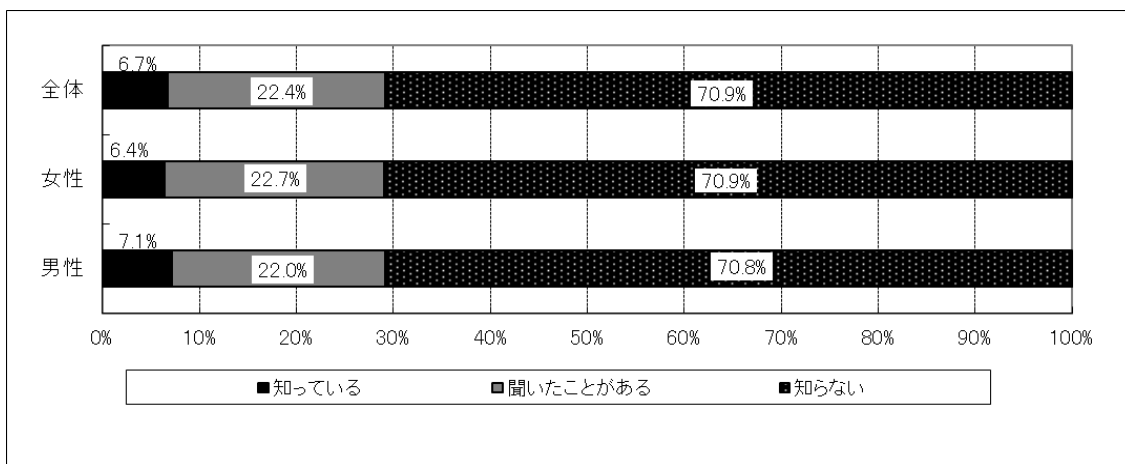
⑨ LGBT



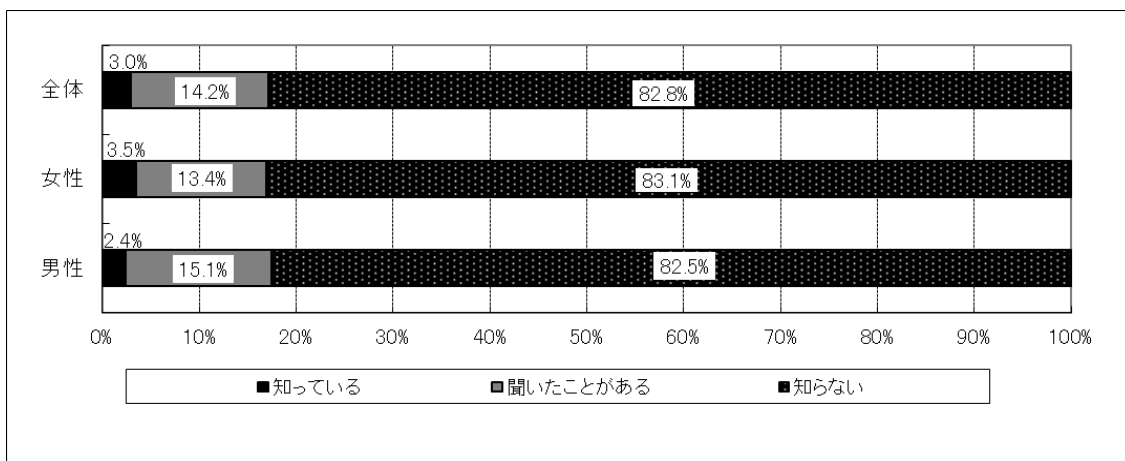
⑩ デートDV



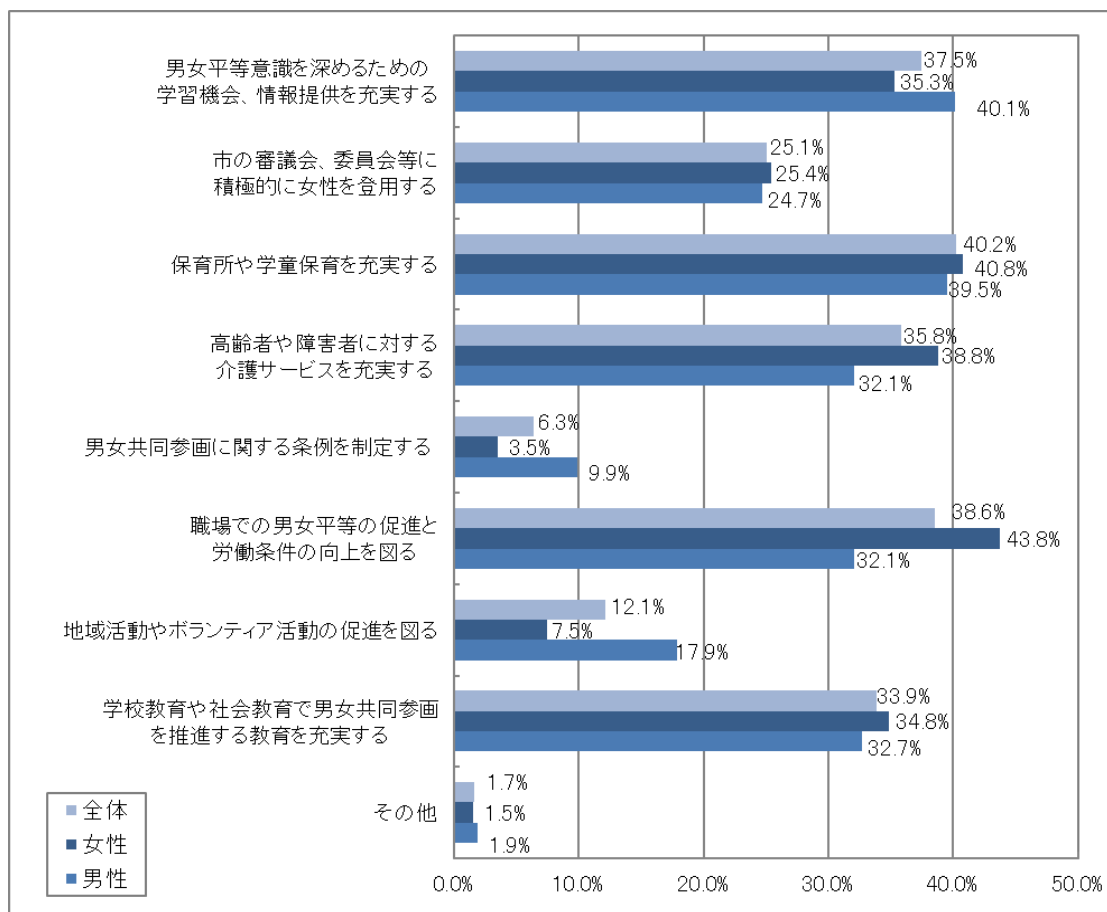
⑪ 桐生市男女共同参画計画



⑫ 桐生市男女共同参画情報紙「はじめよう」



問25 性別にとらわれることなく、誰もが自らの意思であらゆる分野で活躍し、いきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」を実現するために、市は特にどのような取り組みに力を入れる必要があると思いますか。(3つまで選択)



◆全体では、『保育所や学童保育を充実する』と回答した人の割合が40.2%で最も高く、次いで『職場での男女平等の促進と労働条件の向上を図る』(38.6%)、『男女平等意識を深めるための学習機会、情報提供を充実する』(37.5%)の順に高かった。

◆男女別では、女性は、『職場での男女平等の促進と労働条件の向上を図る』と回答した人の割合が43.8%で最も高く、次いで『保育所や学童保育を充実する』が40.8%だった。一方男性は、『男女平等意識を深めるための学習機会、情報提供を充実する』と回答した人の割合が40.1%で最も高く、次いで『保育所や学童保育を充実する』が39.5%だった。



【自由意見】(抜粋)

性別	年代	職業	結婚歴	共働き	家族構成	意見
女	10代	その他	未婚		2世代世帯	学校の校則の中には、桐高のくつ下の色のよう、不平等な校則がある。学生の時、スカートが原則で、真冬に死ぬほど寒い思いを何度もした。(自転車通学だったこともあり)昔からこうだからとかではなく、そういう身近なところから変えていくことが、男女平等の考えを育むのではないかと思います。
女	10代	学生	未婚		2世代世帯	今まで女性が低い立場として扱われてきたのが、最近変わりつつあるが、男女共にすこししやすい社会をつくるには、女性だけでなく男性にも配慮が必要だと思います。女性は法律や社会の目で結構守られていますが、男性はそうではないと私は考えています。例えば最近の過度なセクハラについての報道です。確かにセクハラはいけないことです。でも今の社会の流れでは、男性は女性と関わることが大変なことになってしまうと思います。私のバイト先でも、ちょっと髪型が変わった人に、「髪型いいね」と言っただけで、社員さんは「やべ、セクハラになっちゃう」と言っています。男女共に住みやすい社会をつくるなら、女性への配慮だけでなく、男性への配慮、ケアも必要ではないでしょうか？
女	20代	自営業	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代世帯	なぜか女性だけが家事、育児、場合によっては仕事までするのに対して男性は仕事だけという場合が多い感じがします。それに介護までプラスされる場合もあるので、たまったものではありません。なので、保育施設、介護施設を増やして女性の負担を減らす。男性にもすべてをこなすことがいかに大変かを理解してもらい、有給をとりやすくする。出来る家事は協力してもらうなどをしてもらいたいです。
女	20代	勤め人 (常勤)	未婚		2世代世帯	職場では、女性のキャリアアップを目指す取り組みがだんだんと具体的になり、身近に感じる機会が増え、先輩の声なども共有されているが、まだ、自分のこととして本気で考えるには、たくさんの壁があると感じます。女性で管理職になる人は「特別な人」という印象をなくしていくような取り組みや機会ができるといいです。
男	20代	会社・ 団体役員	既婚 (配偶者有)	共働き	1人世帯	男女ともに仕事が均等で賃金が上がれば、子育てもなにも問題なくなる。
男	20代	無職	未婚		2世代世帯	男女共同参画、特に女性の参画を進めるには、まず女性の数が必要。しかし、桐生市、群馬県は若い女性が沢山他地域へ流出して減っていると以前県のHP、ウェブサイトを見た。そのウェブサイトのデータによると流出の要因の1位は「公共交通が発達していないから」日本全体で人口減の中、「自家用車の運転」が生活に必須では当然激減する。公共交通の利便性向上が男女共同参画には重要だと思う。桐生市は群馬県内の他市と比べ土地が狭いので、その分コンパクトシティ、公共交通の利便性向上は達成しやすいのではと思う。
男	20代	勤め人 (常勤)	未婚		2世代世帯	今回偶然選ばれたため、改めて「男女共同参画」について知ることもあったし考えることもできた。言葉は知っているけど実際は何なのだろうと思い調べてもみた。このアンケートは、受け身ではあるが、半強制的(悪い意味ではない)に考え、答えるものだと思う。こういうものから興味を持つ人もいるだろうとも感じた。教育現場では、学んで自分の考えを述べたり、作文を書いたり受け身→強制的に考えることはあるが、成人すると自発的だったりなどではない限り考えないだろう。実際、このアンケートを作成した人たちも最初は知識がなかっただろうし、この機会に学んだのではないかな。体験、経験を素直に受け入れる人材、学ばせる環境が大切だなと感じました。
女	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代世帯	性別を意識する必要があるという考え方がよくわからない。職場では女性が少なく活躍する場面は少ないと感じる事はあるが、ライフサイクルの中では仕方のない事だと思う。(長時間の勤務は難しいとか、家庭(子供等)を優先する必要がある等)個人の特性によって向き不向きはあるが、それが性別によるものと捉える考え方は偏った見方だと思う。

性別	年代	職業	結婚歴	共働き	家族構成	意見
女	30代	勤め人 (非常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	女性の意見やニーズを聞きに行くことは大事と思う。育児や介護で忙しい人は、政治や地域の活動に参加しにくい場合も多いが、行政の人が支援センターや健診などへ来て、愚痴や困っていることを聞くだけでも目線や意見、ニーズの把握になるはず。愚痴から問題解決につながることはありますが、女性1人でそれができるとは限りません。助けが配慮は必要です。育児が終わった人の声も大事だけど、現在育児中、介護中という人の状況把握が一番大事です。(3年毎3人出産しましたが、日々刻々と変わる育児事情に、いつも心新たに子育てしています。社会の変化が目まぐるしく、3人とも医療や育ての方針も少しずつ変わってきています。男性は、外へ行きやすいけれど、とくに育児中の女性が行ける範囲は限られ、社会参加しづらいのが現状です。役員がやれる状況でもなく、意見はあるけれど、年1回くらいですがタイムスに投稿するのがやっとです。ラインやSNSなどネットは、子供の教育と健康を考えてあまり見ていません。(暇もないし)目が疲れる。)女性の政治参加(市議など)は、市議でない形での参加(サークル、同好会、勉強会)の方が気軽に、参加しやすいです。まずはそこから…。今の桐生には、そういう下地がない。
女	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	片方 労働	2世代 世帯	大学時代、演劇部に所属していたのですが、前橋市からの依頼で男女共同参画の講演会で劇を行ったことがありました。ご年配の方の出席が多かったのですが、若者にも男女共同参画について考える機会があったら良いなと思ったのを覚えています。今は家事ができる男性も多くなってきていると思いますが、仕事の帰りが遅く、できる時間が少ないのが問題です。そして育休を取っている女性に家事育児が重くのしかかり、仕事復帰後もその流れで女性の負担が増えてしまっていると考えます。職場で育休や時短を男性も取りやすい環境を整えてほしいです。フレックスや自宅での仕事を取り入れ、家庭を大切にできる環境ができれば、子育てもしやすくなり、少子化を食い止めることもできるのではないのでしょうか。
女	30代	自営業	既婚 (配偶者有)	片方 労働	2世代 世帯	私は今2歳になる子供を育てています。夫は育児、家事を一切することなくバリバリ働きますが、夜遊びばかりしています。(夜家にいません)私はフルタイムの仕事しながら育児、家事をすべてこなし、本当にヘトヘトです。女性の社会進出が叫ばれていますが、そもそも家事、育児をほとんど任せられて、さらに社会でも働け、介護もしろ、女性らしく、女は家庭…と私たち女はどこまで頑張らなければならないのでしょうか？女性は男性とって都合の良いように利用されてきたこの国の悪しき風習を少しずつでも無くして欲しいです。今日も夫の母親から「男は働いて当然よ。女は家庭を守らなきゃ」と電話口で説教されました。もう本当に限界なんです。
女	30代	勤め人 (常勤)	未婚		2世代 世帯	私たちは義務教育中に、女の子は〇〇ちゃん、男の子は〇〇君だった敬称が、みんな「〇〇さん」と呼ばれるように変化があったことを思い出しました。男性も女性も関係なく社会で活躍できるような街(国)になっていったら良いなとは思いますが、なかなか難しいことだとも感じています。ひとりひとりの意識を変えていかないとイケないかなと思います。
女	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	社会的に男女の雇用機会については平等になりつつあると思うが子供の出産、育児を経験し、女性の雇用、給与が企業により格差があり均等ではないと感じた。特に女性公務員は優遇されているように思う。一般企業との差について、調査し、桐生市独自の働く女性に対するの政策や助成があると、子育てをしている女性は更に活躍できると思う。
女	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	男性が権力を持つ場面が多く、もっと女性が主導権や決定権を持って、男女対等に男女(性別)関係なく、物事を進めていけたら(世の中をよくしていけたら)いいなと思いますが、その一方で、まだまだ重要な場面での意見決定を男性に任せてしまう自分もいます。(大事なことは男の人にお願ひしようという考えがまだ強い)それは私だけでなく、社会全体の意識改革は必要なことなのかもしれません。何でもかんでも男女平等というのは、ありえないので、女性も男性も関係なく、みんなが気持ちよく輝ける社会作りを望みます。育児との両立制度で、男の人と女の人が同じ条件にするのではなく、男の人でも女の人でも子供も安心して働ける、生活できるよう、条例の内容を調整する方がずっといいです。
男	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	1人 世帯	集計結果に対し、どのような対策を取るのかも知りたいです。
男	30代	勤め人 (常勤)	死別 離別		2世代 世帯	興味ある人がどんどん参加したり、男女とか関係なく意見交換すればいいと思う。

性別	年代	職業	結婚歴	共働き	家族構成	意見
男	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	色々和男だから女だからと気にしすぎている。個々人を認めて、尊重すれば争いはなくなるのでは？
男	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	片方 労働	2世代 世帯	男女平等と言われているが、桐生市が目指す男女平等とは何ですか。男性、女性で特性が異なるため、それを活かすような形での男女共同参画が必要だと思います。それぞれの家庭で、ちょうど良い役割分担があることも事実であると考えますので、行政が干渉する必要はあるのかとも思いました。
男	30代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	若い人より、現在、管理職や議員など年配の方の考え方を改めないとうにもならない。その年代の方々が男女共同参画の足かせになっていると感じる。また、社会に参画するのは、仕事をするだけでなく、男女ともに育児や介護も、社会参画の一つであり、すばらしい行いだ。ということ、全員で共通認識し、あたたかく見守る手助けすることが大切であると考えます。
女	40代	勤め人 (常勤)	死別 離別		1人 世帯	今は大分、男女ともに能力がある人が活躍する社会にはなっていると思います。男女関係なく、能力がある人が活躍する社会になれば良いと思う。
女	40代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	職場では、男女の不平等を感じることはないです。それぞれが、自分の立場で仕事に臨んでいると思います。管理職、リーダー的な立場となると、男性の比率が高いですが、本人の希望だったり、状況的な理由だったりするかしらと思います。家庭では、共働きにも関わらず、家事、育児の比は平等とは言い難く、時々ストレスです。おそらく本人は協力しているつもりなので、へそを曲げないように要望を伝えるのが面倒です。でも、どこもこんなものかしらと考え、日々を送っています。
女	40代	会社・ 団体役員	未婚		2世代 世帯	頭の固い年寄ではなく、若い人たちが新しいことをチームを組んで取り組んでいただきたい。令和です。古い考えはいらぬ。
女	40代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	男女の意識を気にすることなく、できる人ができることをする。市民全員で住みやすい桐生を考えていくという意識づけが必要だと思います。
男	40代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	みんなが他人と思いやる気持ちを持つことが良しとされる。世の中の空気が広がる事が良いと思う。多くの人が口にして人と人のかかわりをする事が良い。
男	40代	会社・ 団体役員	既婚 (配偶者有)	共働き	夫婦 のみ	あまり「こうだ！！」と決めない方が良い。人によって、家庭によって違うのだから。決めつけではなく、柔軟性が必要。「女性〇〇%必要」ではなく、能力のある人がトップになればいい。男女関係なく。男女共同参画を上っ面でやると、困る女性も出てくると思う。
男	40代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	夫婦 のみ	男女、個人の能力等差があることを理解すべきでチャンスの拡大を目指すべきかと思ひます。そのために足かせとなるものを取り除くことが必要と思ひます。
男	40代	勤め人 (常勤)	未婚		2世代 世帯	役職における「女性の割合を増やす」努力、取り組みは間違っている。個人の能力が重要であり、性別にとらわれてはいけぬ。
男	40代	会社・ 団体役員	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	・男性の理解不足・職場で女性の立場が向上しない ・首長への女性立候補が少なすぎ ・シニアの男尊女卑の考え方が多い
女	50代	勤め人 (常勤)	未婚		3世代 世帯	自分がかかわっていないこともあって、市の「様々な施策」というものがわかりません。「女性を参加させる」と言葉では言えますが、今までの社会の流れ、市の体制からは方向を切り換えていくのは難しいのでは？「女性」を特別視する考えは、男性が決めているからだと思います。力の差は、それぞれあると思いますが、男、女関係なく意識することなく一緒に行動できる場が出来ることを望みます。事業には参加していませんが、これからも参加できることは、やりたいと思っています。

性別	年代	職業	結婚歴	共働き	家族構成	意見
女	50代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	共働きで両親が不在のため、夫婦でがんばっている人もいれば、(プラス介護の人もあります。)かたや、育休産休自営などで、働いていないのにもかかわらず、家事育児も妻の両親が全て行うことの実家依存となり、家庭が崩壊し離婚をしていることも多く見受けられます。夫の両親がづらい立場の中、静かに子供の幸せのみ考えている方々がいる中、何処か夫の両親にいじめられたという通年の意識のまま、虐げるようなことは、子供の未来、心の成長が心配です。平等というなら、夫妻ともそれぞれの親を大切にしつつ、夫婦ともに尊敬しお互いの家庭に対しても思いやれる心の余裕と成長が必要と思います。また、男女共、身の丈にあった生活の中、学びながら成長することが男女平等へとつながると思います。
女	50代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	女性が社会にでていくためには、家事・育児・介護が足かせになります。家族(夫等)の理解・協力がが必要です。行政の力は不可欠だと思います。啓蒙活動などを通して、男性が子育てや介護のために積極的に休暇を取ってよいと思わせる風潮を作ってほしいです。
女	50代	勤め人 (非常勤)	死別 離別		2世代 世帯	男女共同参画は、女性に対する偏見、軽視が無くならない限り、難しいと思います。とは言うものの具体的にどうしたらと問われると決定的な回答は出来ませんが、私は前述の様に思います。
女	50代	自営業	未婚		1人 世帯	思考と行動が未来へと繋がると思っています。
女	50代	自営業	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	男女共同参画 非常によいことのようにですが、桐生市で積極的にこの事柄に取り組むのなら、市民の意識をそこに向けてることから始める必要があると思う。男はこう、女はこう、根底にある「べき」を排除する取組。市のホームページや市が出している広報、回覧板、新聞チラシなどで、「べき」「くせに」意識をなくそう！呼びかけを始めてみたらよいと思います。中高生に根付いている意識は簡単には変えられないのが実情だと思います。質問の言い回しからも感じられますが、このアンケート作成チームの方の中にもいらっしゃるようです。
女	50代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	片方 労働	夫婦 のみ	言葉で「男女共同参画」で表現するのはカッコイイことであるが、現在の日本は職をもつ女性にとっては、家族(庭)と仕事と両立するのは非常に難しい。その為には職場の理解、子どもを預ける場(でも、預ける場として、質の良い保育所)の充実化をお願いしたい。これからの未来を託す子供達が非常に条件の悪い中、環境の中で育っていくことがどんなにおそろしいことか、食べ物に関してもそうではないのですか。利益目的の中での保育所ではなく、質のよい子供達の為の保育所をつくってください。
女	50代	勤め人 (常勤)	死別 離別		2世代 世帯	男女共同参画が理解できていません。女性が様々な分野に出るという事は家庭、仕事、介護、育児等するべき事が沢山あります。まず進出体制を作っていたらと良いのでは・・・
女	50代	専業 主婦	既婚 (配偶者有)	片方 労働	2世代 世帯	男女共同参画を行う事は難しいと思います。人間は平等です。しかし、男女の違いは必ずあります。身体、精神的、能力... 原点は、男性が出来ること、特化している事、女性が出来ること、特化している事、究極なことと言えば、女性しか出来ない出産があります。特性を活かして生活や仕事に就くことが妥当かと思えます。育児に関しては男性がヘルプすることは良い事だとは思いますが、やはり母性愛に勝るものはないと考えてます。今後も家庭、仕事にうまく役割分担をし、特性を上手く活用していく事に意義があると思います。
男	50代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	夫婦 のみ	桐生市議会議員の男女比の差を縮小を希望します。
男	50代	勤め人 (常勤)	未婚		2世代 世帯	男女共に住みやすい地域になるようにしてください。
男	50代	勤め人 (常勤)	未婚		1人 世帯	とにかく不公平をなくす。平等に活動できる場をつくる。

性別	年代	職業	結婚歴	共働き	家族構成	意見
男	50代	勤め人 (常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	こと議会に関しては、若い人、女性が出にくい環境があるようです。議会ではなかなか決められないのですが、回数や年齢を制限するなど人が入れ替わる機会を増やせた方がいいし、供託金などの制限もそろそろ不要にしてもいいのかと思う。地域の福祉施策はがんばっているが、もっと住民の力を引き出す施策があってもいい。子供食堂ではないが、そこに行けば誰でも食事がとれるような場を育ててもいいし、地域の足を住民どうしで運用できるような仕組みを考えだしてもいい。
女	60代	勤め人 (非常勤)	既婚 (配偶者有)	片方 労働	夫婦 のみ	時代について行くのが大変な年になり、何が何なのかわからない事が多くなり、「男女共同参画」に関する事など考えた事が一度もなく「市民意識調査」に選ばれたことをきっかけに少し学びたいと思う気持ちになりました。
男	60代	勤め人 (非常勤)	既婚 (配偶者有)	共働き	2世代 世帯	女性は仕事に対しては積極的に参画していると思われるが、地域活動や政治活動については、消極的な面が見られます。今後は女性がそのような活動に参画したくなるよう動機付けする事が必要と思います。
女	70代	専業 主婦	既婚 (配偶者有)	-	夫婦 のみ	アンケート形式も一考だと思いますが、各地域の公民館での講座で話を聞く機会を設けたら浸透するのではないかと思います。男女共同参画社会、市民にはなじみが薄いテーマですので活字だけでなく、対話形式ならばもっと充実できることと思います。
女	70代	専業 主婦	既婚 (配偶者有)	-	2世代 世帯	個人個人、出来ることから参加することが良いと思いますが、これも家庭環境や日本の風習がかなり影響することと思います。一人一人の人権を尊び協力できることをする。強要したり、むりじいしてはいけません。幸せを感じる事が大事だと思います。
女	70代	無職	死別 離別	-	1人 世帯	男女共同参画とは、新聞、テレビ、ニュース等で耳にするが、私生活では特に考えた事ないが、桐生市では、女性市議員が一人、さみしいですね。もっと、女性が活躍できると良いですね。
女	70代	無職	死別 離別	-	1人 世帯	男女共同参画は経済優先に考えられる様な気がします。男性女性それぞれの素質があります。結婚し子供を生んで乳飲み子の内に保育園に預け働く女性がありますが「三つ子の魂しい百まで」と云うことわざありますが、せめて1年は産休をとれるようにして、赤ちゃんの「精神的発育」に良い影響を与えて欲しいものです。それには誰にも産後の経済的補てんが必要と思います。子供が増えて行く事が未来が明るくなるのではないのでしょうか？
女	70代	無職	死別 離別	-	1人 世帯	男女平等がよい事だと思いますが、今は〇〇ハラスメント等多くて男性が萎縮してしまう場面があると思います。過渡期なのでしょう。男女共、品位のある人になりリーダーになってもらいたいです。
男	70代	自営業	既婚 (配偶者有)	共働き	夫婦 のみ	子育て環境の改善なくしては、共同参画は難しいと考えます。保育園への送迎など、どちらが担当してもハンディーとなります。難しい課題ですが、充実した社会生活を送るためには取り組みが必要と考えます。
女	80代	無職	既婚 (配偶者有)	両方 無職	夫婦 のみ	女性は生涯続けられる仕事を持つこと。生活の基盤が無ければ立場は弱い。男性と肩を並べて社会に進出するために、女性の負担になっている家事育児、親の介護等家庭で社会で国で支えて欲しいと思います。
男	80代	無職	既婚 (配偶者有)	両方 無職	夫婦 のみ	子を産むのは女性しかできない。産み育てるには経済的うらづけが無くては叶わない。そのため、社会制度上の援助の充実が子供達は国の宝であることに鑑み今後も促進されることを信じて。親一人の給与で育成し、教育を受けよう国家の大計として努力すべきであると考え。子供は母親のぬくもりに育つべきであることを歴史から学ばねばならない。男女共同参画を人間を利用価値から観るのではなく、その目的完遂の一助とすべく人間尊厳の上に構築していただきたく思う。

### **3 參考資料**

## 「男女共同参画に関する市民意識調査」ご協力をお願い

日頃から市政に対し、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

桐生市では、性別にとらわれることなく、誰もが自らの意思によってあらゆる分野で活躍し、いきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」の実現を目指し、「桐生市男女共同参画計画」に沿って様々な施策に取り組んでいます。

このたび、計画の見直しと今後の施策展開の参考とさせていただくため、市民の皆様の日頃の生活や考えについてお伺いする、市民意識調査を実施することにいたしました。

この調査は、満18歳以上の市民の皆様の中から無作為に選ばせていただいた1,200人の方を対象としております。

お寄せいただきました回答は、すべて統計的に処理いたします。個人の考えや名前が公表されることはございませんので、ありのままをご回答ください。また、調査結果は行政の基礎資料として活用させていただくものであり、それ以外の目的には使用いたしません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年6月

桐生市長 荒木 恵司

### ご記入にあたってのお願い

1. この調査は個人を対象としています。封筒のあて名のご本人がご自身の判断でご回答ください。
2. ご記入は、黒ボールペンまたは濃い鉛筆でお願いします。
3. 質問ごとにあてはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。ただし、問4、問11、最終ページの自由記入欄については、直接回答をご記入ください。
4. 回答の数は設問によって異なりますので、各設問の指示に従って回答してください。また、該当する方のみにご回答いただく設問もありますので、ご注意ください。
5. 「その他」にあてはまる場合は、( )内になるべく具体的な内容を記入してください。

※ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに **令和元年7月16日(火)まで**にご投函ください。なお、桐生市市民生活課、両支所市民生活課、又はお近くの公民館へ直接ご提出いただくこともできます。

### 【問い合わせ先】

桐生市 市民生活部 市民生活課 男女共同参画推進・生活係

住 所：〒376-8501 桐生市織姫町1-1

電 話：46-1111 内線317

## 《こちらの調査票を記入後に返送してください》

### あなた自身のことについて

はじめに、あなたご自身について伺います。あてはまる選択肢の番号を○印で囲んでください。

#### F 1 性別 ※ご自身が認識している性別を選んでください。(1つに○)

- |      |      |        |
|------|------|--------|
| 1. 女 | 2. 男 | 3. その他 |
|------|------|--------|

#### F 2 年齢 ※令和元年6月1日現在でお答えください。(1つに○)

- |           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳未満  | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 | 4. 40～49歳 |
| 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 | 7. 70～79歳 | 8. 80歳以上  |

#### F 3 職業等 (1つに○)

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1. 自営業(商工業・農林業・サービス業等)    | 2. 勤め人(常勤の人) |
| 3. 勤め人(パート、アルバイト、嘱託等の非常勤) | 4. 会社・団体役員   |
| 5. 専業主婦・専業主夫              | 6. 学生        |
| 7. 無職                     | 8. その他( )    |

#### F 4 結婚歴 (1つに○)

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1. 既婚(配偶者あり) | 2. パートナーと暮らしている(事実婚) |
| 3. 死別・離別     | 4. 未婚                |

#### F 5 就労について ※F 4で「1」または「2」と回答した方のみお答えください。(1つに○)

- |             |                  |
|-------------|------------------|
| 1. 共働き      | 2. どちらか1人だけ働いている |
| 3. 両方働いていない |                  |

#### F 6 家族構成について (1つに○)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1. 一人世帯          | 2. 夫婦のみ(事実婚含む)     |
| 3. 二世帯世帯(親と子が同居) | 4. 三世帯世帯(親と子と孫が同居) |
| 5. その他( )        |                    |



## I 男女平等意識について

問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたは賛成ですか。反対ですか。(1つに○)

- |       |               |               |
|-------|---------------|---------------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらかといえば反対 |
| 4. 反対 | 5. どちらともいえない  |               |

問2-1 問1で「1」または「2」と回答した方に伺います。その理由は何ですか。(最大3つまで○)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから            |
| 2. 家庭を養うのは男の責任で、子育てや夫の世話、介護は女性の責任だから |
| 3. 子どもの頃からそういった教育をされてきたから            |
| 4. 女性の労働条件が男性よりも不利なことが多いから           |
| 5. 夫婦の役割をはっきり分ける方が仕事も家庭もうまくいくから      |
| 6. 社会全体にそういった風潮があるから                 |
| 7. その他 ( )                           |

問2-2 問1で「3」または「4」と回答した方に伺います。その理由は何ですか。(最大3つまで○)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 誰がどのような役割を担うかは夫婦や家族で決めるものだから      |
| 2. 男女問わず働ける人が働けばよいから                 |
| 3. 家事育児は女性だけの仕事ではなく、男女で分担することが望ましいから |
| 4. 「男は仕事、女は家庭」の考えに縛られていては生活に支障があるから  |
| 5. 世の中には仕事をしたい女性も、家事や育児をしたい男性もいるから   |
| 6. 女性の方が仕事、男性の方が家事・育児に向いているから        |
| 7. その他 ( )                           |

問3 以下の場面における「男女の地位の平等感」について、あなたはどのように思いますか。

(各項目について1つに○)

	非常に男性優遇	どちらかといえば男性優遇	平等である	どちらかといえば女性優遇	非常に女性優遇	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6
② 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
③ 職場	1	2	3	4	5	6

	非常に 男性優遇	どちらか といえば 男性優遇	平等 である	どちらか といえば 女性優遇	非常に 女性優遇	わから ない
④ 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 政治の場	1	2	3	4	5	6
⑥ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑦ 社会通念・慣習・ しきたりなど	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

**問4 問3の①～⑧について、「1」「2」「4」「5」のいずれかを回答した方に伺います。**

あなたは特にどのようなことについて、男性優遇または女性優遇であると感じますか。具体的にご記入ください。

## II 結婚観・家庭生活について

**問5 以下の結婚や子どもに関する考え方について、あなたはどのように思いますか。**

(各項目について1つに○)

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう 思わない	わから ない
① 結婚は個人の自由だから、しても しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 結婚しても、必ずしも子どもを もつ必要はない	1	2	3	4	5
③ 結婚したら、自分自身のこと より家族を中心に考えて生活 したほうがよい	1	2	3	4	5
④ 結婚しても、うまくいかな ければ、離婚してもよい	1	2	3	4	5

**問6 あなたは子育てについてどのように考えますか。(1つに○)**

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 男女わけへだてなく育てるのがよい | 2. 男は男らしく、女は女らしく育てるのがよい |
| 3. わからない            | 4. その他 ( )              |

**問7 現在結婚し、夫婦が同居している方のみお答えください。(事実婚含む)**

以下のことについて、あなたの家庭では、どのように役割分担していますか。(各項目について1つに○)

	主に夫	主に妻	夫婦同じくらい	その他の人	該当なし
① 食事のしたく・片づけ	1	2	3	4	5
② そうじ	1	2	3	4	5
③ 洗濯	1	2	3	4	5
④ ゴミ出し	1	2	3	4	5
⑤ 育児	1	2	3	4	5
⑥ 学校関連行事への参加	1	2	3	4	5
⑦ 家族の看護・介護	1	2	3	4	5
⑧ 町内会など地域の活動への参加	1	2	3	4	5
⑨ 生活費を稼ぐ	1	2	3	4	5
⑩ 家計管理	1	2	3	4	5
⑪ 家の中の簡単な修理	1	2	3	4	5

**III 仕事・職場について**

**問8 あなたが職場で男女平等ではないと思うのはどのようなことですか。(当てはまるものすべてに○)**

- |                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 1. 賃金             | 2. 昇進や昇格の機会            |
| 3. 重要度の高い仕事の分担    | 4. 研修や仕事の機会            |
| 5. 募集・採用          | 6. 指導的地位(管理職など)への就きやすさ |
| 7. 子育てや介護のための休暇取得 | 8. 時間外などの労働時間          |
| 9. 転勤や配置転換        | 10. 仕事をしていないのでわからない    |
| 11. その他 ( )       |                        |

**問9 あなたは女性が社会で働くことについて、どのように考えますか。(1つに○)**

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事は持ち続けたほうがよい
2. 結婚するまでは仕事をするが、結婚したら仕事は辞めたほうがよい
3. 出産するまでは仕事をするが、出産したら仕事は辞めたほうがよい
4. 結婚や出産で一時的に仕事を辞めるが、子どもが大きくなったら再び仕事を持つほうがよい
5. 女性は仕事をもたないほうがよい
6. その他 ( )

**問10 あなたは、女性が結婚・出産後も仕事を続けたり、再就職するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(最大3つまで○)**

1. 家族で家事・育児・介護などについて協力すること
2. 育児や介護が必要なときは、友人や知人に協力してもらうこと
3. 保育所や学童保育、老人ホームの整備や介護サービスなどを充実すること
4. 職場での育児休暇や介護休暇を取りやすい体制や雰囲気形成すること
5. 職場での上司や同僚の理解・協力
6. 男性の育児休暇取得
7. 能力向上のための研修などの機会を充実させること
8. フレックスタイムや在宅勤務など柔軟な働き方ができること
9. 再就職のための研修や相談の機会があること
10. わからない
11. その他 ( )

**IV ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について**

**問11 以下の①～⑧について、あなたは1日あたりどのくらいの時間を費やしていますか。平日と休日について、それぞれ平均的な1日を思い浮かべてお答えください。**

**<平日>**

① 仕事	_____ 時間	② 家事	_____ 時間
③ 育児	_____ 時間	④ 介護	_____ 時間
⑤ 家族との時間	_____ 時間	⑥ 自分の時間	_____ 時間
⑦ 友人・恋人との時間	_____ 時間	⑧ 地域活動	_____ 時間

<休日>

① 仕事	_____	時間	② 家事	_____	時間
③ 育児	_____	時間	④ 介護	_____	時間
⑤ 家族との時間	_____	時間	⑥ 自分の時間	_____	時間
⑦ 友人・恋人との時間	_____	時間	⑧ 地域活動	_____	時間

問 12 あなたが今最も確保したい時間は、以下のうち、どの時間ですか。また、その時間を確保するために必要なのはどのようなことだと思いますか。

<最も確保したい時間> (1つに○)

1. 仕事	2. 家事	3. 育児	4. 介護
5. 家族との時間	6. 自分の時間	7. 友人との時間	8. 地域活動

<その時間を確保するために必要なこと> (最大3つまで○)

1. 夫や妻、パートナーの理解・協力	2. 父母などの協力
3. 労働時間の短縮	4. 職場の理解
5. 休暇の取りやすさ	6. 昇給
7. 家事代行サービスなどの活用	8. 子どもの成長・独立
9. 一緒に活動する仲間を作ること	10. 効率の良い時間の使い方を身に付けること
11. その他 ( _____ )	

問 13 平成 28 年度の総務省の調査によると、日本の 6 歳未満の子どもを持つ夫婦の 1 日当たりの育児・家事関連時間の割合は、妻：夫＝7：1 であり、他の先進国と比較しても、妻の負担が非常に重くなっている状況にあります。あなたは、男性が家事、育児、介護などを行うためには、どのようなことが必要だと思いますか。 (最大3つまで○)

1. 男性が家事や育児、介護などを行うことに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 夫婦やパートナー間、家族間でのコミュニケーションをよく行うこと
3. 男性が家事や育児、介護などを行うことに対する職場の理解が進むこと
4. 労働時間の短縮や休暇を取りやすくし、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
5. 男性が家事・育児・介護などについて学ぶ機会を得て、技能を向上させること
6. 男性が育児や介護、地域活動を行うための仲間（ネットワーク）を作ること
7. フレックスタイムや在宅勤務など柔軟な働き方ができること
8. わからない
9. その他 ( _____ )

## V 社会参画について

問 14 あなたは、現在、どのような地域活動や社会活動に参加していますか。(当てはまるものすべてに○)

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1. 自治会・婦人会などの地域活動 | 2. P T Aや育成会の役員、委員  |
| 3. ボランティア活動       | 4. 行政の審議会や委員会などへの参画 |
| 5. 政治に関わる活動       | 6. 趣味や教養、スポーツなどの活動  |
| 7. 活動していない        | 8. その他 ( )          |

問 15 問 14 で「7」と回答した方に伺います。活動しない主な理由は何ですか。(最大3つまで○)

- |                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| 1. 仕事が忙しいから     | 2. 家事や育児、介護で忙しいから         |
| 3. 人と関わるのが面倒だから | 4. プライベートで責任のある職を担いたくないから |
| 5. 興味が無いから      | 6. 参加の仕方がわからないから          |
| 7. 知識や経験がないから   | 8. その他 ( )                |

問 16 大震災等の経験から、近年、防災・災害対策における男女共同参画の重要性が高まっています。

防災・災害対策について、あなたの考えに近いものを選んでください。(最大3つまで○)

- |   |
|---|
| 1. 防災訓練や研修に男女ともに積極的に参加することが必要               |
| 2. 女性消防団員や防災士等の育成や役員への女性登用が必要               |
| 3. 自治会等の自主防災組織に女性が増えることが必要                  |
| 4. 防災計画に男女両方の視点を反映するため、市の防災会議に女性委員を増やすことが必要 |
| 5. 男女別のニーズに配慮した、避難所などの運営マニュアルを作成することが必要     |
| 6. 避難生活施設の運営に男女両方の視点が入ることが必要                |
| 7. 防災や災害に関することは危険なので、男性だけが参加すればよい           |
| 8. その他 ( )                                  |

## VI 女性の活躍推進について

問 17 今後女性が増えてほしいと思う職業や役職は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

1. 都道府県、市区町村の首長	2. 国会議員、県議会議員、市区町村議会議員
3. 国家公務員や地方公務員の管理職	4. 弁護士、裁判官、検察官
5. 医師	6. 学校の校長・教頭、大学の教授
7. 国連などの国際機関の管理職	8. 民間企業の管理職
9. 企業家や経営者	10. 労働組合の幹部
11. 農業委員や農協の役員	12. 自治会長、区長、町会長など地域の役員
13. その他 ( )	

問 18 桐生市では各種委員会等の女性の割合を30%以上にするを目標していますが、現状は22%程度に留まっています。桐生市の各種委員会など、政策や意思決定の場への女性の参画をさらに進めていくために、あなたは、特にどのようなことが大切だと思いますか。(当てはまるものすべてに○)

1. 女性議員を増やす	2. 男女比が偏らないよう割当制などにする
3. 女性が各分野で活躍し実績を上げる	4. 女性の活躍を促す学習機会を増やす
5. 企業や行政で女性管理職を増やす	6. 自治会や地域の活動の長、役員に女性を増やす
7. 団体の代表や役員に女性を増やす	8. 女性自身が積極的に参画する
9. 家族や周りの人たちの協力と理解	10. 女性が参画しなくても問題ない
11. その他 ( )	

## VII 人権について

問 19-1 あなたはこれまでに、夫や妻、パートナーなどの親しい関係の相手に、次のような暴力をふるったことはありますか。(各項目について1つに○)

	繰り返し 何回もある	1度か2度 ある	ない
① 身体的な暴力 (殴る、蹴る、ものを投げつける、突き飛ばす、刃物で脅す等)	1	2	3
② 精神的な暴力 (脅す、人格を否定する、無視する、行動を監視する等)	1	2	3
③ 性的な暴力 (性行為や中絶の強要、避妊に協力しない、ポルノを見せる等)	1	2	3
④ 経済的な暴力 (生活費を渡さない、働くことを妨害する等)	1	2	3

**問 19-2 あなたはこれまでに、夫や妻、パートナーなどの親しい関係の相手から、次のような暴力を受けたことはありますか。**（各項目について1つに○）

	繰り返し 何回もある	1度か2度 ある	ない
① 身体的な暴力 （殴る、蹴る、ものを投げつける、突き飛ばす、刃物で脅す等）	1	2	3
② 精神的な暴力 （脅す、人格を否定する、無視する、行動を監視する等）	1	2	3
③ 性的な暴力 （性行為や中絶の強要、避妊に協力しない、ポルノを見せる等）	1	2	3
④ 経済的な暴力 （生活費を渡さない、働くことを妨害する等）	1	2	3

**問 20 問 19-2で「1」または「2」と回答した方に伺います。そのことをどこか（誰か）に相談しましたか。**（当てはまるものすべてに○）

1. 警察	2. 公的な相談機関（女性相談センター等）
3. 民間の相談機関	4. 弁護士やカウンセラー
5. 医療関係者（医師・看護師など）	6. 家族や親戚
7. 友人・知人	8. どこ（誰）にも相談しなかった
9. その他（	）

**問 21 問 20で「8」と回答した方に伺います。どこ（誰）にも相談しなかったのはなぜですか。**

（当てはまるものすべてに○）

1. 相談先が分からなかったから	2. 身近に相談できる人がいなかったから
3. 誰にも知られたくなかったから	4. 相談するほどでもなかったから
5. 自分が我慢すればいいと思ったから	6. 相談しても無駄だと思ったから
7. 周りの人に迷惑をかけたくなかったから	8. 自分にも悪いところがあったから
9. 暴力について思い出したくなかったから	10. その他（
	）



問 22 あなたは、これまでに職場、地域、学校などで次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）を受けたことがありますか。（各項目について1つに○）

	受けたことがある	受けたことがない
① 好まない性的な話を聞かされた	1	2
② 容姿について傷つくことを言われた	1	2
③ 「女のくせに」、「男のくせに」と性差別的な言い方をされた	1	2
④ お酒の席でお酌やデュエットを強要された	1	2
⑤ 不必要に体を触られた	1	2
⑥ しつこく交際や性的な関係を強要された	1	2
⑦ 交際や性的な関係を拒否したら、いやがらせをされた	1	2
⑧ 結婚や出産などプライベートなことについてたびたび聞かれた	1	2
⑨ その他（ ）	1	2

問 23 あなたは、これまでに次のような差別や人権侵害を受けた経験はありますか。

（当てはまるものすべてに○）

1. 子供へのいじめ・虐待	2. 女性に対する差別
3. 障害のある人に対する差別	4. 高齢者に対する差別
5. 外国籍の人に対する差別	6. LGBTなどの性的少数者に対する差別
7. 同和地区出身者に対する差別	8. HIV感染者・エイズ患者に対する差別
9. その他（ ）	

## VIII 男女共同参画施策について

問 24 あなたは、次の言葉や法律、市の事業などについて見たり聞いたりしたことがありますか。

(各項目について1つに○)

	知っている	聞いたことがある	知らない
① 男女共同参画社会基本法	1	2	3
② 女子差別撤廃条約	1	2	3
③ 男女雇用機会均等法	1	2	3
④ 育児・介護休業法	1	2	3
⑤ 女性活躍推進法	1	2	3
⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3
⑦ 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
⑧ ポジティブアクション	1	2	3
⑨ LGBT	1	2	3
⑩ デートDV	1	2	3
⑪ 桐生市男女共同参画計画	1	2	3
⑫ 桐生市男女共同参画情報紙「はじめよう」	1	2	3

問 25 性別にとらわれることなく、誰もが自らの意思であらゆる分野で活躍し、いきいきと暮らすことのできる「男女共同参画社会」を実現するために、市は特にどのような取り組みに力を入れる必要があると思いますか。(最大3つまで○)

1. 男女平等意識を深めるための学習機会、情報提供を充実する
2. 市の審議会、委員会等に積極的に女性を登用する
3. 保育所や学童保育を充実する
4. 高齢者や障害者に対する介護サービスを充実する
5. 男女共同参画に関する条例を制定する
6. 職場での男女平等の促進と労働条件の向上を図る
7. 地域活動やボランティア活動の促進を図る
8. 学校教育や社会教育で男女共同参画を推進する教育を充実させる
9. その他 ( )

◆ 最後に、男女共同参画に関するご意見がありましたら、お聞かせください。

[Empty space for providing comments]

記入済の調査票は返信用の封筒に入れ、切手を貼らずに 7月16日(火)までに ご投函ください。  
桐生市市民生活課・両支所市民生活課、又はお近くの公民館へご提出いただくこともできます。

\* 集計結果は後日、桐生市ホームページでお知らせする予定です。

ご協力どうもありがとうございました \*